

令和3年度  
東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査

調査報告書

令和4(2022)年3月

環境省自然環境局生物多様性センター



## 要 約

### 目的

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う津波等（以下「東日本大震災」という。）は、東北地方太平洋沿岸を中心とする地域の自然環境、生活環境、社会環境に極めて大きな影響を与えた。本調査では、東日本大震災による自然環境への影響が特に顕著であった東北地方太平洋沿岸地域等において、干潟（7サイト）、藻場（2サイト）の調査を行うとともに、地震等による自然環境等への影響を把握することを目的とした。

### 調査結果

#### (1) 干潟調査

定性及び定量調査を行い、底生生物の出現の有無を記録した。万石浦サイトにおいて、底生生物の出現種数は、東日本大震災前よりも減少した【102種から60種】。個体数も2012年の調査結果の約35%程度であった。津軽石川河口、松島湾、広浦および鳥の海サイトでは、底生生物の出現種数は、東日本大震災前より増加した【津軽石川河口：41種から58種、松島湾サイト：64種から103種、広浦サイト：42種から55種、鳥の海：56種から60種】。個体数は、2012年の調査結果と比べ、津軽石川河口サイト、松島湾サイトで約1.6倍、広浦サイトで約2.2倍となった一方、鳥の海サイトでは半数程度となっていた。これらの結果から、全体的にみると、個体数はサイトによってばらつきがあるものの、出現種数は、東日本大震災前から調査を行っている5地点のうち、4地点で震災直後（2012年）の減少からの回復傾向となっていた。

東日本大震災前は干拓地であった小友浦（2013年から調査開始）や、東日本大震災前の状態は不明なものの、2015年から調査地に加えた鮫川では、多種多様な底生生物種が継続的に確認されており【小友浦：65種、鮫川：108種】、いずれも重要な干潟であると考えられた。

#### (2) 藻場調査

三陸海岸（山田湾）、女川湾サイトにおいて調査を実施した。方形枠及びライン調査を行い、出現する海藻種及び被度を記録した。調査の結果、大型褐藻類は、三陸海岸（山田湾）サイトではヒジキ、女川湾サイトではアカモク（芽生え）が確認された。両サイトともに2012～2015年にはみられなかったマコンブは、本調査においても確認されなかった。

## Summary

### Purpose of the project

The earthquake and ensuing tsunami that occurred on March 11, 2011 off the Pacific coast of Japan's Tohoku region (hereinafter "the Great East Japan Earthquake" or "the disaster") had an enormous impact on the natural environment, people's lives, and the social environment along the Pacific coast of the Tohoku region and elsewhere. The purpose of this project was to survey tidal flats (7 sites) and seaweed beds (2 site) in the Pacific coastal areas of the Tohoku region—where the impact of the Great East Japan Earthquake on the natural environment was particularly severe—and to gauge the impact of the earthquake and tsunami on the natural environment in the region.

### Survey results

#### (1) Survey of tidal flats

Qualitative and quantitative surveys were conducted to record the occurrence of benthic organisms. At the Mangokuura site, the number of benthic species was less than before the disaster [post-disaster decreases from 102 to 60 species]. The percentage of individual organisms was approximately 35 percent of the levels found in the 2012 survey. The number of benthic species at the Tsugaruishi River, the Matsushima Bay, the Hiroura and the Torinoumi sites was higher than before the disaster [from 41 species to 58 species at the Tsugaruishi River, from 64 to 103 at the Matsushima Bay, from 42 to 55 at the Hiroura and from 56 to 60 at the Torinoumi]. Compared to the 2012 survey, the number of individual organisms was approximately 1.6 times greater at the Tsugaruishi River and the Matsushima Bay sites and 2.2 times greater at the Hiroura site, while approximately half as many at the Torinoumi site. These findings revealed that, at the 4 out of the 5 sites surveyed this year, the number of species has been on a continued recovery trend since 2013, rebounding from a drop right after the disaster (2012), although the numbers of individual organisms varied from site to site.

Furthermore, a great diversity of benthic species continued to be found at the Otomoura and the Samegawa sites [65 species at the Otomoura, and 108 species at the Samegawa], though benthic fauna at the sites prior to the disaster were unknown. Both were thus regarded as important tidal flats. The Otomoura site was reclaimed land before the disaster and surveys there commenced in 2013. Surveys commenced at the Samegawa site in 2015.

#### (2) Survey of seaweed beds

Surveys were conducted at the Yamada Bay and the Onagawa Bay sites. The species of seaweed occurring and their respective coverage rates were recorded, using the quadrat and line transect surveys. The surveys found brown macroalgae, *Sargassum fusiforme* at the Yamada Bay site and seedlings of *Sargassum horneri* at the Onagawa Bay site. However, *Saccharina japonica*, which was not seen on both sites between 2012 and 2015, was again not found in these surveys.

# 目 次

## 要約 (Summary)

1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の概要	1
2.1. 調査対象サイト	1
2.2. 調査体制及び調査実施状況	4
2.3. 調査方法	6
3. 調査結果	7
3.1. 干潟調査	8
3.2. 藻場調査	58
参考資料 1 生態系監視調査 (定点調査) アマモ場・藻場・干潟 調査マニュアル	
参考資料 2 生態系監視調査データシート	
参考資料 3 干潟調査 (参考情報)	



## 1. 調査の背景と目的

環境省生物多様性センターでは、東北地方太平洋沿岸地域を含む全国的な調査として、自然環境保全法第4条に基づく「自然環境保全基礎調査」を昭和48年（1973年）から、また、「第二次生物多様性国家戦略」に基づく「重要生態系監視地域モニタリング事業」（通称：モニタリングサイト1000）を平成15年（2003年）から実施してきており、東日本大震災発生以前の東北地方太平洋沿岸地域の自然環境の状態が記録されている。

本調査では、特に東北地方太平洋沿岸地域において、主に東日本大震災の影響を受けたと思われる、干潟、アマモ場、藻場について、東日本大震災による自然環境等への影響把握、今後の継続的なモニタリングに向けたベースラインの把握及び自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト1000等で把握された東日本大震災発生以前の状況と比較することにより、東日本大震災の影響及び東日本大震災以降の変化状況の把握を目的とした。

## 2. 調査の概要

### 2.1. 調査対象サイト

本業務では、東北地方太平洋沿岸地域における干潟、藻場を調査対象とした。調査は青森県から千葉県までを対象範囲とし、調査対象サイトは以下のとおりである（図1-1、図1-2）。ただし、今年度はアマモ場に関する調査は行っていない。

#### (1) 干潟調査

平成14年度～平成18年度に実施した、第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査（干潟調査）（以下、「第7回基礎調査（干潟調査）」という。）における調査サイトのうち、モニタリングサイト1000沿岸域調査による調査サイト（福島県の松川浦サイト）を除く18サイト（平成25年度に広田湾（小友浦）、平成27年度に鮫川、夏井川を追加）を対象としている。今年度は津軽石川河口、広田湾（小友浦）、万石浦、松島湾、広浦、鳥の海、鮫川の7サイトで調査を実施した。

#### (2) 藻場調査

平成14年度～平成18年度に実施した、第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査（藻場調査）（以下、「第7回基礎調査（藻場調査）」という。）における調査サイトのうち、モニタリングサイト1000沿岸域調査による調査サイト（宮城県の志津川サイト）を除く4サイトを対象としている。今年度は三陸海岸（山田湾）、女川湾の2サイトで調査を実施した。



図 1-1 生態系監視調査における干潟調査の対象サイト



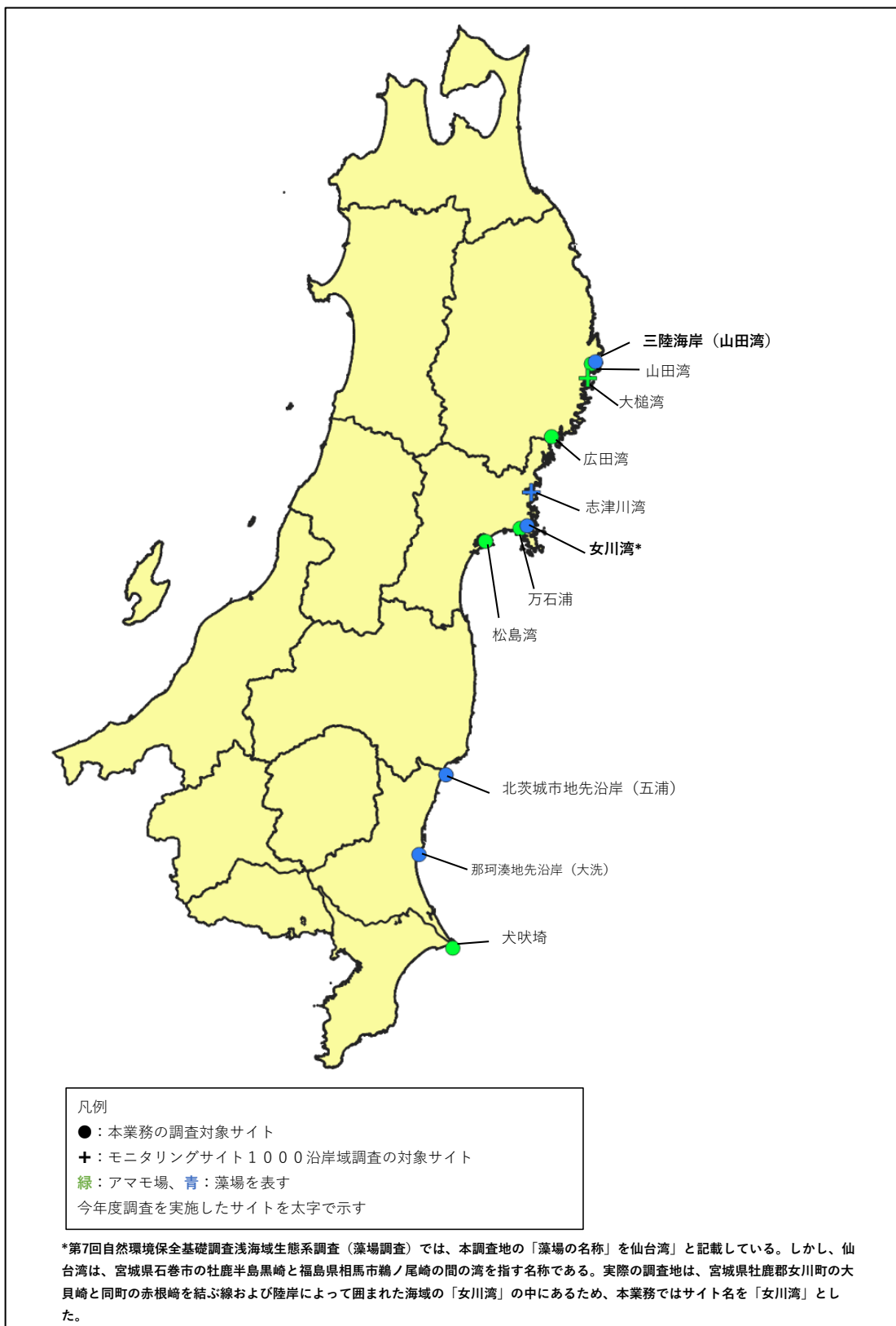


図 1-2 生態系監視調査におけるアマモ場、藻場調査の対象サイト

## 2.2. 調査体制及び調査実施状況

生態系監視調査の実施体制を図 1-3 に、また、生態系監視調査における各調査サイト代表者と所属、実施時期を表 1-1 に示した。

本業務の請負事業者は調査事務局として、干潟、藻場の専門家・専門団体への調査実施依頼、調査内容・方法等の調整（調査マニュアルの作成）、調査のための諸手続、調査結果の集計・とりまとめ等を行なった。

干潟、藻場調査については、平成 14 年度～平成 18 年度に実施した第 7 回基礎調査（干潟調査）及び第 7 回基礎調査（藻場調査）において、本業務の調査対象サイトと同一サイトの調査を担当した有識者に、本調査における各サイトの代表者として調査参画を依頼した。

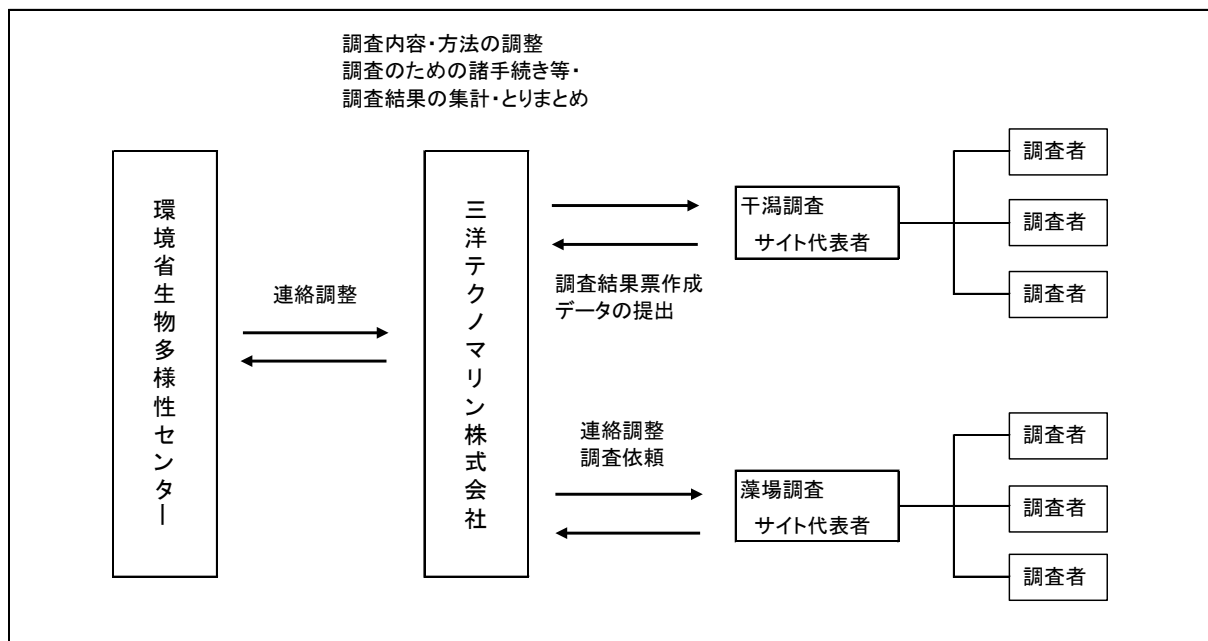


図 1-3 生態系監視調査（干潟、藻場）の実施体制

表 1-1 生態系監視調査（干潟、藻場）の実施状況

サイト名		サイト代表者	調査日 (2021年)
干潟	宮古湾津軽石川河口	松政 正俊 (岩手医科大学・全学教育推進機構・ 教養教育センター・生物)	7月22日
	広田湾(小友浦)		8月9日
	万石浦	鈴木 孝男(みちのくベントス研究所)	7月10日
	松島湾		7月11~12日
	広浦		6月12日
	鳥の海		6月13~14日
	鮫川河口	金谷 弦(国立環境研究所)	8月10~11日
藻場	三陸海岸(山田湾)	田中 次郎(東京海洋大学名誉教授)	10月29日
	女川湾		9月14日

### 2.3. 調査方法

本調査は干潟、アマモ場、藻場について、東日本大震災による自然環境等の現況を把握し、自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト 1000 調査等で把握されている東日本大震災発生以前の状況と比較すること、また、今後の変化状況を明らかにすることを目的としている。

東日本大震災の影響が及んだ地域は広範囲にわたっており、各調査の対象サイトの立地条件等によって東日本大震災後の自然環境の状況が様々なことが想定されたため、可能な限り多くのサイトで調査を実施することが望ましいが、その一方で、例えば地盤沈下による干潟の水没等の自然条件や、被災した地域社会の状況等から調査が困難な場所が多いことも想定された。

そのため、本調査は「モニタリングサイト 1000 沿岸域調査モニタリングマニュアル」の実施を基本としつつ、特に干潟調査、藻場調査については各調査のサイト代表者に、東日本大震災後の各調査対象サイトの自然環境や地域社会の状況、調査の基本的な考え方や効率的で実現可能な調査項目・調査方法・調査体制等について助言を受けつつ、平成 27 年度に作成された本調査の調査マニュアル（参考資料 1）に従い調査を実施した。

各調査方法を以下に示す。ただし、今年度はアマモ場に関する調査を実施しなかったため、それらの調査の方法は掲載していない。

### 3. 調査結果

今年度、本業務で実施した干潟、藻場調査の結果を以下にまとめる。ここではサイト毎に概要を掲載し、詳細な調査結果データ等は、各サイトのデータシートに掲載する（参考資料2）。

#### 3.1. 干潟調査

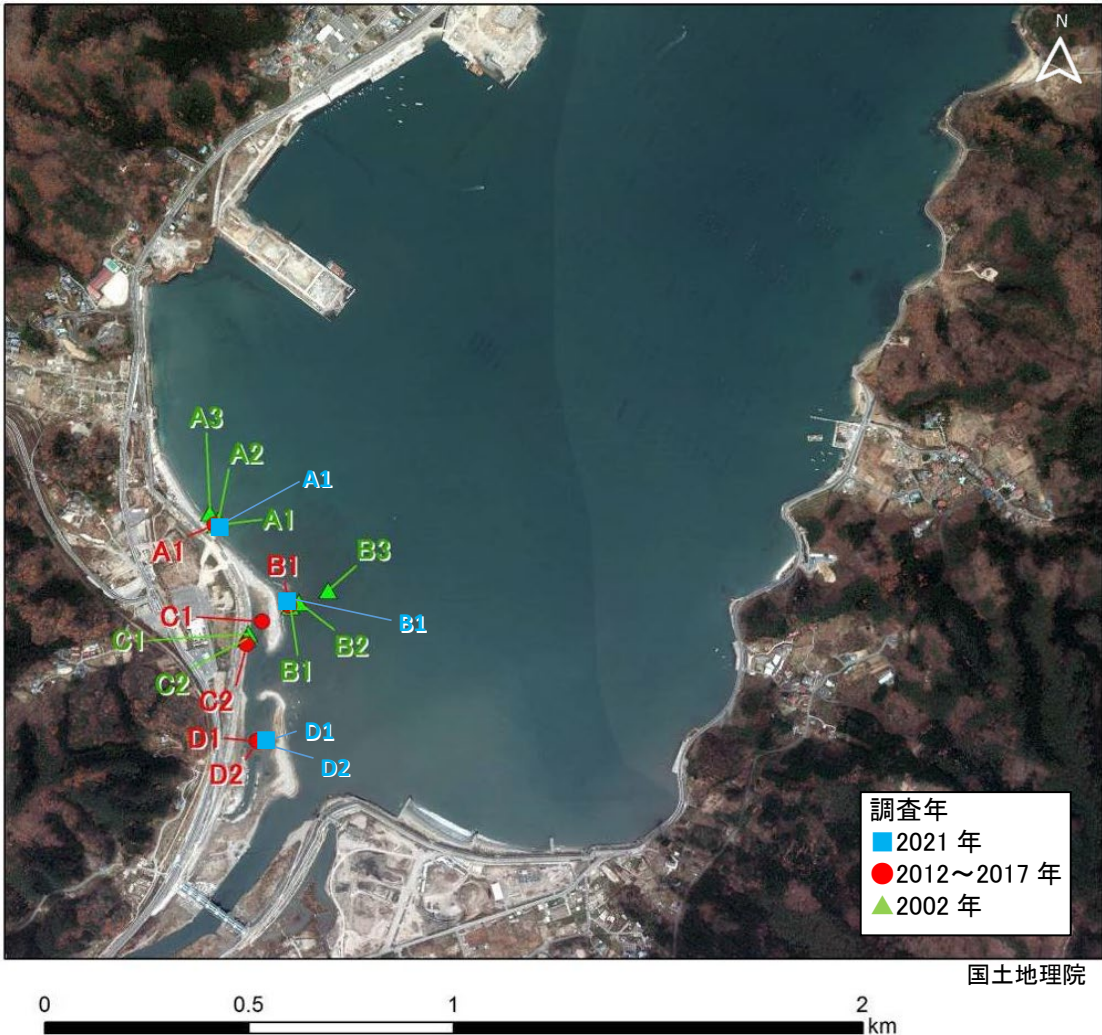
- 1) 宮古湾 津軽石川河口
- 2) 広田湾（小友浦）
- 3) 万石浦
- 4) 松島湾
- 5) 広浦
- 6) 鳥の海
- 7) 鮫川河口

#### 3.2. 藻場調査

- 1) 三陸海岸（山田湾）
- 2) 女川湾

3.1. 干潟調査

1) 宮古湾津軽石川河口

(1) サイト名	津軽石川河口	略号	TFMYK
(2) 調査地の所在	岩手県宮古市		
 <p>調査年  <span style="color: blue;">■</span> 2021 年  <span style="color: red;">●</span> 2012~2017 年  <span style="color: green;">▲</span> 2002 年</p> <p>国土地理院</p>			
<p>■は、生態系監視調査（2021 年）による調査地で、四角内に調査地点がある。                  ●は、生態系監視調査（2012~2017 年）による調査地で、円内に調査地点がある。                  ※2015 年は定性調査のみ実施。                  ▲は、第 7 回基礎調査（干潟調査）（2002 年）による調査地点を表す。</p>			
(3) 緯度・経度 (WGS84) *今年度実施無、 2014 年以降 D エリ アに調査地点変更	A1(潮間帯上部): 39.5935° N、141.9468° E B1(潮間帯中部): 39.5916° N、141.9438° E *C1(潮間帯中部): 39.5913° N、141.9477° E (2012、2013) *C2(潮間帯下部): 39.5908° N、141.9472° E (2012、2013) D1(潮間帯中部): 39.5887° N、141.9473° E (2014~2017、2021) D2(潮間帯下部): 39.5887° N、141.9473° E (2014~2017、2021)		
(4) 調査年月日	2021 年 7 月 22 日		
(5) 調査者氏名	調査代表者: 松政正俊 (岩手医科大学) 調査者: 鈴木孝男 (みちのくベントス研究所)、阿部博和 (岩手医科大学)、 中村仁、井上隆、川合学 (環境省・生物多様性センター)、 北野慎容、吉田美沙希 (三洋テクノマリン株) 調査協力者: 菅孔太郎 (岩手医科大学) (環形動物の同定等)		

## (6) 環境の概要

2017年7月の同調査時にはAエリアの北側において防潮堤工事が進行していたが、その後間もなく完了して4年程が経過した。その間にAエリアとBエリアの中間陸側の砂地が整地され、Bエリアを中心としたアサリ漁も本格化されている。Aエリアへの砂の堆積は進み、干出面積も広がった。Bエリアの底質（転石・礫の多い砂泥質）は以前と同様であったが、砂泥は減少したように感じられた。2014年にCエリアの代替地として設定したDエリアの底質は基本的には変わらず、砂泥であった。Dエリアは淡水の影響を受けやすく、塩分環境は不安定な場所であり、潮下帯のアマモ場から波浪の影響が少ない貧鹹（ひんかん）水域（汽水域の中でも塩分が特に低い水域）の砂泥干潟、さらに潮上部の砂浜域と植生帯が連続的に配置される貴重な場所であったが、DエリアからBエリアに繋がる水路が浅くなって閉塞し、陸側からの淡水流入や雨水によって低塩分化しやすい状況となっていた。また、閉塞していない水路部分の底質は内軟泥となっており、かなり還元的な場所も認められ、アマモやコアマモのパッチはみられなくなっていた。

Dエリア東端部には植生を伴った砂丘が発達しており、潮間帯上部のヨシ原も安定的に存続していた。それよりやや低い、泥が混じる砂泥質の場所に生育していた希少種ウミミドリの群落は、2017年の調査時よりも拡大していたが、2014年及び2016年に確認されたシバナは今回も認められなかった。



A1 地点（遠景）



A1 地点（近景）



B1 地点（遠景）



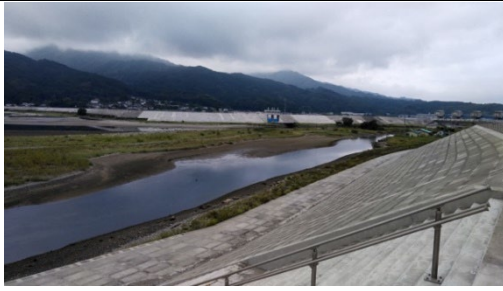
B1 地点（近景）



D1 地点（遠景）



ウミミドリの群落（D1）



D2 地点（遠景）



D2 地点（近景）

## (7) 底生生物の概要・特徴

本サイトの過去の調査では、各地点の出現種類数は年々増加していたが、今回の調査では全地点において前回（2017年）よりも出現種数が少なくなっていた。同様な調査（定性調査及び定量調査）を実施した2013、2014、2016、2017年及び今年（2018年）の出現種数は、A1地点で15、29、35、48及び43種、B1地点では28、25、34、52及び39種と、特にB1地点について顕著に出現種数が減少した。2014年から同様な調査を行っているD1地点及びD2地点における出現種数は、2014年以降D1地点で16、19、31及び23種、D2地点で22、19、33及び26種であった。

以下に、各地点の状況を述べる。

A1地点では2017年には多毛類スピオ科アミメオニスピオが多数観察されたことから、波当たりが若干弱くなったと推察されたが、今年における本種の密度は2017年よりも低下した。また、底質を安定化させる二枚貝のホトトギスが2017年は認められていたが、今年にはみられず、底質が若干流動的になっていると推察された。



マガキ（上）とムラサキイガイ（下）、及びそれらに付着したキタアメリカフジツボとシロスジフジツボ（A1）



エゾゴカイ（A1）



ツツオオフエリア（A1）



コアによる底質採集の様子



B1 地点では、2016 年にホトトギスと巻貝のホソウミニナが多数出現してその後の動態に注視したが、2017 年にはホトトギスは認められず、ホソウミニナの個体数も増加しなかった。この状況は今年も同様であり、2016 年には比較的高密度で見られたアサリも少なく、巻貝類、二枚貝類、甲殻類など種々の分類群において出現種数が減少した。こうした傾向が認められる中で、箒虫動物・ホウキムシ科の *Phoronis* 属の一種が今年はじめて比較的高密度で見出された。このグループについての日本における研究は進んでおらず、未記載種も多く存在すると考えられ、今後の研究が期待される。



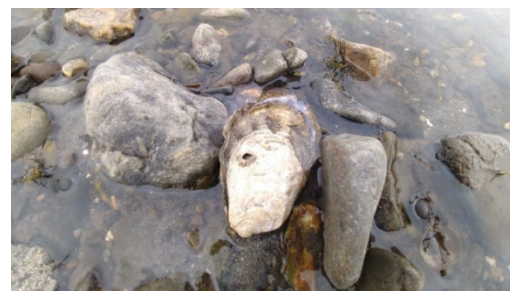
ケフサイソガニ (B1)



ホソウミニナ (B1)



ジャムシ (B1)



マガキ (B1)

D1 地点及び D2 地点では、これまでも巻貝のカワザンショウ類、環形動物・ゴカイ科のイトメ、甲殻類のアリアケモドキなど、塩分の低い「貧鹹水域」に特徴的な底生生物が継続して認められてきた。この状況は今年も同様であったが、2017 年に比べると種組成が単純化しており、淡水の影響がさらに色濃くでている印象を受けた。アサリ等の二枚貝を食害する国内移入種の肉食性巻貝サキグロタマツメタは認められず、この地点では増殖していない様子である。また、D1 地点では、全国的に数が減ってきている甲殻類のハマダンゴムシが今年も確認され、岩手県内では生息地が限られる甲殻類のアシハラガニの個体数も増加した。



ハマダンゴムシ (D1)



カワザンショウガイ (D1)



イトメ (D1)



ホソウミニナ (D1)



タカノケフサイソガニ (D1)



アシハラガニ (D1)



カワザンショウガイ (D2)



ソトオリガイ (D2)



*Heteromastus* 属の一種 (D2)



アリアケモドキ (D2)



ケフサイソガニ (D2)



水脈 (D2)

(8) その他特記事項

2017年度の報告書でも記載したように、本サイトには砂泥干潟（Dエリア）、転石や礫の多い干潟（Bエリア）、及び波浪の影響を比較的強く受ける前浜干潟（Aエリア）という性質が互いに異なる干潟が存在し、それぞれに特有の生物相が発達している。また、本調査の対象地点とはしていないが、DエリアとBエリアの間には、砂泥が堆積してアナジャコ類が多く生息する場所も形成されている。さらに、津軽石川河口サイトのDエリアやBエリア付近では、従来から漁業が営まれており、生業に伴う利用や管理によってその環境が維持されている。

このように、津軽石川河口サイトは、全体として多様な環境がみられる重要な干潟であることから、持続的な利用や管理を継続し、生物多様性が維持・保全されることが望まれる。

(9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、津軽石川河口サイト全体での2002年、及び2012年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（*H'*）、均等度指数（*J'*）の変化について以下の図にまとめた（図3-1-1-1、3-1-1-2）。

津軽石川河口サイトの定性調査における種数は、東日本大震災直後（2012年）から2014年調査まで種数が減少したものの、2015年以降は増加し、2017年には東日本大震災直後の約2倍となった（図3-1-1-1）。今年調査では2017年よりは減少したが2016年と同程度の種数が確認された。種組成は、東日本大震災前後で大きな変化はみられず、2013年に多毛類の割合が減少するものの、2014年以降は概ね同様であった。

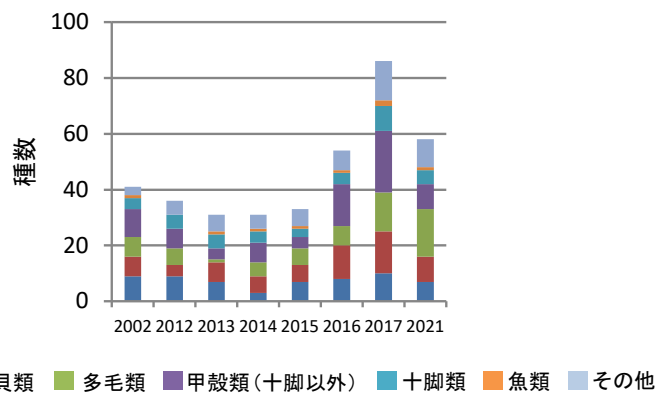


図3-1-1-1 津軽石川河口サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化

\* 東日本大震災前（2002年）は第7回基礎調査（干潟）のデータ、東日本大震災後は生態系監視調査のデータを用いた。

東日本大震災以降の状況を見ると、定量・定性調査を合わせて採集された種数は、2012年以降増加傾向であり、今年(2021年)は2017年より減少したものの、東日本大震災直後(2012年)の倍近い種数が確認された(図3-1-1-2)。平均個体数密度は、2012年以降2016年までは増加傾向にあったが、2017年からは減少傾向に転じ、今年も減少傾向が継続した。多様度指数は、2012年以降大きな変化はみられなかった。均等度指数は、2012年はやや高く2014年までは減少傾向であったが、2016年以降は概ね一定であり、今年もその傾向がみられた。

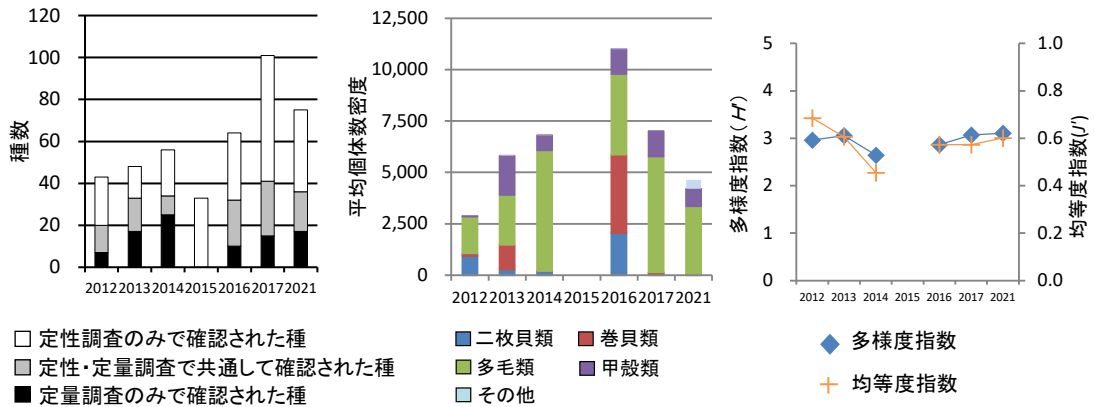
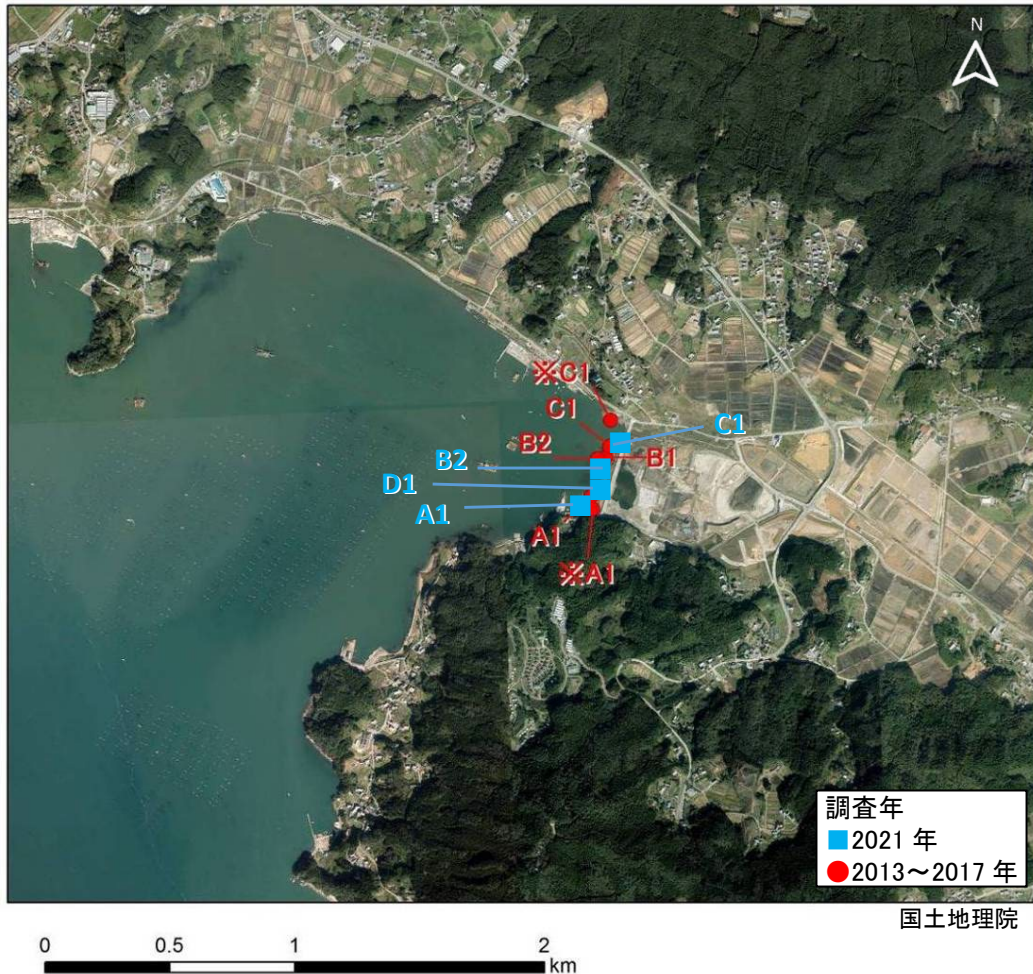


図3-1-1-2 津軽石川河口サイトにおける種数(定量調査と定性調査); 各分類群別(二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他)の平均個体数密度(個体数/m<sup>2</sup>); Shannon-Wienerの多様度指数(H')、Pielouの均等度指数(J')の経年変化  
\* 2015年は定量調査を実施していない。

写真撮影：松政正俊、阿部博和、菅孔太郎

2) 広田湾（小友浦）

(1) サイト名	広田湾（小友浦）	略号	TFOTM
(2) 調査地の所在	岩手県陸前高田市		



■は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。

●は、生態系監視調査（2013～2017年）による調査地で、円内に調査地点がある。

※2015年は定性調査のみ実施。

(3) 緯度・経度 (WGS84) ◆ 2013年のみ実施、今年度実施無 *今年度実施無	<p>A1(潮間帯中部):38.9947° N、141.6811° E (2014～2017、2021)</p> <p>◆A1(潮間帯中部):38.9942° N、141.6811° E (2013)</p> <p>*B1(潮間帯上部):38.9960° N、141.6819° E (2013～2017)</p> <p>B2(潮間帯中部):38.9960° N、141.6815° E</p> <p>C1(潮間帯上部):38.9964° N、141.6821° E (2014～2017、2021)</p> <p>◆C1(潮間帯上部):38.9974° N、141.6822° E (2013)</p> <p>D1(潮間帯上部):38.9954° N、141.6813° E (2021)</p>
(4) 調査年月日	2021年8月9日
(5) 調査者氏名	<p>調査代表者：松政正俊（岩手医科大学）</p> <p>調査者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）、阿部博和、菅孔太朗（岩手医科大学）、北野慎容、吉田美沙希（三洋テクノマリン株）</p> <p>調査協力者：</p>

## (6) 環境の概要

1950年代後半に干拓された小友浦は、2011年3月に発生した東日本大震災によって干潟（潮間帯）に戻り、その一部が防潮堤のセットバックにより残された。この部分における調査は2013年に開始したが、その際に干潟域の南北両端に設置したA1地点及びC1地点は2014年の工事用道路の設置により消失してしまった。現在のA1地点とC1地点は2014年に新たに設置したものであり、調査開始当初のものよりも干潟の中央部寄りに位置している。その後は同じ地点での調査が継続されたが、2020年の8月末に開始された小友浦干潟自然再生整備促進事業の施工（残土を利用した沖合への石積み消波堤の設置、ならびに干潟部への残土投入と整地）により、2021年3月に現在の形となった。その結果、B1地点を含む潮間帯の上側の干潟は消失したため、新たに造成された干潟部にD1地点を設置し、造成部分の底生生物の生息状況も確認することとした。

小友浦干潟自然再生整備促進事業の施工は2021年3月末までに終了していたが、施工に伴う環境影響対策の一環として、土砂等の海域拡散を防止するために消波堤のさらに沖合に設置されたシルトフェンスは維持されていた。この影響か、調査地近傍の海水の濁度は高く、底質の泥分は以前よりも増加していた。すなわち、残土投入以前には、A1地点及びC1地点はB2地点よりも粘土を多く含んでいたものの、いずれの地点の底質も礫を多く伴った砂泥質であったが、今年にはA1、B2、C1地点及び新しく設置したD1地点の底質表層はいずれも泥質であった。表層の泥を掘り起こすと、粒度の粗い底質が現れることから、残土投入以降に泥分が堆積したと思われた。なお、以前の調査地点であるB1地点は残土投入により地盤高が増し、底生動物の生息は認められなかった。また、2013年の調査開始当初にはA1地点の潮間帯上部付近にヨシが生育していたが、2014年の道路工事に伴い失われ、今年もヨシ原の発達は認められなかった。淡水はA1地点の陸側の貯水池、及びC1地点陸側の水路を介して干潟域に流入していた。



A1 地点（遠景）



A1 地点（近景）



陸側の沈殿池（A1の東側）



陸側の沈殿池（A1の東側）



B1 地点（遠景）



B1 地点（近景）



B2 地点（近景）



C1 地点（遠景）



C1 地点（近景）



淡水の流入の様子（C1 の東側）



D1 地点（遠景）



D1 地点（近景）

(7) 底生生物の概要・特徴

各地点における出現種数を、同じ場所で定量・定性調査を同様に実施した 2014、2016、2017 年（2015 年は定性調査のみ実施）及び今年と比較すると、A1 地点では 25、33、40 及び 47 種、B2 地点で 37、38、47 及び 43 種、C1 地点では 22、36、46 及び 30 種であった。また、小友浦における出現種数の増加は 2018 年以降も継続していたことが分かっている（松政ら 準備中）。土砂投入された地点（B1、C1 地点）では出現種数は減少していたものの、生物の多様性はある

程度維持されていた。これは A1 地点には残土が投入されておらず、潮間帯下部に位置する B2 地点や C1 地点への残土投入の影響は比較的小さかったことが関係すると考えられる。しかし、構成種やその相対密度は以前とは異なっており、新しく設置した D1 地点（出現種数は 24 種）も含めて、汽水性小型甲殻類の二ホンドロソコエビが多く出現したことは、残土投入前との比較で特徴的である。これは、石積み消波堤やシルトフェンスの設置によって、淡水流入や泥の堆積量が増加したことによる影響が考えられた。

イソテッポウエビの仲間（フトオビイソテッポウエビ）が A1 地点や D1 地点で多く認められた。これは、同種と思われる幼体が昨年にも認められており（松政ら 準備中）、潮間帯下部に生息する本種の生息環境が残土投入の影響を比較的受けなかったことから、生残個体が成長して多く認められたと思われる。埋在性の二枚貝は種数・個体数ともに減少しており、泥の堆積の影響が懸念される。特に、アサリの密度の低下が顕著であり、シルトフェンス撤去後の動態を注視する必要がある。

B2 地点で今年初めて確認されたオグマヒモムシは全国でも報告例が少なく、A1 地点や B2 地点で確認されているイトゴカイの *Mediomasutus* 属の一種とともに今後の出現状況を注視する必要がある。

以下に、各地点の状況を述べる。

A1 地点は残土投入の直接影響が最も少ない場所であり、出現種数の減少も最も小さい場所であった。しかし、アサリを含む埋在性二枚貝の種数・個体数は大きく減少したため、今後も動態を追跡していく必要がある。



マガキ (A1)

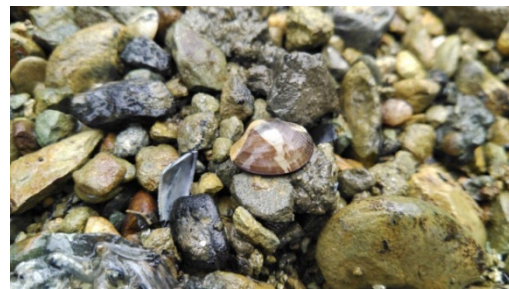


コウダカアオガイ

マガキ殻上はコモレビコガモガイ (A1)



ヒメケハダヒザラガイ (A1)



アサリ (A1)





カニを捕食するイトマキヒトデ (A1)



サシバゴカイ科の一種 (A1)



カギノテスピオ (A1)



キタフナムシ (A1)



イソガニ (A1)



タカノケフサイソガニ (A1)

B2 地点は、潮間帯下部に設定され、出現種数が最も多く生物多様性が高いエリアである。残土投入の影響は小さく、今年も 43 種を記録した。しかし、以前には高密度に見出されたアサリは定量調査では採取できなかった。



オグマヒモムシ (B2、7月23日撮影)



ホソウミニナ (B2)



イシダタミ (B2)



オニアサリ (B2)



アナジャコ類の巣穴 (B2)



イソガニ (B2)



ミミズハゼ (B2)

C1 地点の出現種数は、2017 年には 46 種と B2 地点と同程度の高い値を記録したが、今年は 30 種と大きく減少した。この地点は残土投入の影響を強く受けた場所であるとともに、淡水が直接流入する場所である。一般に消波堤等やシルトフェンスが設置されることによって水の交換が妨げられると、表層の淡水が拡散せず塩分が低下しやすくなることが知られている。本地点においても塩分の低下が出現種数の減少の要因の一つと考えられた。



ヒメケハダヒザラガイ (C1)



ホソウミニナ (C1)



イシダタミ (C1)



マガキ (C1)



ヒゲツノメリタヨコエビ (C1)

新たに設置した D1 地点の環境も C1 地点と同様であり、カワゴカイ類、ドロオニスピオ、ニホンドロソコエビの卓越が、この場所が静穏で淡水の影響を受けやすい環境を有していることを示している。



マガキ上のヒメケハダヒザラガイ、  
タマキビ、イシダタミ (D1)



底質表面のゴカイ類やカニ類の巣穴口  
(D1)



カワゴカイ類 (D1)



フトオビイソテッポウエビ (D1)



ケフサイソガニ (D1)

(8) その他特記事項

残土投入前の小友浦は礫干潟として貴重であったが、今年の調査では、泥干潟としての特徴を色濃く示すことが明らかとなり、泥干潟に特徴的で希少な生物も見出された。また、国内移入種であり、アサリなどの有用二枚貝を捕食するサキグロタマツメタは、今回の調査でも認められなかった。

残土の投入によって出現種数は減少したが、シルトフェンスの撤去に伴って今後も環境が変化し、底生生物相も変化していくと予想される。生物の多様性・生産性の維持・向上のためには、淡水の影響や、底質の状態に配慮し、干潟内の多様な環境を出来るだけ維持・創出していくことが望まれる。

(9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、小友浦サイト全体での2013年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（*H'*）、均等度指数（*J'*）の変化について、以下の図にまとめた（図3-1-2-1、3-1-2-2）。

小友浦サイトは2012年時点では干拓地であったため、第7回基礎調査（干潟）は実施していない。東日本大震災以降（2013年調査開始）の定性調査における種数は、調査開始以降増加傾向であり、2014年、2016年にやや減少したものの、今年調査では調査開始以来最も多い種数が確認された（図3-1-2-1）。種組成については、多毛類の占める割合が増加傾向にある。

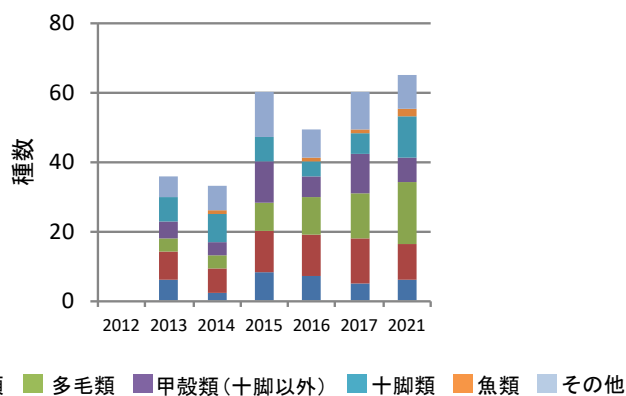


図3-1-2-1 小友浦サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化

\* 東日本大震災前（2012年）に第7回基礎調査（干潟）は実施していない。

定量・定性調査を合わせて採集された種数は、調査開始以降ゆるやかな増加傾向がみられ、今年の調査では2016年より多くの種数が確認されたものの、2017年より減少した（図3-1-2-2）。今年の平均個体数密度は、調査開始以降最も大きかったものの、大部分を特定の甲殻類と

多毛類が占め、種数の偏りがみられる結果となり、多様度指数、均等度指数ともに2017年より低下した。

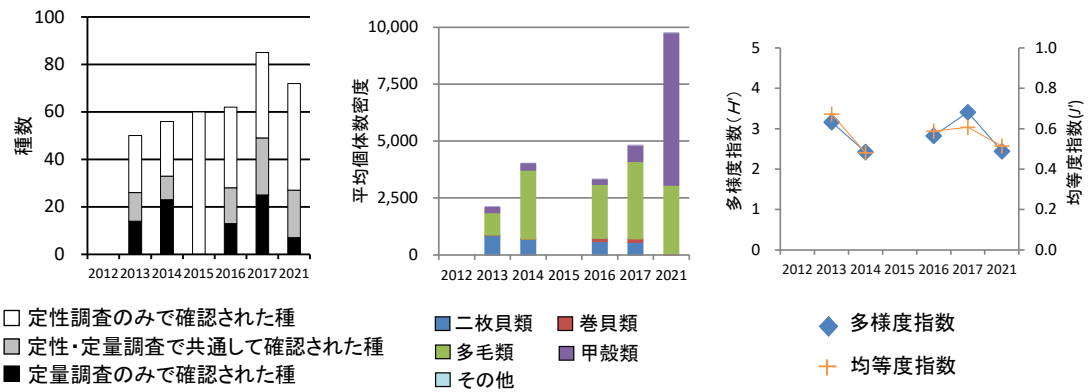


図 3-1-2-2 小友浦サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/㎡）；Shannon-Wiener の多様度指数 ( $H'$ )、Pielou の均等度指数 ( $J'$ ) の経年変化  
\* 小友浦サイトでは 2012 年の調査は実施していない。また、2015 年は定量調査を実施していない。

写真撮影：松政正俊

3) 万石浦

(1) サイト名	万石浦	略号	TFMNG
(2) 調査地の所在	宮城県石巻市		
<p>■は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。</p> <p>●は、生態系監視調査（2012～2015、2017年）による調査地で、円内に調査地点がある。</p> <p>※2015年は定性調査のみ実施。</p> <p>▲は、第7回基礎調査（干潟調査）（2003年）による調査地点を表す。</p>			
(3) 緯度・経度 (WGS84) ◆ 2012年のみ実施、今年度実施無	<p>◆A1(潮下帯): 38.415° N、141.4031° E (2012)</p> <p>◆A2(潮下帯): 38.4154° N、141.4032° E (2012)</p> <p>◆B1(潮下帯): 38.4154° N、141.4043° E (2012)</p> <p>◆B2(潮下帯): 38.4154° N、141.4043° E (2012)</p> <p>B岸1(潮間帯上部): 38.4152° N、141.4053° E (2013～2015、2017、2021)</p> <p>B岸2(潮間帯中部): 38.4154° N、141.4053° E (2013～2015、2017、2021)</p> <p>C1(潮間帯上部): 38.4168° N、141.4096° E (2013～2015、2017、2021)</p> <p>C2(潮間帯中部): 38.4169° N、141.4092° E (2013～2015、2017、2021)</p>		
(4) 調査年月日	2021年 7月 10日		
(5) 調査者氏名	<p>調査代表者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）</p> <p>調査者：木下今日子（東北大学）、内野 敬（仙台市二華高校）、伊藤 萌（国立環境研究所）、田所 悟（自然環境調査(有)）、吉田美沙希（三洋テクノマリン(株)）</p> <p>調査協力者：</p>		

## (6) 環境の概要

B岸エリア（B岸1、B岸2地点）では、沿岸部を通る道路が新しく付け替えられた。それに伴って、以前駐車場（大浜第2駐車場）として利用されていた干潟に連なる陸地部分は護岸工事等で狭くなった。しかし、干潟域については工事の影響はなかったように見受けられた。道路の護岸には河川水排水用のパイプが設置されており、水が流れ出していた。

B岸1地点は貝殻捨て場の海側で、貝殻片が多く、近くに淡水の浸み出しがみられた。この地点にホソウミニナの小型個体が多いのは2017年調査時と同様であった。

B岸2地点は2017年には水際であったが、今年は水際から10m程陸側であった。これは、大潮で潮が良く引いていたためと思われる。本地点の沖側の水域には一面にアマモが生育しており、その状況は2017年の時と同じようであった。周囲にはカキ殻が散在していた。

Cエリア（C1、C2地点）のC1地点はもともと陸地であったところであり、底土が固く締まっていたが、今年はより乾燥化が進んだようであった。そのため、定量調査においては、底土のほとんどをスコップで掘り上げた。近くに淡水の流れがあるが、最近の降雨の影響で水量が多く、水が底土を押し流して扇状地ようになり、その先の干潟との間に段差ができていた。この水の塩分は0.1‰であった。ちなみに万石浦の水域の塩分は26‰ほどであった。

C2地点は、B岸2地点と同様、2017年にはほぼ水際であったが、今年は水際から10m以上陸側になっていた。水際に近づくと泥底になるが調査地点は泥混じりの砂質であり、砂利が多かった。沖合にはアマモの生育がみられた。

底質の酸化還元電位をみると、B岸2地点を除いてはほぼ酸化的であった。B岸2地点は砂泥質であり、弱還元的であった。



B岸1地点



B岸2地点



C1地点



C2地点

## (7) 底生生物の概要・特徴

万石浦全体（B岸エリア及びC岸エリア）での出現種数の変遷をみると、2013、2014及び2017年は64、65、79種と増加していた。そして今年の出現種数は71種であった。2017年よりは減少していたが種多様性は維持されているとみるべきであろう。今年の結果を2017年と比べてみると、巻貝類と多毛類の種数が減少し、二枚貝と十脚類の種数は増加していた。

巻貝類では宮城県の絶滅危惧Ⅰ類のカワアイとクビキレガイモドキは継続して確認されたが、ナギサノシタタリは、今年は確認できなかった。絶滅危惧Ⅱ類のツボミ、ヤマトクビキレガイ、ヨシダカワザンショウ、ムシロガイは継続して観察されたが、シゲヤスイトカケギリは確認できなかった。代わりにウスコミミガイとツブカワザンショウが新たに出現した。また、カワザンショウガイ、サキグロタマツメタなどは出現しなかった。マンゴクウラカワザンショウは2017年と同様に確認できなかった。二枚貝類は少なく、ムラサキインコ、クログチなどが新たに出現した。また、外来種のコウロエンカワヒバリガイがC1地点で始めて確認された。

多毛類の出現種数は、2017年は20種であったが、今年は15種にとどまった。しかし依然多様性は高いと言える。

小型甲殻類の種組成は、2017年と今年でほぼ同様であったが、2017年に新種記載された宮城県の絶滅危惧Ⅰ類のサンリクドロソコエビは、今年は確認できなかった。十脚類では2017年に出現した種に加えて、セジロムラサキエビ、イソテッポウエビ類、アカテガニ、クロベンケイガニが出現した。東日本大震災前には生息していたニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、コメツキガニ、チゴガニはまだ復活していない。



カワアイ (B岸2)



ヤマトクビキレガイ (C1)

以下に各地点の状況を述べる。

今年、B岸1地点の定量調査で優占していたのは、ホソウミニナであり、干潟表面に高密度でみられた。他にはヒメシラトリ、アサリ、オキシジミ、*Heteromastus* 属などがみられたがいずれも少数であった。定性調査では、希少種のウミニナ、カワアイ、ツブカワザンショウ、オオウスイロヘソカドガイが出現した。

B岸2地点の定量調査では、ホソウミニナとカワアイが多く出現し、他にはコアシギボシイソメが比較的多くみられた。また、定性調査では希少種のツボミが干潟で、ムシロガイ、オオウスイロヘソカドガイ、ウスコミミガイが岩場の転石帯で出現した。ウミニナは本地点ではみられなかった。十脚類の出現種数は減少し、希少種のマメコブシガニは、今年は確認できなかった。





ホソウミニナとウミニナ (B岸1)



オキシジミ (B岸1)



ムシロガイ (B岸2)



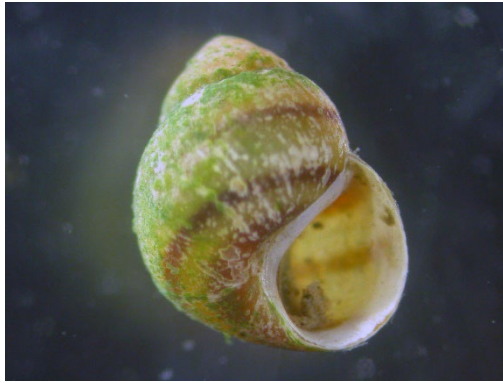
オオウスイロヘソカドガイ (B岸2)



B岸エリア全景

Cエリアについてみると、C1地点の環境は以前と同じく、たまにしか海水に浸らないような底土が固くしまったところであり、定量採集ではキタフナムシが出現したのみであった。定性調査では2017年と同程度の25種を確認したが、希少種でみると、ヨシダカワザンショウ、ヤマトクビキレガイ、クビキレガイモドキは継続しての出現であり、ツブカワザンショウとアカテガニは新たに出現した（アカテガニは2014年には確認されていた）。一方、ウミニナとナギサノシタタリは、今年は見られなかった。また、クロベンケイガニが初めて出現した。

C2地点の定量調査では、コケゴカイが優占していた。他に比較的多かったのはカワアイ、ヒメシラトリ、アサリであった。定性調査では、希少種のウミニナ、カワアイ、ムシロガイ、マメコブシガニが出現した。水際にはカキ礁が点在していた。出現種数でみると、2017年に46種であったのが今年36種に減少していた。分類群別にみると、巻貝類と多毛類で減少がみられたが、十脚類では増加していた。



ツブカワザンショウ (C1)



クロベンケイガニ (C1)



アサリ (C2)



カキ礁 (C2)

これまで、スナイソゴカイやイシイソゴカイとしていた種については、形態変異のオーバーラップが大きく、形態では同定がほとんど不可能であることから、「スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ」という表記にした。

#### (8) その他特記事項

東日本大震災前の A エリア（大浜第 1 駐車場）では、干潟は干潮時でも干出していなかったが、一帯の水深はずいぶん浅くなってきているようであった。岸辺から沖合にかけてはアマモの生育がみられた。また、駐車場であったところでは、地面が整地され、工事が行われていた。

B 岸エリアでは道路工事が終了したが、工事に伴って護岸壁が設置された。そのため干潟へのアプローチについて、この護岸壁のどちらかの端から、崩れた土砂のところを通らねばならず、注意が必要である。

沿岸を通る道路工事は終了したが、付随する工事が継続しているようで万石橋からは通行止めのために入れず、調査エリアへ至るには、万石浦の北側から迂回するようにして進む必要がある。

(9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、万石浦サイト全体での2003年、及び2012年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（*H'*）、均等度指数（*J'*）の変化について、以下の図にまとめた（図3-1-3-1、3-1-3-2）。

万石浦サイトの定性調査における種数は、東日本大震災直後（2012年）に大きく減少したが、2013年から2017年にかけて増加傾向にあった（図3-1-3-1）。今年の種数は、2017年より減少したものの、種組成に大きな変化は無かった。

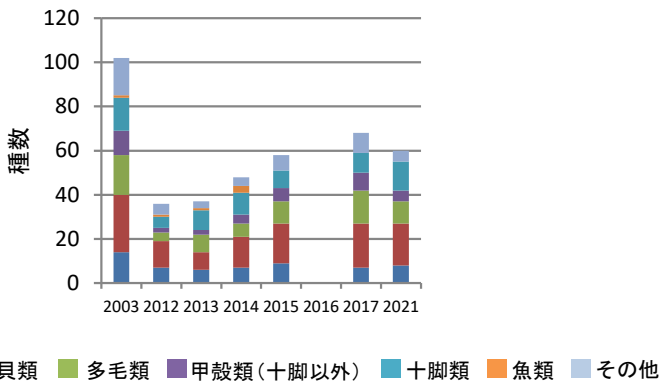


図3-1-3-1 万石浦サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化  
\* 東日本大震災前（2003年）は第7回基礎調査（干潟）のデータ、東日本大震災後は生態系監視調査のデータを用いた。2016年は調査を実施していない。

東日本大震災以降の状況を見ると、定量・定性調査を合わせて採集された種数について、2012年から2015年（2015年は定性調査のみ）は増減を繰り返しており、一定の傾向はみられなかった（図3-1-3-2）。2017年に80種近い種数が確認されたものの、今年はそれより少ない種数となった。今年の平均個体数密度は、今年は調査開始以降最も低い結果となった一方、2017年に比べて出現する分類群の偏りが少なくなったため、多様度指数、均等度指数が増加した。

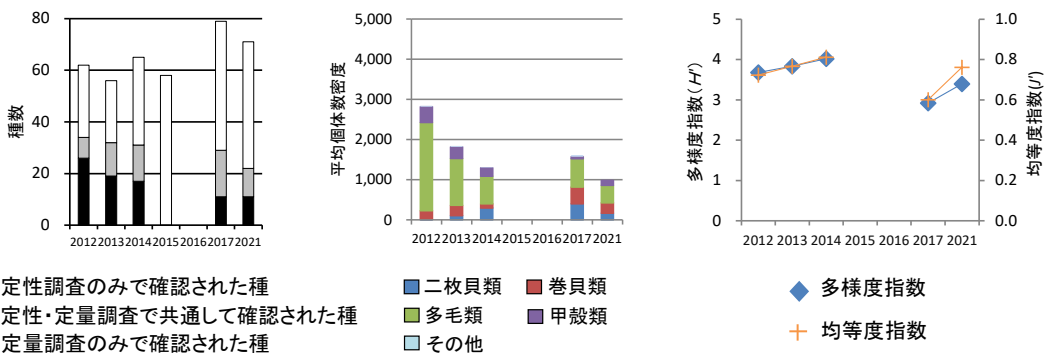
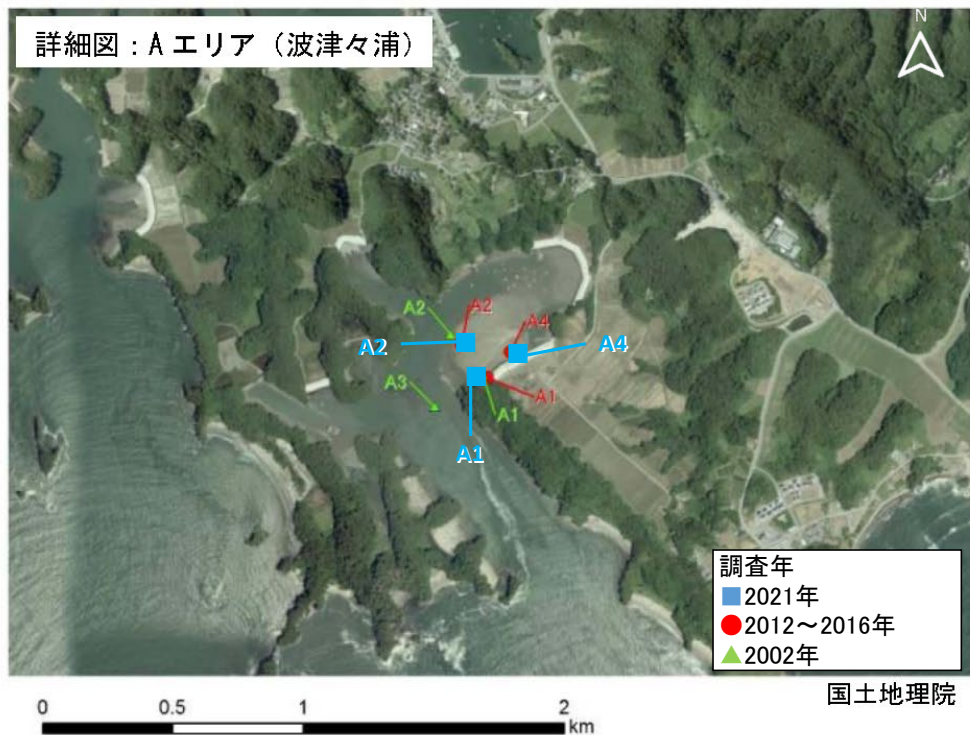
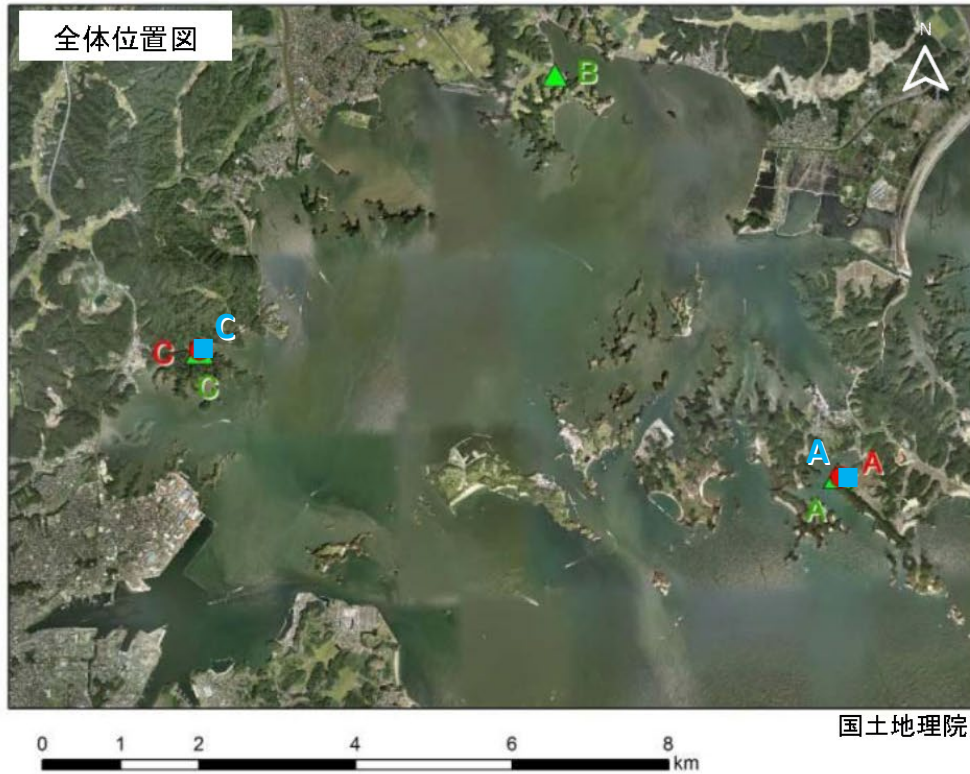


図3-1-3-2 万石浦サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）；Shannon-Wiener の多様度指数（*H'*）、Pielou の均等度指数（*J'*）の経年変化  
\* 2016年は調査を実施していない。また、2015年は定量調査を実施していない。

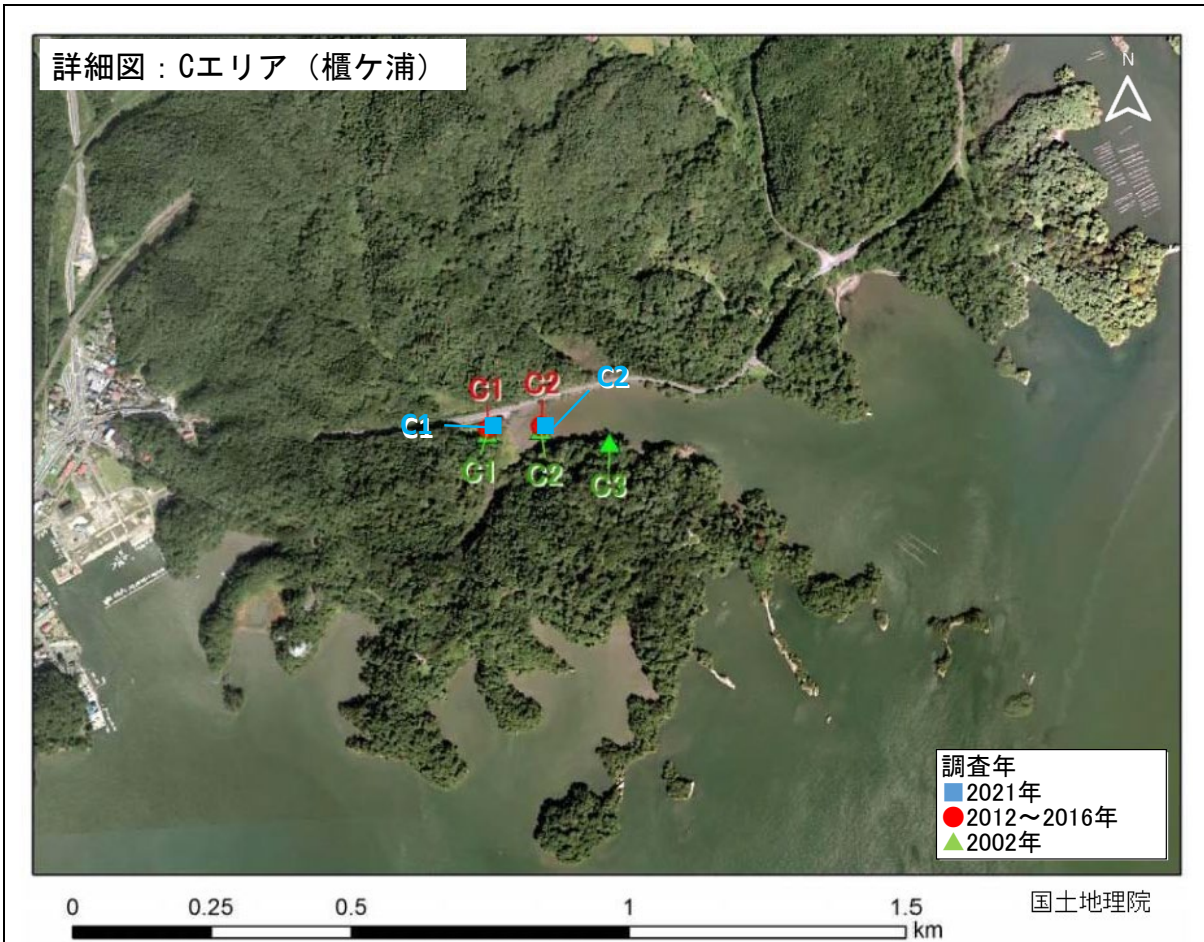
写真撮影：鈴木孝男

4) 松島湾

(1) サイト名	松島湾	略号	TFMTS
(2) 調査地の所在	宮城県東松島市、宮城郡松島町、宮城郡利府町		



- は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。
- は、生態系監視調査（2012～2016年）による調査地で、円内に調査地点がある。
- ※2015年は定性調査のみ実施。
- ▲は、第7回基礎調査（干潟調査）（2002）による調査地点を表す。



■は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。

●は、生態系監視調査（2012～2016年）による調査地で、円内に調査地点がある。

※2015年は定性調査のみ実施。

▲は、第7回基礎調査（干潟調査）（2002）による調査地点を表す。

(3) 緯度・経度 (WGS84)	A1（潮間帯中部）：38.3306° N、141.1463° E A2（潮間帯中部）：38.3314° N、141.1455° E A4（潮間帯上部）：38.3312° N、141.1471° E C1（潮間帯上部）：38.3505° N、141.0520° E C2（潮間帯中部）：38.3505° N、141.0531° E
(4) 調査年月日	2021年 7月 11～12日、6月 23日（C1での定性調査）
(5) 調査者氏名	調査代表者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所） 調査者：木下今日子（Aエリアのみ、東北大学）、内野 敬（Aエリアのみ、仙台市二華高校）、伊藤 萌（国立環境研究所）、田所 悟（自然環境調査術）、吉田美沙希（三洋テクノマリン(株)） 6月23日のC1での定性調査は鈴木 孝男、金谷 弦（国立環境研究所）で実施した。 調査協力者：

## (6) 環境の概要

波津々浦（Aエリア）では、全体的な地形の様子は2016年の調査時と同様であった。堤防の東側では、ポンプによる排水が行われており干潟側に淡水が流れ出ていた。堤防の西側端の干潟側では碎石と砂が混じったものが湾口側から波で運ばれてきたようで、周辺に堆積して小さなサンドバーようになっていた。A1地点はこの砂と碎石の下になってしまっており、湾口と繋がっていた水路はなくなっていた。そのためA1地点は場所を少し移動してサンドバーの東側近傍に設定した。A2地点には碎石と砂の堆積はなく、2016年と同様であった。底質は砂質であったが、下層には砂利が多かった。このため、コアが入らないところがあり、下層部分はスコップを用いて採取した。A2地点の沖側にはアマモの生育が確認された。A4地点は砂質であったが、以前よりも砂質化が進んだようであった。A4地点の東側には砂が堆積して地高が高くなったところがあり、陸上植物が生育していた。堤防の基部に近いところは水域となっていた。底質の酸化還元電位をみると全地点で酸化的であったが、A2地点は若干低い値を示していた。

櫃ヶ浦（Cエリア）の地形や環境は2016年の調査時と同様であった。C1地点は砂質で、近くに上流側からの細い流れがある。C1地点の西側（陸側）には狭いもののヨシ原が成立していたが、以前よりも干潟側に張り出してきているようであった。C2地点は右岸側に寄ったところの潮間帯中部で、底質は砂泥質であった。そこから干潟中央部に進むと泥質になる。底質の酸化還元電位は、C1地点およびC2地点は酸化的であったが、砂泥質であり少し低い値を示した。



A1 地点



A2 地点



アマモ (A2)



A4 地点



C1 地点



C2 地点

## (7) 底生生物の概要・特徴

波津々浦（A エリア）では、同様の調査を行った 2016 年と比較して、いずれの地点でも、出現種数は少し多くなっていた。A エリア全体では、2016 年の 73 種に比べて 2021 年には 92 種と多くなっていた。分類群別では、特に十脚類の出現数が多く 2 倍以上になっており、ハサミシャコエビ、ヨコヤアナジャコ、スナガニなどが新たに記録された。

A1 地点における定量調査では、転石帯のほとんどが砂と碎石で埋められてしまったため、カワザンショウ類は見られなかった。砂の下を流れる細流の周辺で定量調査を行ったが、優占して見られたのは、コケゴカイ、ミナミシログネゴカイ、*Heteromastus* 属で、他にはアサリも比較的多く出現した。また、定量調査でコメツキガニの小型個体やヤマトオサガニが確認された。コメツキガニは砂質のエリアに分布を拡大しているようであった。定性調査では、ウミニナ、イシダタミ、マツシマカワザンショウなどが見られた。また、近年国内で分布を広げている外来種のナンオウフジツボが初めて確認された。

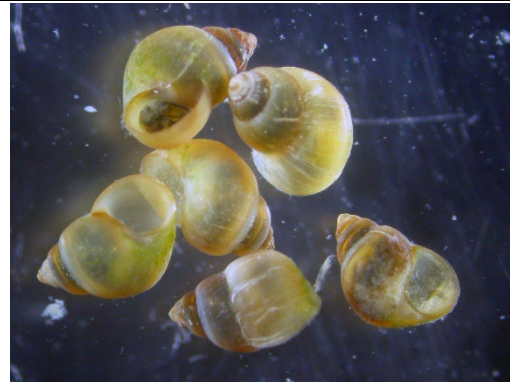
*Heteromastus* 属 (A1)

イシダタミ (A1)

A2 地点では、2016 年に多く見られたイボキサゴは出現しなかった。年による変動が大きいように思われる。定量調査で多く出現したのは、ミナミシログネゴカイ、マドカスピオ、ニホンドロソコエビ、アサリなどであった。またマツシマカワザンショウも定量調査に出現した。2016 年に定量調査で記録されたハウザワイソギンチャクは定性調査で確認されたが、マテガイは出現しなかった。また、2016 年に多く出現したドロオニスピオや *Notomastus* 属は少なくなり、ヒゲスピオは出現しなかった。定性調査では外来種のサキグロタマツメタが見つかった。



アサリ (A2)



マツシマカワザンショウ (A2)

A4 地点の定量調査で優占して出現したのは、コケゴカイ、ミズヒキゴカイ種群、*Heteromastus* 属であったが、ホトトギス、ソトオリガイ、アサリも比較的多く見られた。これら優占種は 2016 年の結果とほぼ同様であった。2016 年に高密度で出現したマツシマカワザンショウは、周辺には多かったものの、今年の定量調査ではそれほど高密度ではなかった。定性調査の結果、宮城県の絶滅危惧 I 類のイボウミニナは 2016 年同様、少数しか見つからなかった。しかし、小型個体も見られたことから、再生産が行われている可能性はある。定量調査地点の東側で砂が高く堆積したところでは、初めてスナガニが確認された。また、ハマグリが出現し、ツバサゴカイの棲管も 2016 年同様に確認された。



イボウミニナ (A4)



スナガニ (A4)

櫃ヶ浦 (C エリア) での出現種数は、2016 年の 52 種に比べ、2021 年は 59 種と多くなっていた、中でも C2 地点での出現数が 8 種も多くなっていた。櫃ヶ浦は巻貝類の希少種であるウミニナ、イボウミニナ、カワアイ、フトヘナタリが 4 種とも生息する宮城県では唯一の干潟であるが、今年の調査でもこの 4 種の生息が確認できた。なかでもウミニナとカワアイは生息数が多く、櫃ヶ浦は生息場所として貴重である。また、フトヘナタリは宮城県の絶滅危惧 I 類の種であるが、C1 地点近くの流れの上流側の植生帯にまとまった個体群が認められた。

C1 地点周辺一帯では 2016 年にはホソウミニナが多く生息していたが、今年には衰退し、代わってウミニナが多くなり、高密度で生息していた。また、周辺一帯の砂干潟ではコメツキガ



ニが多く、定量調査でも出現した。他に定量調査で比較的多く見られたのは、*Heteromastus* 属とイソミミズであるが、2016年に多かったコケゴカイは定性調査で確認できたのみであった。また、淡水流入があるためかイトメも出現した。十脚類では、2016年と同様にアシハラガニ、コメツキガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニなどが出現したが、今年は新たにハサミシャコエビやアカテガニが記録された。



ウミニナ (G1)

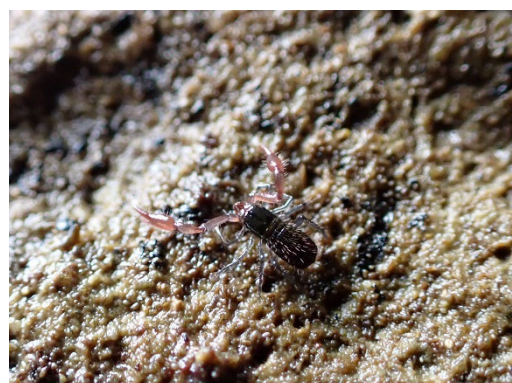


コメツキガニ (G1)

C2地点表層では、ホソウミニナが少なくなり、ウミニナとカワアイが多く見られるようになった。また、少数ではあるが泥干潟上にはイボウミニナも出現した。カワアイとイボウミニナは宮城県の絶滅危惧Ⅰ類の種であり、生息場所として貴重である。定量調査で多く出現したのはコケゴカイ、ミズヒキゴカイ種群、ソトオリガイであり、特にコケゴカイが優占していた。他に、*Heteromastus* 属とオキシジミも比較的多く出現した。転石帯では、キントンイロカワザンショウとツブカワザンショウが2016年と同様に確認された。また、ウミカニムシやウスコミミガイの生息も確認された。十脚類では、2016年に初めて出現したマメコブシガニは確認できたが、ムツハアリアケガニは出現しなかった。なお、クロベンケイガニが初めて記録された。



カワアイ (G2)



ウミカニムシ (G2)

これまで、スナイソゴカイやイシイソゴカイとしていた種については、形態変異のオーバーラップが大きく、形態では同定がほとんど不可能であることから、「スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ」という表記にした。

(8) その他特記事項

波津々浦（A エリア）では、湾口付近から砂と碎石が混じった土砂が押し流されてきて堆積したことで、A1 地点周辺の地形や環境が変化した。特に A1 地点から堤防沿いに東側（A4 地点方向）へ連続していた水路が埋められてしまい、A4 地点周辺では海水交換が悪化している可能性があるため、今後も注意が必要である。また、A4 地点の東側には砂が多く堆積して陸上植物が生育し始めたところがあるが、こうした陸化が進む可能性についても注意が必要である。

櫃ヶ浦（C エリア）では、現在、地形の変更を伴う道路工事や護岸工事が計画されていないようであるが、将来にそのような計画が持ち上がった場合、自然環境に対する配慮には十分気をつけなければならない。



波津々浦（A エリア）の A1 地点周辺

(9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017 年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、松島湾サイト全体（A エリアと C エリアを合算）での 2002 年、および 2012 年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（ $H'$ ）、均等度指数（ $J'$ ）の変化について、以下の図にまとめた（図 3-1-4-1、3-1-4-2）。

松島湾サイトの定性調査における種数は、東日本大震災直後（2012 年）に減少したが、2013 年以降は東日本大震災前より多くの種数が確認されている（図 3-1-4-1）。今年（2021 年）は調査開始以降最も多くの種数が確認された。種組成は、東日本大震災前後で大きな変化がみられず、今年も同様の種組成であった。

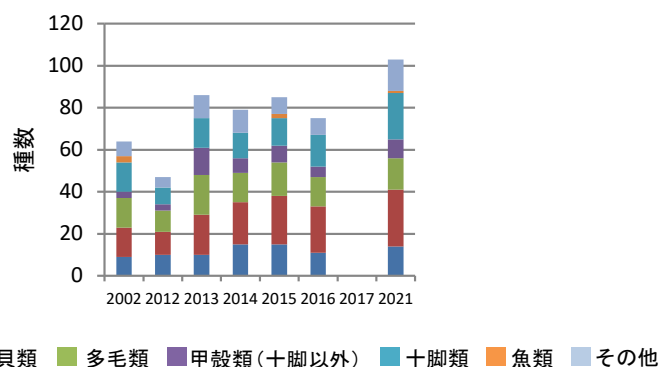


図 3-1-4-1 松島湾サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化

\* 東日本大震災前（2002 年）は第 7 回基礎調査（干潟）のデータ、東日本大震災後は生態系監視長のデータを用いた。また、2017 年は調査を実施していない。

東日本大震災以降の状況を見ると、定量・定性調査を合わせて採集された種数は、2013年に大幅な増加がみられ、2014、2015年（2015年は定性調査のみ）に減少したものの、2016年にやや増加し、今年もその傾向がみられた（図3-1-4-2）。平均個体数密度は、調査開始以降増減を繰り返しており、一定の傾向はみられなかった。今年に関しては、2016年より密度が低下し、巻貝類の割合が減少、多毛類が多くを占める結果となった。多様性指数、均等度は2016年よりやや低下した。

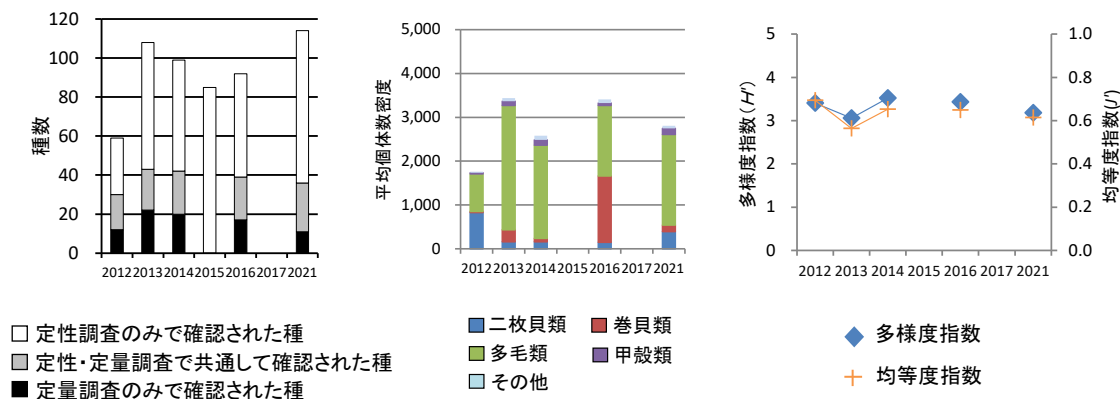
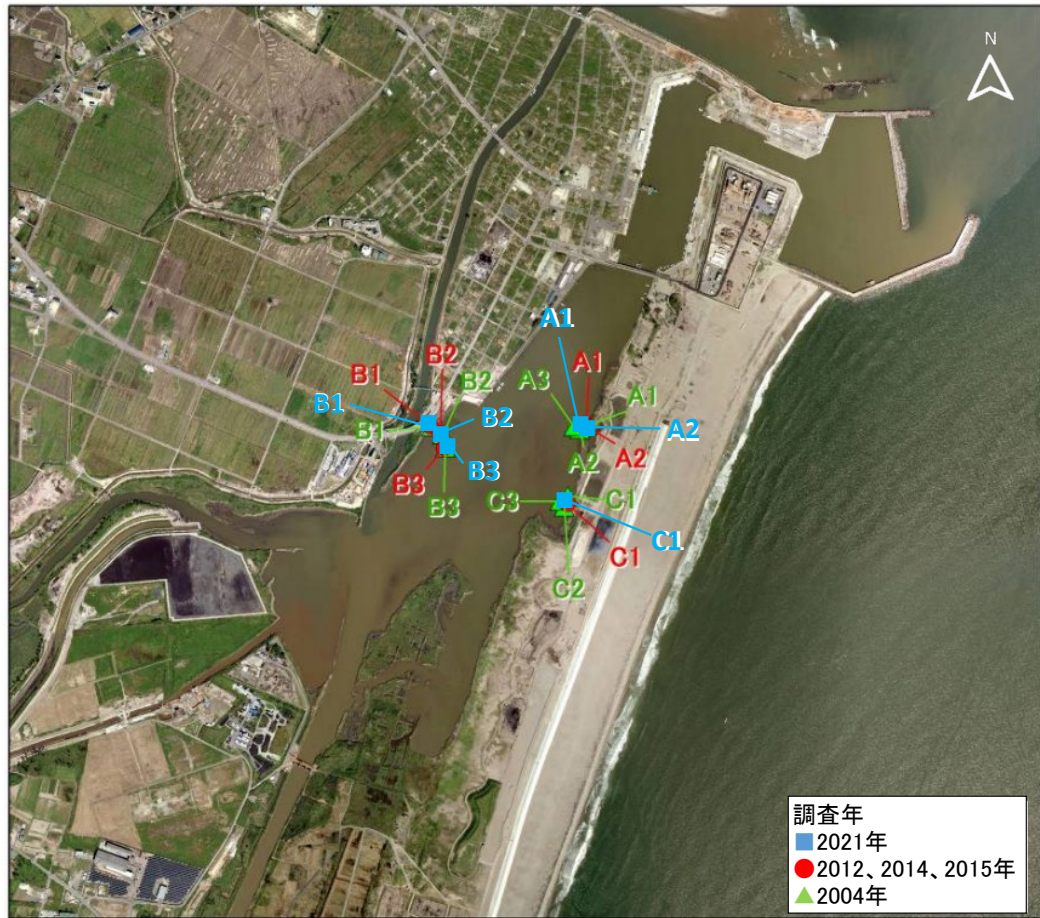


図3-1-4-2 松島湾サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）；Shannon-Wiener の多様性指数 (H')、Pielou の均等度指数 (J') の経年変化  
 \* 松島湾サイトでは2017年の調査は実施していない。また、2015年は定量調査を実施していない。

写真撮影：鈴木孝男

5) 広浦

(1) サイト名	広浦	略号	TFHRU
(2) 調査地の所在	宮城県仙台市若林区		



国土地理院

- は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。
- は、生態系監視調査（2012、2014、2015年）による調査地で、円内に調査地点がある。
- ▲は、第7回基礎調査（干潟調査）（2004年）による調査地点を表す。

(3) 緯度・経度 (WGS84)	<p>A1（潮間帯中部）：38.1657° N、140.9539° E</p> <p>A2（潮間帯下部）：38.1657° N、140.9538° E</p> <p>B1（潮間帯上部）：38.1658° N、140.9486° E</p> <p>B2（潮間帯中部）：38.1657° N、140.9489° E</p> <p>B3（潮間帯下部）：38.1653° N、140.9490° E</p> <p>C1（潮間帯中部）：38.1636° N、140.9531° E</p>
(4) 調査年月日	2021年 6月 12日
(5) 調査者氏名	<p>調査代表者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）</p> <p>調査者：柚原 剛（東北大学）、木下今日子（東北大学）、内野 敬（仙台市二華高校）、田所 悟（自然環境調査術）、北野慎容、吉田美沙希（三洋テクノマリン㈱）</p> <p>調査協力者：</p>

## (6) 環境の概要

B エリアの干潟の様子は 2018 年と同様であった。潮上帯 (B1 地点の陸側) にあるヨシ原は少し広がったようであった。2018 年には、ほとんどが砂泥質であったが、その後砂質化が少し進んだようで、B2 地点以外は砂質で少し泥分が混じる程度であった。一帯にカキ礁が広く点在する様子も、2018 年と同様であった。調査地点で凹地にたまっていた塩分は 8.6~17.2‰であったが、B3 地点の水域の塩分は 11.2‰であり、河川水の流入の影響を受けていた。酸化還元電位は B2 地点のみが弱還元的であった。



B1 地点



B2 地点



B3 地点



B エリア全景

A エリアと C エリアは広浦の潟湖の東側 (海側) に位置する。A エリアの底質は潮間帯上部 (A1 地点) では砂質で、20cm よりも下層には砂利が混じっていた。A2 地点は水際であり、泥混じりの砂質であった。この場所から沖側は泥分が多くなる。A2 地点よりも潟側のエリアにはカキ礁が多い。こうした状況は 2018 年と同様であった。A エリアの潮間帯上部から上にはヨシ原が存在する。

C エリアは 2018 年同様に砂泥質であったが、少し砂質的になったようであった。岸辺から潮下帯にかけて小さなカキ礁が多く点在する。陸側の地高が高いところにあるヨシ原は 2018 年に比べて少し広がったようであった。C1 地点の南側は入り江状になっており、2018 年には、その奥に転石帯があったが、現在はなくなっていた。C1 地点の岸辺近くは少しぬかるむが、それから沖側は砂泥質であり、中洲まで歩いて渡ることができる。中洲では一面にカキ礁が広がっていた。

A、C エリアの岸辺の水域の塩分は 17‰前後であった。B エリア側よりも少し高い値であった。また底質は酸化的であった。



A1 地点



A2 地点



ヨシ原 (A エリア)



C1 地点

## (7) 底生生物の概要・特徴

B エリア全体での出現種数は、2014 年が 35 種、2018 年が 47 種であったが、2021 年は 57 種であり、種数は増加していた。なかでも B2 地点で、より多く出現していた。B1 地点の潮上帯にあるヨシ原ではカワザンショウ類が複数種確認された。また、アカテガニが以前よりも多くみられた。B1 地点で優占していたのは多毛類のヤマトスピオと *Heteromastus* 属、小型甲殻類のニホンドロソコエビであった。コメツキガニも比較的多くみられた。2018 年に出現したマツカワウラカワザンショウも確認できた。B2 地点でもヤマトスピオと *Heteromastus* 属、ニホンドロソコエビが多く出現し、他にはムロミスナウミナナフシや二枚貝のイソシジミ、ソトオリガイ、ヤマトシジミが比較的多く出現した。B3 地点でも同様の傾向であった。絶滅危惧種のサビシラトリは広浦では比較的普通に出現していたが、本年も同様であった。2018 年に記録されていた多毛類のコアシギボシイソメやヤマトキョウスチロリは出現しなかった。十脚類の出現種は 2018 年とほぼ同様であったが、アシハラガニやチゴガニが新たに出現した。2018 年に出現したハサミシャコエビは出現しなかった。



マツカワウラカワザンショウ (B1)



アカテガニ (B1 ヨシ原)



ソトオリガイ (B2)



ニホンドロソコエビ (B2)

Aエリアでは2014年の23種、2018年の35種よりも多い45種が出現した。潮上帯のヨシ原ではカワザンショウ類やアシハラガニが確認されたが、2018年に出現したアカテガニはみられなかった。しかし、新たにクロベンケイガニやチゴガニが出現した。A1地点では、干潟でマツカワウラカワザンショウがみられた。二枚貝類では2014年、2018年同様イソシジミが多く、ソトオリガイも比較的多かった。他にはヤマトシジミが出現したが、アサリはみられなかった。多毛類では *Heteromastus* 属が多く、優占していた。他にはヤマトカワゴカイが出現したが、2018年にみられたアミメオニスピオは出現しなかった。甲殻類ではニホンドロソコエビ、ムロミスナウミナナフシ、ニホンスナモグリなどが出現した。A2地点では、二枚貝類ではイソシジミが多く、他にはサビシラトリ、ヒメシラトリ、アサリ、ヤマトシジミが出現した。2018年に出現したハマグリはみられなかった。多毛類では *Heteromastus* 属がA1地点同様に多く、ヤマトスピオも比較的多く出現した。甲殻類ではニホンドロソコエビ、ヨコヤアナジャコなどが出現したが少数であった。

Cエリアでは、2018年には48種が出現したが、2021年は34種であった。しかし、2014年の25種よりは多かった。ヨシ原内ではクリイロカワザンショウ、ヒナタムシヤドリカワザンショウがみられた。マツカワウラカワザンショウは干潟・ヨシ原内両方で確認された。また、アカテガニが2018年同様に出現した。干潟では二枚貝のイソシジミの他、ヤマトシジミもみられたが、サビシラトリやソトオリガイは出現しなかった。多毛類では、ヤマトスピオと *Heteromastus* 属が優占していたのは2018年と同様であったが、他にヤマトカワゴカイも比較的多くみられた。小型甲殻類ではニホンドロソコエビとムロミスナウミナナフシが比較的多くみられた。定性調査における十脚類について、干潟上で確認できたのはテッポウエビとニホンスナモグリだけであった。

広浦全体でみると、出現種数は2014年の42種に比べて、2018年は63種、2021年は69種であり、近年は多様性を維持していると言える。しかし、東日本大震災後にまだ回復していない種もあり、ウミニナ、ホソウミニナ、フトヘナタリ、オキシジミはまだ確認されていない。



ヤマトシジミ (A2)



ヨコヤアナジャコ (A2)



テッポウエビ (Cエリア)



ニホンスナモグリ (Cエリア)

## (8) その他特記事項

広浦の潟湖の周辺で行われていた護岸壁の改修はほぼ終了した。広浦大橋を海側に渡ったところにあったサイクリング施設は復旧し、新たに「名取サイクルスポーツセンター」として「輪りんの宿（名取ゆりあげ温泉）」とともに2020年10月にオープンした。本施設の整備に伴ってAエリアの東側（海側）の土手の部分は改修されたが、潮上帯のヨシ原は残され、干潟環境は保全されている。

## (9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、広浦サイト全体での2004年、及び2012年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（H'）、均等度指数（J'）の変化について以下の図にまとめた（図3-1-5-1、3-1-5-2）。

広浦サイトの定性調査における種数は、東日本大震災前（2004年）と東日本大震災直後（2012年）で種数、種組成ともに大きな変化はなく、2014年に種数が減少したものの、2015年は2004、2012年と同程度の種数が確認された（図3-1-5-1）。今年の調査では、調査開始以降最も多い種数となり、多毛類と十脚類が多くみられた。

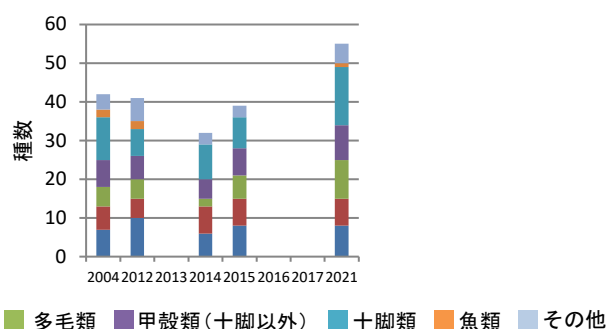


図3-1-5-1 広浦サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化

\* 東日本大震災前（2004年）は第7回基礎調査（干潟）のデータ、東日本大震災後は生態系監視調査のデータを用いた。

東日本大震災以降の状況を見ると、定量・定性調査を合わせて採集された種数は、2012、2014、2015年（2015年は定量のみ）とやや減少傾向だったが、今年の調査では60種を超える種数が



確認された（図 3-1-5-2）。平均個体数密度は、2012、2014 年と増加傾向にあったが、今年はさらに増加した。一方、種組成は多毛類が多く割合を占めたため、多様度指数、均等度指数ともに 2014 年よりもやや低い結果となった。

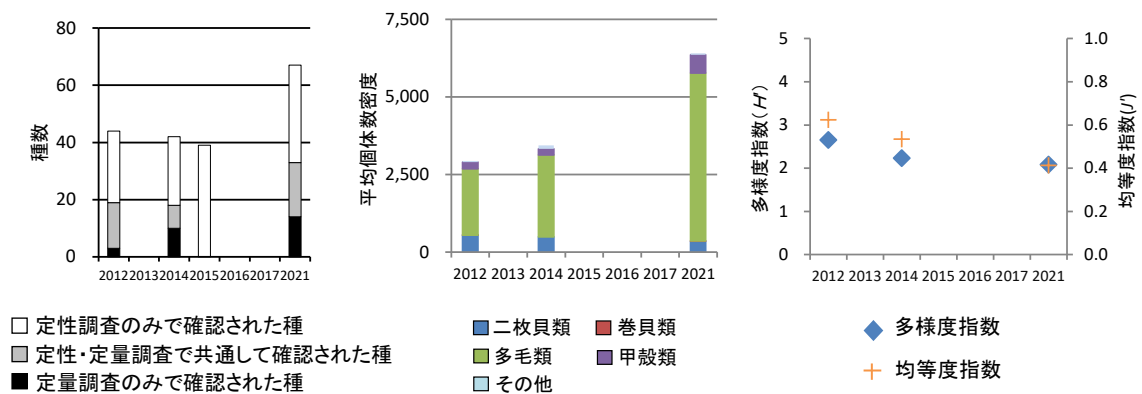


図 3-1-5-2 広浦サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）；Shannon-Wiener の多様度指数（H'）、Pielou の均等度指数（J'）の経年変化  
 \* 2013、2016、2017 年は調査を実施していない。また、2015 年は定量調査を実施していない。

写真撮影：鈴木孝男

6) 鳥の海

(1) サイト名	鳥の海	略号	TFTRN
(2) 調査地の所在	宮城県亶理郡亶理町		



- は、生態系監視調査（2021年）による調査地で、四角内に調査地点がある。
- は、生態系監視調査（2012～2015、2017年）による調査地で、円内に調査地点がある。
- ※2015年は定性調査のみ実施。
- ▲は、第7回基礎調査（干潟調査）（2004年）による調査地点を表す。

(3) 緯度・経度 (WGS84)	<p>A1（潮間帯中部）：38.0326° N、140.9170° E</p> <p>B1（潮間帯上部）：38.0308° N、140.9101° E</p> <p>C2（潮間帯中部）：38.0371° N、140.9029° E</p> <p>D2（潮間帯中部）：38.0290° N、140.9151° E</p> <p>E2（潮間帯中部）：38.0326° N、140.8987° E</p>
(4) 調査年月日	2021年 6月 13 ～ 14日
(5) 調査者氏名	<p>調査代表者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）</p> <p>調査者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）、木下今日子（東北大学）、 内野 敬（仙台市二華高校）、田所 悟（自然環境調査術）、北野慎容、 吉田美沙希（三洋テクノマリン株）</p> <p>調査協力者：</p>

## (6) 環境の概要

鳥の海は東西 2.2km、南北 1km 弱の広さを持つ潟湖干潟で、中央に蛭塚と呼ばれる小さな島がある。周囲は東日本大震災後に改修された堤防が連続しており、干潟内へ入るための陸閘が 10カ所設置されている。堤防の内側には中央部の水域を除いて周辺に干潟（約 60 ヘクタール）が出現する。この干潟の地形や出現状況は 2017 年とほぼ同様であった。しかし、東側の A1 地点、D2 地点ではより砂質化が進んだ印象を受けた。そうした場所ではコメツキガニが多くみられた。東側の潮上帯にあるヨシ原はより広がったようであるが、まだ背は低い。西側奥に広がる干潟は以前と同様であった。潮間帯下部の泥分が多くなるあたりにはカキ礁が散在するが、以前よりも少し増えたようである。

水域の塩分は、20.6‰～29.6‰であり、2017 年の調査時に比べて高い値を示した。調査日以前に雨が少なかったこともあるが、潟内の海水交換は保たれていると考えられる。しかし、塩分は河川水や農業排水の量にも依存することから、引き続き低塩分化には注意が必要である。

底土の酸化還元電位は 2017 年とほぼ同様の値を示した。E2 地点が弱還元的であったが他は砂質が主体であり、酸化的であった。



A1 地点



B1 地点



C2 地点



D2 地点



E2 地点

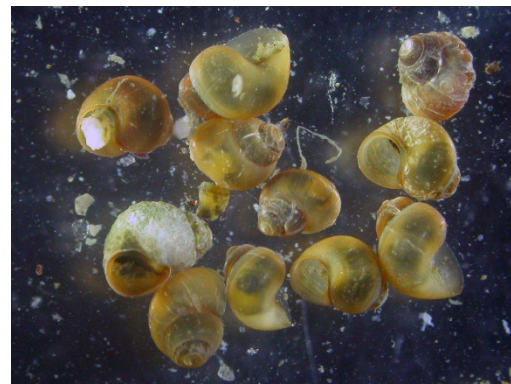
## (7) 底生生物の概要・特徴

鳥の海全体での出現種数は2014年の53種、2017年の63種よりも多い69種が確認された。そのうち新規に出現した種は9種であったが、2017年と比較して構成種に大きな変化は認められなかった。全体的に砂質化が進んだことで、コメツキガニが全域に出現し、東側や南側の砂質干潟では密度も高かった。また、東側ではヨシ原内を含めてホソウミニナが増加し、2013年に初めて確認されたマツカワウラカワザンショウも分布域を広げ、多くみられるようになった。絶滅危惧種のサザナミツボ、ハマグリなどが2017年に続いて出現したほか、ヨシダカワザンショウ、トリウミアカイソモドキ、アカテガニなどは本調査においては初めて確認された。

A1地点では33種が出現した。ホソウミニナ、マツカワウラカワザンショウが多く、コメツキガニが多く徘徊していた。二枚貝ではサビシラトリとイソシジミが出現し、多毛類ではヤマトスピオ、ドロオニスピオ、*Heteromastus* 属が優占していた。東側に少し離れてヨシ原があるが、そこでアカテガニの生息を東日本大震災後初めて確認した。



ホソウミニナ (A1)



マツカワウラカワザンショウ (A1)

B1地点では36種が出現した。潮下帯の汀線付近ではカキ礁が少し増えたようだ。イソシジミとソトオリガイが比較的多く出現し、コメツキガニやマツカワウラカワザンショウは増加した。ホソウミニナは少なかった。また、アナジャコ類の巣穴に共生するトリウミアカイソモドキが出現した。ハマグリはこのエリアでよくみられていたが、今回は定性調査で1個体の確認のみであった。多毛類の出現種は2017年とほぼ同様であったが、今回はアミメオニスピオが新たに確認された。本種は2017年までの調査ではドロオニスピオと混同されていたものと思われる。護岸近くには砂が堆積し、乾いた砂浜が少しみられるが、そこでスナガニとヒゲナガハマトビムシが東日本大震災前後を通じて初めて出現した。



スナガニ (B1)



ハマグリ (B1)

C2 地点での出現種数は 35 種で、2014 年の 24 種、2017 年の 29 種よりも多かった。イソシジミ、ソトオリガイの二枚貝のほか多毛類が多く出現するが、組成は 2017 年とほぼ同様であった。地高が高いところにはコメツキガニが生息している。ホソウミニナがこのエリアでは初めて確認されたが、サザナミツボは出現しなかった。また、ニホンスナモグリにスナモグリヤドリムシが寄生しているのがみつかった。ハサミシャコエビは 2015 年以降では初めての出現であった。水辺にはカキ礁が多く点在する。



イソシジミ (C2)

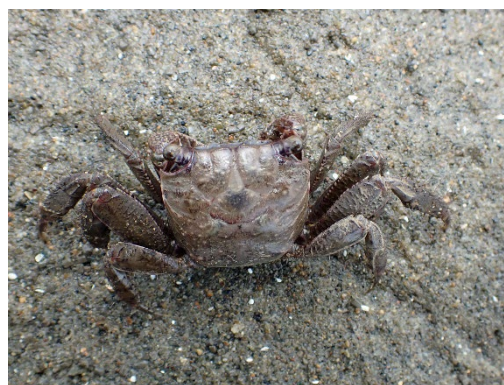


ハサミシャコエビ (C2)

D2 地点は、より砂質化が進んだようであった。干潟面にはホソウミウナやコメツキガニが多く、マツカワウラカワザンショウが場所によっては高密度で生息していた。二枚貝ではこれまでと同様にイソシジミとソトオリガイが多く出現した。しかし、多毛類は貧弱であり、甲殻類も出現種数は増加したが、コメツキガニ以外は少なかった。東側に生育するヨシ原内でクロベンケイガニを生態系監視調査では初めて確認した（別途調査では 2012、2018 年に確認されている）。出現種数は 31 種で、2014、2017 年と同等であった。



コメツキガニ (D2)



クロベンケイガニ (D2)

E2 地点での出現種数は、2014、2017 年及び今年について、26、28 及び 32 種と少し増加していた。二枚貝のイソシジミとソトオリガイが比較的多くみられたが、サビシラトリは少なかった。また、ヤマトシジミはこの地点でのみ確認された。さらに絶滅危惧種のサザナミツボが 1 個体確認された。多毛類ではヤマトスピオが極めて多く、優占種となっていた。他には *Heteromastus*

属、*Capitella* 属、ヤマトカワゴカイが出現した。*Notomastus* 属は出現しなかった。小型甲殻類ではニホンドロソコエビとムロミウミスナウミナナフシが定量調査でも確認されたが2017年に比べて少なかった。また、十脚類ではヤマトオサガニのほか、チゴガニやハサミシャコエビが新たにみられたが、アリアケモドキは出現しなかった。

<注>カワゴカイ属は、ヤマトカワゴカイの可能性が高いことから、本文中では種数に数えていない。



サザナミツボ (E2)



ヤマトスピオ (E2)

#### (8) その他特記事項

鳥の海の周囲での堤防の復旧工事は終了したことから、干潟に入るには、堤防に設けられた陸間を開ける必要がある（通常は施錠されている）。しかし、A1 地点と D2 地点には、堤防を越えて内側に侵入できる車道を利用できる。E2 地点では堤防内側に梯子が設置されているので、脚立があれば干潟に降り立つことができる。中央部にある蛭塚（公園となっていた小島で、橋が架けられている）の整備は終了した。西側の湿地（ほとんどがヨシ原）には海水が入るように水路が作られた。しかし、地高が高く乾燥化が進んでいる。湿地周辺も地高が高いところ一帯はウミネコの集団繁殖地になっている。

アサリの観光潮干狩りはまだ復活していない。

#### (9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、鳥の海サイト全体での2004年、及び2012年以降の種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（*H'*）、均等度指数（*J'*）の変化について以下の図にまとめた（図3-1-6-1、3-1-6-2）。

鳥の海サイトの定性調査における種数は、東日本大震災直後（2012年）から2013年まで種数が減少したものの、2014年以降は増加し、2017年には東日本大震災前（2004年）と同程度の種数が確認された（図3-1-6-1）。今年の調査における種数は東日本大震災前よりも多い種数が確認され、種組成は2017年と比較して巻貝類がやや増加した。

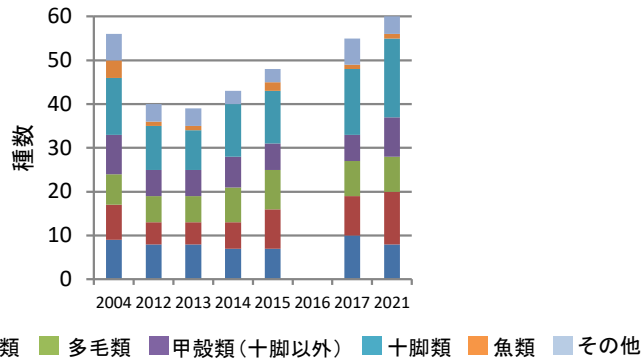


図 3-1-6-1 鳥の海サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化  
 \* 東日本大震災前（2004 年）は第 7 回基礎調査（干潟）のデータ、東日本大震災後は生態系監視調査のデータを用いた。2016 年は調査を実施していない。

東日本大震災以降の状況を見ると、定量・定性調査を合わせて採集された種数は、2014 年、2015 年にやや落ち込んだものの、2017 年は 60 種を超える種数が確認され、今年（2021 年）は調査開始以降最も多い種数がみられた（図 3-1-6-2）。平均個体数密度、多様度指数及び均等度指数について、2012 年は甲殻類が他年度と比べて高密度であったため、多様度指数や均等度指数が低かったが、これはニホンドロソコエビが数地点において高密度で記録されたためである。今年の平均個体数密度は、2017 年よりやや増加し、2012 年から 2014 年、2017 年に比べて巻貝類の占める割合が多くなった。多様度指数、均等度指数は 2017 年よりやや低下した結果となった。

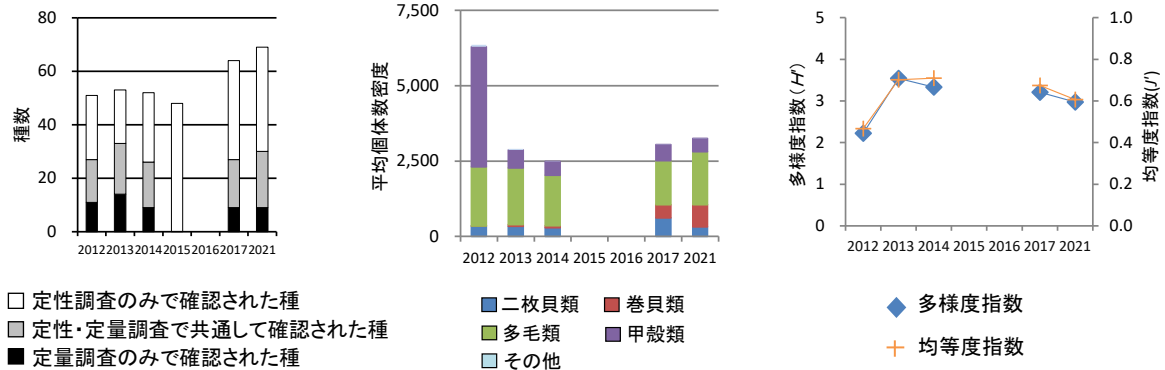


図 3-1-6-2 鳥の海サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）；Shannon-Wiener の多様度指数 (H')、Pielou の均等度指数 (J') の経年変化  
 \* 2016 年は調査を実施していない。また、2015 年は定量調査を実施していない。

写真撮影：鈴木孝男

## 7) 鮫川

(1) サイト名	鮫川	略号	TFSMG
(2) 調査地の所在	福島県いわき市		
 <p>調査年  <span style="color: blue;">■</span> 2021 年  <span style="color: red;">●</span> 2015～2017 年</p> <p>0 0.5 1 2 km 国土地理院</p>			
<p>■は、生態系監視調査（2021 年）による調査地で、四角内に調査地点がある。</p> <p>●は、生態系監視調査（2015～2017 年）による調査地で、円内に調査地点がある。</p> <p>※2015 年は定性調査のみ実施。</p>			
(3) 緯度・経度 (WGS84) *今年度実施無	A1（潮間帯中部）：36.9121° N、140.8184° E *A1（潮間帯上部）：36.9123° N、140.8181° E（2015） A2（潮間帯下部）：36.9114° N、140.8175° E B1（潮間帯中部）：36.9037° N、140.8058° E B2（潮間帯中部）：36.9103° N、140.8029° E		
(4) 調査年月日	2021 年 8 月 10 ～ 11 日		
(5) 調査者氏名	調査代表者：金谷弦（国立環境研究所） 調査者：鈴木孝男（みちのくベントス研究所）、多留聖典（東邦大）、海上智央（㈱自然教育研究センター）、青木美鈴（WIJ）、田所 悟（自然環境調査術）、北野慎容、吉田美沙希（三洋テクノマリン㈱） 調査協力者：菅孔太朗（岩手医科大）、阿部博和（岩手医科大）		



## (6) 環境の概要

鮫川河口左岸のラグーン部に、Aエリア（A1地点とA2地点）を設定した。ラグーン部の底質は砂質～泥質であり、水路沿いには礫も点在した。潟湖内ではボウアオノリやオゴノリがみられた。ラグーン内では、陸側にあった垂直護岸の復旧工事が2015年夏以降実施され、新たな山型護岸は旧護岸から10mほどラグーン内に張り出す形で建設された。防潮堤復旧工事は2018年度に終了し、かつてラグーン陸側にあった干潟・ヨシ原は大部分が失われたが、A1地点の東側にヨシ原が一部残っている。2014年以前と比較してラグーン部は狭く浅くなったが、これは防潮堤建設時の地形変化と台風等の高潮による漂砂の持ち込みの影響と考えられる。地形の変化により勿来火力発電所からの排海水がラグーン部にあまり流入しなくなったため、2015年以前に25%を越えていた塩分は、2016年の調査時（3.5～3.6%）より上昇したものの、2017年調査時（13.9～20.3%）とほぼ同様の16.0～21.4%であった。ラグーン内で2015年調査時にみられたアマモのパッチも消失しており、これは低塩分化によるものと思われた。

A1地点における定性調査は、発電所の冷却海水が放出される「排水柵」よりも北東のラグーン部で行い、ラグーン内での定性調査結果は全てA1地点の結果に含めた。A2地点は、復旧工事前の2015年まではラグーンの海側岸際に設定されていたが、地形が変わったため定量調査のみをラグーン部の水路内で実施した。A2地点の定量調査地点から西側には発電所の「排水柵」から海水が流入しており、「排水柵」から海へと向かうと、海への開口部付近に「護岸・転石帯」「砂地」が維持されている。A2地点における定性調査はこれらの「排水柵」「護岸・転石帯」「砂地」でそれぞれ行った。排水柵内の塩分は30.3%、海への開口部の塩分は25.8%であった。



A1 地点



A2 地点

前方が海への開口部



後背地の火力発電所と防潮堤。A1 地点  
近傍の暗渠から河川水が流入している。



定性調査を行った「排水柵」  
手前が「砂地」

鮫川河口部のBエリアでは、右岸の中田川合流部近傍にあるヨシ原（B1地点）と、B1地点から800mほど上流右岸の河口干潟（B2地点）に調査地点を設定した。鮫川河口部は河川堤防の改修工事が2018年度に完了し、下部に垂直の矢板が打ち込まれたコンクリート製堤防が建設された。中田川流入部（B1地点）では、東日本大震災前にあった防潮水門を海側に移設する工事が2014年度から2017年度にかけて実施された。B1地点近傍の河川堤防はヨシ原に繋がる土手であり、法面にはクロベンケイガニやハマガニの巣穴が多くみられたため、このエリアは水門工事時に、福島県により生息域保全のための配慮（法面への立ち入り禁止、作業道の冲出し、巣穴エリアへの通水）が実施された。B1地点近傍では工事によって減少したヨシ原が回復しつつある。B1地点の底質は泥質～砂質であり、常時開門している水門を通じて中田川からの淡水流入の影響を強く受けている。B2地点は、河川敷の前面に発達した河口干潟であり、周囲にはヨシ原が広がる。底質は河川中央部では礫混じりの砂泥であるが、岸際のヨシ帯近傍は泥干潟である。本地点は、河川堤防からは離れており工事の影響は少ない。2020年8月に訪れた際に、B2地点の河道部の干潟に砂礫が20cmほどの厚さで堆積しており、今年もその状態が維持されていた。2019年秋の台風（15号および19号）による出水の影響によるものかもしれない。



B1地点の水門上流左岸。ヨシ原と土手の際がハマガニの生息エリア。



B1地点の水門外側。護岸基部のヨシ原が回復傾向。この場所でもハマガニがみつかった。



B2地点での定量調査



B2地点での定量調査。右手奥の干潟には砂礫が堆積して地盤が高くなった。

## (7) 底生生物の概要・特徴

A1、A2、B1、B2 の各地点で調査を行なった。河口左岸のラグーン部（A1、A2 地点）では 82 種の底生生物が確認された（以下、集計結果は魚類を除いたもの）。中田川河口部を含む河口右岸域（B1、B2 地点）では、44 種が出現した。A エリア（A1、A2 地点）と B エリア（B1、B2 地点）を合算すると全部で 110 種の底生生物が確認された。

生息環境と出現種の間を以下に述べる。

A1 地点では、定量調査で 6 種、定性調査で 21 種が出現し、これらを合算した出現種は 21 種であった。定量採集では、ニホンドロソコエビ、ムロミスナウミナナフシおよびヒゲツノメリタヨコエビが優占し、ヒメヤマトカワゴカイ、*Notomastus* 属の一種および *Gnorimosphaeroma* 属の一種も得られた。A1 地点には小河川が流入しており、塩分は 16.0~21.4%と汽水環境となっていた。定量採集の優占種はいずれも、低塩分の汽水域に生息可能な種であると考えられる。A1 地点東側のヨシ原ではカワザンショウガイ、クロベンケイガニ、アカテガニが確認された。2016 年と 2017 年の調査では、カワザンショウ類は確認できておらず、2018 年~2020 年夏に実施した自主調査でもみられなかったことから、ラグーン部でのカワザンショウガイ類の記録は 2015 年 8 月以来となる。また、今年の調査では 2015 年 8 月の調査時を最後に鮫川ラグーン内では絶滅したと考えられていたホソウミニナが再発見された。本種は、2021 年 5 月に金谷がラグーン部を訪れた際に確認していたが、本調査時にも確認することが出来た。本種は復旧工事にもなう低塩分状態により死滅したと考えられていたが（金谷ら 2019）、ラグーン部海側にある 5 m 四方ほどの水たまり中の高塩分環境（塩分 25%以上）で生き延びていたものと推定された。殻長 20mm を越える個体が多かったことから、少なくとも 3 年以上は生存していると考えられた。

A2 地点では、定量・定性調査を合算した出現種は 74 種であった。ラグーン内で行った定量採集では、A1 地点で採取された種にキシイタナイスとイソシジミを加えた 9 種が得られた。塩分は A1 地点よりも低く、16.0~16.3%であったが、定性調査を実施した排水枡内は 30.3%、海への開口部にある砂底の塩分は 25.8%と高かった。定性調査では全部で 71 種が記録された。「排水枡内」の定性調査では 39 種が確認され、護岸壁面に付着したイシダタミやレイシのような付着性種に加え、枡の隅にわずかに堆積した泥の中からモモノハナ、サクラガイ、シズクガイ、チョノハナガイのような主に潮下帯に生息する二枚貝類や、ケンサキスピオ、ミツバネスピオ、タケフシゴカイの仲間 (*Euclymeninae* 亜科の一種)、ナガホコムシのような多毛類が採取された。海への開口部に面した「砂地」の定性調査では 23 種が記録され、ホタルガイ属の一種、コタマガイ、フジノハナガイといった開放的な砂浜海岸に生息する種や、タマシキゴカイ、イソタマシキゴカイのような多毛類も確認された。海への開口部に面した「護岸・転石帯」の定性調査では 26 種が記録され、ヒザラガイの仲間やカサガイ類、ムラサキインコ、マガキ、イワガキのような付着性種が多くみられた。転石の下ではヒライソガニや多毛類の *Marphysa* 属の一種 (C) が確認された。

2015 年の調査時には A2 地点のラグーン部分で多くの希少な海産種(二枚貝のフジナミガイ、ユウシオガイ、オオモノハナ、オオノガイ、サクラガイ、スジホシムシモドキヤドリガイ、アサヒキヌタレガイ、ユムシ類のドチクチユムシ、ホシムシ類のスジホシムシとスジホシムシモドキなど) が確認されていたが、2016 年以降、これらの底生生物はラグーンの低塩分化によ

りみることが出来なくなった（一部の種は排水枡内で確認）。

希少な種としては、A1 地点でオオノガイ、*Notomastus* 属の一種、アカテガニ、スナガニが確認された。A2 地点の「排水枡」でモモノハナ、サクラガイ、「砂地」ではスナガニ、定量調査に *Notomastus* 属の一種が出現した。A エリアの多様性と希少種数は、特にラグーン内において復旧工事以前と比較して低下したままである。

B1 地点では、定量・定性調査を合算した出現種は 41 種であった。定量採集では 12 種が確認され、二ホンドロソコエビやイトゴカイ科の *Heteromastus* 属の一種が優占した。定性調査では 37 種が確認され、干潟部での定性調査で 30 種、植生帯（ヨシ原）で 12 種が記録された。水門の建設工事により減少したヨシ原は回復傾向にあり、水門上流左岸の土手法面には多くのカニの巣穴が確認され、アシハラガニ、クロベンケイガニ、アカテガニやハマガニがみられた。水門下流の護岸転石帯ではカクベンケイガニやイシマキが確認された。ヨシ原内では希少種であるヨシダカワザンショウ、クリイロカワザンショウ、ヒナタムシヤドリカワザンショウ、ツブカワザンショウを含むカワザンショウガイ類 6 種が確認された。



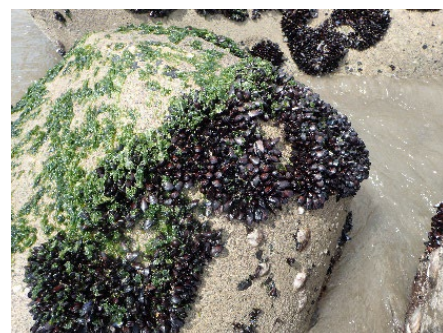
ホソウミニナが確認された  
高塩分の水たまり



ラグーン内で確認されたホソウミニナ  
本調査においては 2015 年 8 月以来の再確認



スナガニの巣穴



海への開口部の消波ブロックに付着  
したムラサキインコ

B2 地点で定量・定性調査を合算した出現種は 34 種であった。定量調査で 6 種が記録され、ムロミスナウミナナフシ、二ホンドロソコエビや *Heteromastus* 属の一種が優占した。定性調査では 29 種が記録され、岸際の干潟でヤマトシジミ、アリアケモドキやチゴガニ、ヤマトオサガニといった汽水性種を含む 26 種の生息が確認された。ヨシ原内ではカワザンショウ類やクロ

ベンケイガニを含む6種が確認された。外来種としては、タイワンシジミが初めて記録され、ヨーロッパフジツボも記録されたが、以前確認されたムラサキイガイ、コウロエンカワヒバリガイ、タテジマフジツボは確認されなかった。

<注>「ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ」は、「ヤマトカワゴカイ」「ヒメヤマトカワゴカイ」どちらかに含まれるため、本文中における両種が出現している地点では種数に数えていない。



ヨシ原の上部に深い穴を掘って暮らす  
希少種ハマガニ



希少な種ヤマトシジミ



低塩分の汽水域に特徴的なゴカイの  
仲間であるイトメ



泥干潟に穴を掘って暮らす  
ヤマトオサガニ

今年の調査では、4地点において以下の絶滅危惧種（15種）が記録された。

◇ラグーン部（A1、A2地点の定量）

オオノガイ（宮城県 NT、環境省 NT）、

アカテガニ（宮城県 NT）

スナガニ（宮城県 VU）

*Notomastus* 属の一種（宮城県 NT）

◇排水枡（A2地点の定性）

モモノハナ（環境省 NT）

サクラガイ（宮城県 DD、環境省）

*Notomastus* 属の一種（宮城県 NT）

◇河口部（B1、B2地点）

イシマキ（宮城県 DD）

ヨシダカワザンショウ（宮城県 VU、環境省 NT）  
 クライロカワザンショウ（宮城県 NT、環境省 NT）  
 ヒナタムシヤドリカワザンショウ（宮城県 VU、環境省 NT）  
 ツブカワザンショウ（宮城県 VU、環境省 NT）  
 ヤマトシジミ（環境省 NT）  
 イトメ（宮城県 NT、環境省 NT）  
*Notomastus* 属の一種（宮城県 NT）  
 アリアケモドキ（宮城県 NT）  
 アカテガニ（宮城県 NT）  
 ハマガニ（宮城県 CR+EN、環境省 NT）

#### 引用文献

金谷弦、多留聖典、柚原剛、海上智央、三浦収、中井静子、伊藤萌、鈴木孝男（2019）福島県いわき市鮫川干潟における大型底生動物の多様性－東日本大震災後の状況と復旧工事による影響－. 日本ベントス学会誌 73: 84-101.

#### (8) その他特記事項

2015年以前の鮫川河口は種多様性が高く、多くの希少種が確認されていた。この理由としては、干潟、ヨシ原、ラグーン、河川からの淡水流入、火力発電所からの排水（海水）の流入、河川堤防の土手、護岸といった多様な生息場所・環境の存在が挙げられる。しかし、防潮堤の復旧・形状変更工事によりラグーン部の陸側では干潟やヨシ原が埋立てられ、地形の変化で潟湖内が低塩分化した。これにより、ラグーン部では多くの底生生物種がみられなくなった。台風や津波（2016年）によるラグーン部への砂の流入による影響もあったと推測される。一方、高塩分環境が維持された水たまりでは、2016年に死滅したと思われていたホソウミニナが生き延びていたことが確認され、生息環境（本種の場合は高塩分）の保全が底生生物の多様性維持に不可欠であることが示唆された。

鮫川の河口部（B1地点）では2014年以降2018年まで水門と河川堤防の改修工事が行われてきた。河川堤防は下部が垂直の矢板となっており、干潟と陸地との間で底生生物の移動ができない構造となっている。しかし、今年の調査時には矢板前面に砂泥が堆積してスロープ状の地形となり、アカテガニなどの生息場となったエリアも確認された。また、B1地点の水門建設現場周辺ではヨシ原が減少したが、再び面積が拡大傾向にあった。B1地点の中田川河口部のヨシ原とその後背地の堤防土手は絶滅危惧種ハマガニの生息場所として重要であるが、今年の調査時にも複数個体が確認されたため、復旧工事時に講じた保全策（生息場である法面の保護、生息場をつぶさないための作業道の冲出し、通水）が有効であったと考えられた。

(9) 震災前後・震災以降の変化状況

2017年度にとりまとめた全種リスト（出現種リスト参照）を更新、整理して、鮫川サイトの種数、各分類群の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）、多様度指数（ $H'$ ）、均等度指数（ $J'$ ）の変化について、以下の図にまとめた（図 3-1-7-1、3-1-7-2）。

鮫川サイトは第7回基礎調査（干潟）では調査対象地ではなかったため、東日本大震災前の状況は不明である。定性調査の結果から、2015年から2017年にかけて80種程度の底生生物種が確認され、今年（2021年）は100種を超える底生生物種が確認された（図 3-1-7-1）。また、2017年と今年を比較し、二枚貝類および多毛類が増加したものの、種組成に大きな変化はみられなかった。

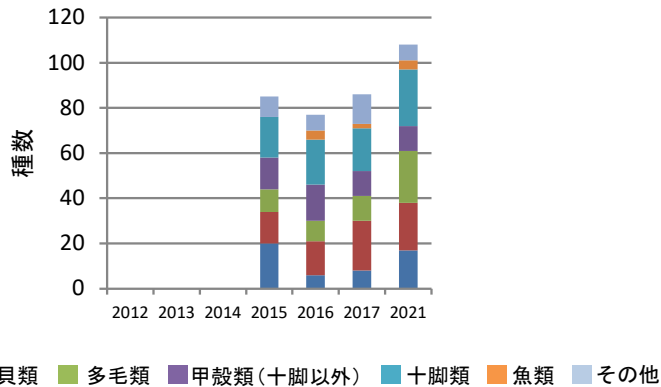


図 3-1-7-1 鮫川サイトの定性調査における分類群別の出現種数の変化

\* 東日本大震災前（2012年）に第7回基礎調査（干潟）は実施していない。また、2012～2014年の調査は実施していない。

定量・定性調査を合わせて採集された種数は、2015年から2017年にかけて増加傾向がみられ、今年（2021年）は調査開始以降最も多くの種数が確認された（図 3-1-7-2）。今年の平均個体数密度は、2017年と同程度となった一方、ニホンドロソコエビが多くみられるなど、大部分を特定の甲殻類が占める結果になった。分類群の偏りがみられたため、多様度指数、均等度指数ともに2017年より低下した。

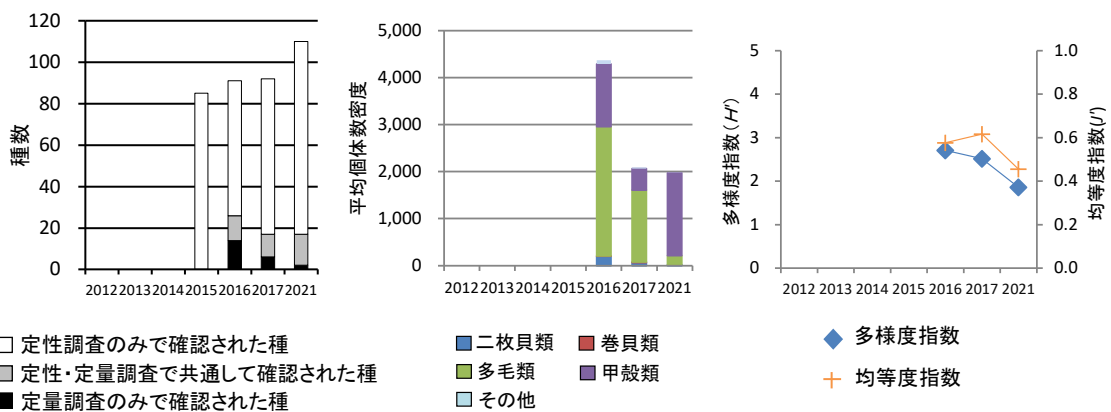


図 3-1-7-2 鮫川サイトにおける種数（定量調査と定性調査）；各分類群別（二枚貝類、巻貝類、多毛類、甲殻類、その他）の平均個体数密度（個体数/m<sup>2</sup>）；Shannon-Wiener の多様度指数（ $H'$ ）、Pielou の均等度指数（ $J'$ ）の経年変化

\* 鮫川サイトでは2012～2014年の調査は実施していない。また、2015年は定量調査を実施していない。

## 3.2. 藻場調査

## 1) 三陸海岸（山田湾）

(1) サイト名	三陸海岸（山田湾）	略号	ABYMD
(2) 調査地の所在	岩手県下閉伊郡山田町		
 <p>調査年 ● 2012～2016、2021年 ■ 2005年</p> <p>0 0.5 1 2 3 4 km 国土地理院</p>			
(3) 緯度・経度 (WGS84)	ライン起点：39.4765° N、142.0086° E ライン方角：275°		
(4) 調査年月日	2021年 10月 29日		
(5) 調査者氏名	調査代表者：田中次郎（東京海洋大学） 調査者：田中次郎（東京海洋大学）、青木優和（東北大学）、鈴木はるか（東北大学）、田所悟（自然環境調査(有)）、北野慎容、吉田美沙希（三洋テクノマリン(株)） 調査協力者：三陸やまだ漁協		

●は、生態系監視調査（2012～2016、2021年）による調査地で、円内に調査地点がある。

■は、第7回基礎調査（藻場調査）（2005年）による調査地点を表す。



## (6) 環境の概要

山田湾は、東に開けた湾であり、湾口部は細く、外洋からの波の影響は受けにくい地形である。調査地点は、湾口部（明神岬）のすぐ内側に位置し、海底地形は、切り立った岩壁であり、急深に落ち込んでいる。底質は、岩盤と主に小礫からなる。今年度調査の結果、大型褐藻植物は、低潮線付近近の一部の岩礁上にヒジキがみられたのみであった。

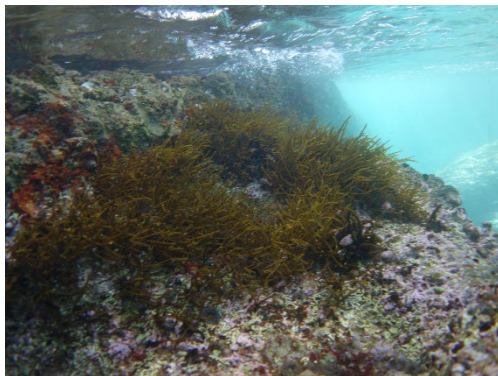
湾口部の外海側は岩盤や巨礫の多い岩礁域であり、波当たりが強い。



調査測線の起点付近



起点付近の海底の状況



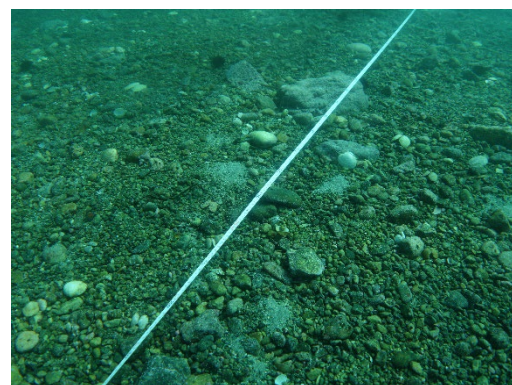
ヒジキ



ヒライボ



キタムラサキウニ



調査測線の終点付近

(7) 藻場の概要・特長

今年度の調査では、20種の海藻が確認された。大型海藻はヒジキがみられたが、2015年まで観察されていたマコンブはみられなかった（表3-2-1-1）。

表 3-2-1-1 三陸海岸（山田湾）出現種リスト

網	目	科	種名 (和名)	三陸海岸（山田湾）							
				2005	2012	2013	2014	2015	2016	2021	
珪藻綱			珪藻綱								○
緑藻綱	シオグサ目	シオグサ科	フトジュズモ	□							
			シオグサ属の一種	□							
	ミル目	ミル科	ハイミル	□							
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	シワヤハズ	□							
			アミジグサ	□		○	○	○	◎	○	
			アミジグサ属の一種		○						
			フクリンアミジ								○
	ナガマツモ目	ナガマツモ科	フトモズク	□							
		ネバリモ科	ネバリモ	□							
	コンブ目	チガイソ科	ワカメ	□				○			
		ツルモ科	ツルモ	□							
		スジメ科	アナメ		●	●					
			スジメ	□							
	コンブ科	マコンブ	□	◎	◎	◎	◎				
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	フシシジモク		○						
			シダモク			○					
			ヒジキ				○	○	◎	◎	
			ノコギリモク	□							
			トゲモク		◎	◎					
ヨレモク			□		○						
紅藻綱	ベニマダラ目	ベニマダラ科	ベニマダラ							○	
サンゴモ目	サンゴモ科	ヒライボ			○	○	○			◎	
		イソキリ			○	○	○	◎	◎		
テングサ目	テングサ科	マクサ								○	
スギノリ目	リュウモンソウ科	アカバ								○	
スギノリ目	スギノリ科	ツノマタ									○
		ツノマタ属の一種									○
		アカバギンナンソウ	□								
		ムカデノリ			○						
		ヒトツマツ									●
		ツノムカデ									○
		ヒラムカデ									○
		ムカデノリ属の一種				○					
		キョウノヒモ	□								
		トサカマツ									○
		ベニスナゴ科	ベニスナゴ			○					
マサゴシバリ目	マサゴシバリ科	タオヤギソウ			○						
イギス目	フジマツモ科	ウラソソ								○	
		ミツデソソ								○	
		ソソ属の一種			○						
		イトグサ属の一種				○					
-	-	-	紅藻綱の一種					○			
単子葉植物綱	オモダカ目	シオニラ科	スガモ				●				
			殻状褐藻		○	○	○	○	○	○	
			無節サンゴモ			○	○	○	○	◎	

2005：第7回基礎調査（藻場調査）、2012～2021：生態系監視調査の結果

□：第7回基礎調査（藻場調査）出現種、○：定性（ライン）調査の確認種、●：定量（方形枠）調査の確認種、

◎：定性・定量調査の両方での確認種

定性（ライン）調査：今年度の調査では、大型褐藻類は、水深約2m以浅にヒジキのみで、マコンブといった大型褐藻類はみられなかった（表3-2-1-1、図3-2-1-1）。起点から沖側30m 以上では底質が小礫や砂が多いため海藻は少なかった。

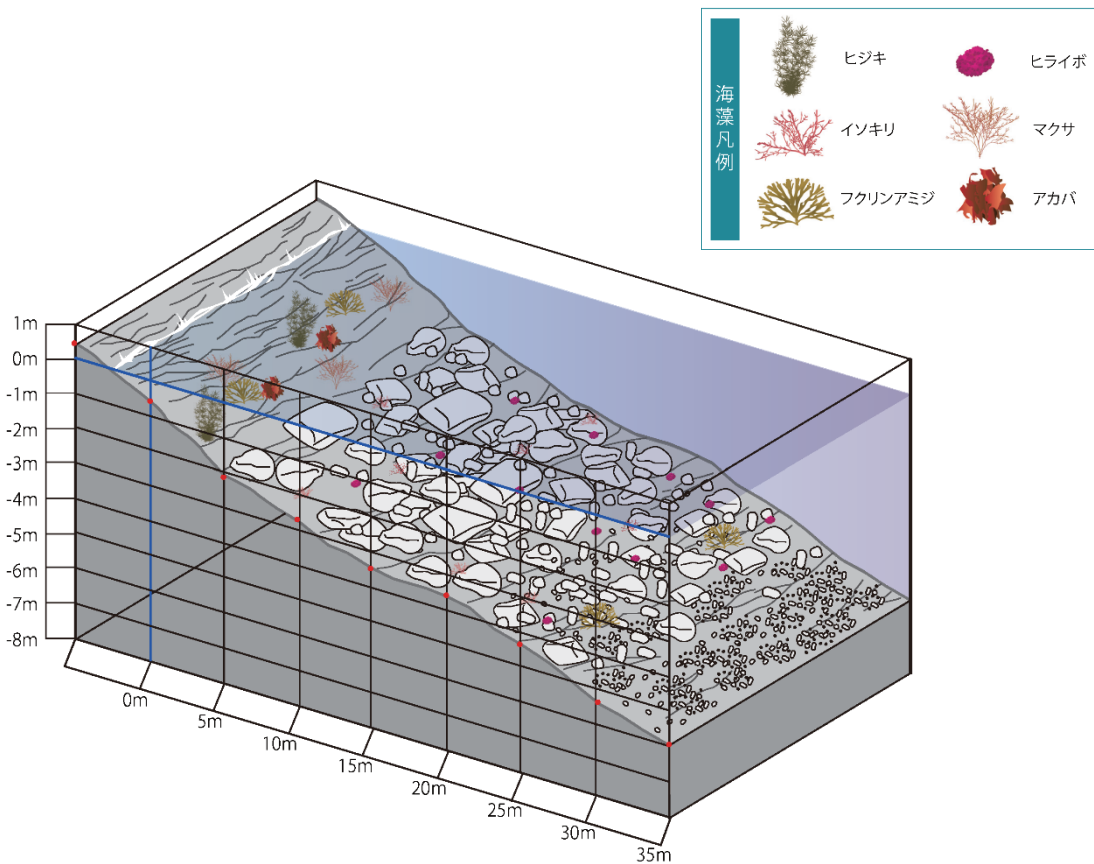


図 3-2-1-1 2021 年の三陸海岸（山田湾）の定性（ライン）調査の結果の模式図

定量（方形枠）調査：今年度は方形枠を4箇所を設置した（図3-2-1-2）。各方形枠で優先していたのはヒジキ（被度40%）、無節サンゴモ（85%、100%、100%）であり、方形枠1ではヒトツマツ（30%）、方形枠3・4ではヒライボ（20%、80%）もみられた。

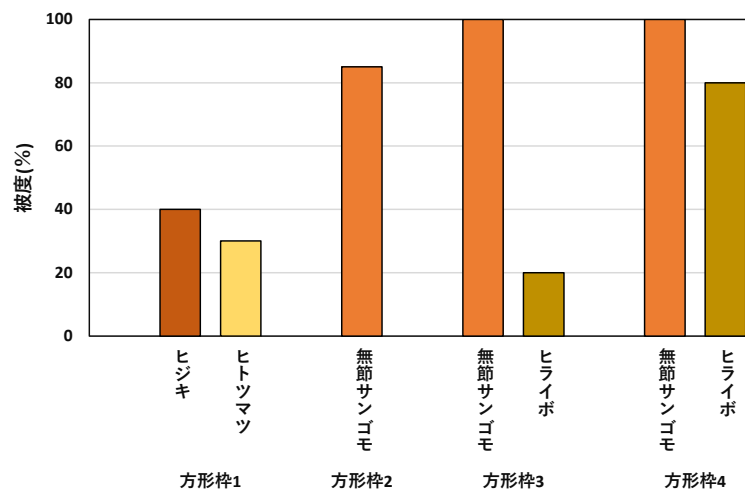
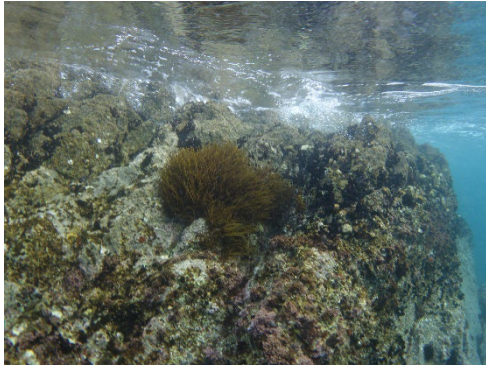


図 3-2-1-2 2021 年の三陸海岸（山田湾）の定量（方形枠）調査で観察された方形枠の被度

## (8) その他特記事項

2013年から2015年調査時に調査測線から約50m西側の湾口寄りの地点でみられていたトゲモク群落や、2016年調査時に外洋側の水深5m程度の巨礫や岩盤上でみられていたコンブ群落は、いずれも今年度の調査時にはみられなかった。



湾口寄りの地点の状況



湾口部の外洋側の状況

写真撮影：青木優和、北野慎容

## 2) 女川湾

(1) サイト名	女川湾	略号	ABONG
(2) 調査地の所在	宮城県牡鹿郡女川町		
 <p>調査年 ● 2012～2017、 2021年 ▲ 2007年</p> <p>0 0.5 1 2 3 4 km 国土地理院</p>			
<p>●は、生態系監視調査（2012～2017、2021年）による調査地で、円内に調査地点がある。</p> <p>■は、第7回基礎調査（藻場調査）（2007年）による調査地点を表す。</p>			
(3) 緯度・経度 (WGS84)	ライン起点：38.4375° N、141.4573° E ライン方角：120°		
(4) 調査年月日	2021年 9月 14日		
(5) 調査者氏名	調査代表者：田中次郎（東京海洋大学） 調査者：田中次郎（東京海洋大学）、青木優和（東北大学）、鈴木はるか（東北大学）、田所悟（自然環境調査有）、北野慎容（三洋テクノマリン株）		

## (6) 環境の概要

調査地は、リアス式湾の典型ともいえる女川湾の湾奥部南岸に位置しており、第7回基礎調査（藻場調査）の調査地点であった沖防波堤（2011年3月の東日本大震災により決壊したがその後復旧されている）と、内側の防波堤の間の内湾側である。設置した調査測線の起点は、防波堤の付け根より約20m西側である。底質は、主に岩盤、巨礫、小礫からなる。沖防波堤の湾内側であるため比較的静穏である。



調査地



調査測線の起点付近



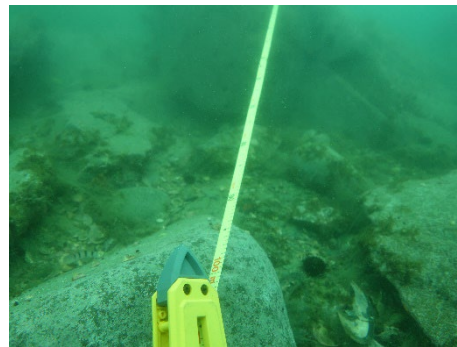
アカバ



ハリガネ



アカモク（幼体）



調査測線の終点付近

(7) 藻場の概要・特徴

2011年3月の東日本大震災以降、2012～2015年度までは、マコンブがみられていたが、2016年度以降は確認されず、今年度においてもマコンブはみられなかった（表3-2-2-1）。

表 3-2-2-1 女川湾 出現種リスト

網	目	科	種名 (和名)	女川湾								
				2007	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2021	
緑藻綱	アオサ目	アオサ科	ナガアオサ			○	○					
			ヒラアオノリ		○							
			ウスバアオノリ				○					
			アナアオサ		○			○			○	
	シオグサ目	シオグサ科	アサミドリシオグサ	□	○							
	ミル目	ミル科	エゾミル							○	○	
褐藻綱	イソガワラ目	イソガワラ科	イソガワラ属の一種	□							○	
	アミジグサ目	アミジグサ科	アミジグサ	□	○		○					◎
			サナダグサ								○	
			フクリンアミジ	□	○	○	○	○			○	◎
	カヤモノリ目	カヤモノリ科	フクロノリ	□								
			カヤモノリ	□								
	コンブ目	チガイソ科	ワカメ		◎	◎	◎	◎			○	
		カジメ科	アラメ	□								
		コンブ科	マコンブ	□	◎	◎	◎	◎				
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	フシスジモク	□								
			アカモク		○	○	○	○	◎	◎	◎	
			タマノハキモク					○				
オオバモク										○		
エゾノネジモク			□									
エゾシコロ			□									
紅藻綱	サンゴモ目	サンゴモ科	イソギリ	□		○	○					
			ヒライボ					○		○	○	
			イシモ属の一種	○					○			
			マクサ	□			○		○		○	
			アカバ		○	○	○				○	○
	スギノリ目	リュウモンソウ科	フクロフノリ		○							
			カイノリ								○	
		マルバツノマタ	マルバツノマタ		○	○	○				○	◎
			ツノマタ					○	○			
			イボツノマタ	□								
			ムカデノリ科	ムカデノリ		○						
			カタノリ								○	
		タンバノリ	□									
		フダラク						○	○	○		
		ヒラムカデ		○				○	○	○		
	スズムカデ		○									
	ヒヂリメン		○	○	○		○					
	ツルツル	□							○	○		
	トサカマツ		○									
	ツカサノリ科	ヒロハノトサカモドキ	□									
	オキツノリ科	オキツノリ								○		
		ハリガネ		○	○	○	○	◎	◎	○		
	ユカリ科	ユカリ			○			○	○	○		
	ベニスナゴ科	ベニスナゴ		○	○							
	イギス目	イギス科	イギス科の一種	□								
		コノハノリ科	ヌメハノリ			○	○					
		フジマツモ科	ユナ								○	
ソゾ属の一種										○		
イトグサ属の一種									○			
マサゴシバリ目	フシツナギ科	フシツナギ		○	○	○		○	◎	◎		
	タオヤギソウ		○									
	マサゴシバリ科	マサゴシバリ属の一種	□									
-	-	-	ベニマダラ属の一種							○		
			紅藻綱の一種								○	
単子葉植物綱	オモダカ目	シオニラ科	スガモ	□			○					
-	-	-	無節サンゴモ	□			○					

2007：第7回基礎調査（藻場調査）、2012～2017：生態系監視調査の結果

□：第7回基礎調査（藻場調査）出現種、○：定性（ライン）調査の確認種、●：定量（方形枠）調査の確認種、

◎：定性・定量調査の両方での確認種

定性（ライン）調査：水深約4m以浅には、紅藻フダラク、ツルツル、マルバツノマタ、ハリガネ、褐藻アミジグサ等がみられた。また水深7m以浅には、褐藻フクリンアミジ、紅藻ヒライボがみられた（図3-2-2-1）。水深2～4m 程度の水深帯には、アカモクの芽生えがみられ、来年早々にはアカモク群落が形成されると考えられた。

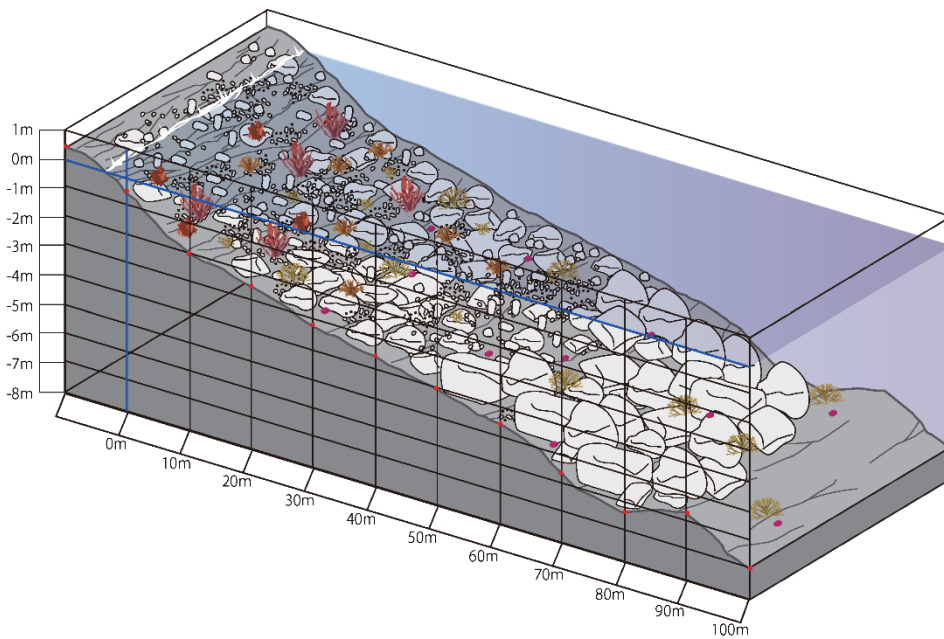


図 3-2-2-1 2021 年の女川湾の定性（ライン）調査の結果の模式図

定量（方形枠）調査：今年度は方形枠を4箇所を設置した（図3-2-2-2）。各方形枠で優占したのは、マルバツノマタ（被度50%）、アカモク（15%）、アミジグサ(10%)、フクリンアミジ(40%)であり、方形枠2ではマルバツノマタ（5%）とアミジグサ（5%）、方形枠3ではフシツナギ（5%）もみられた。

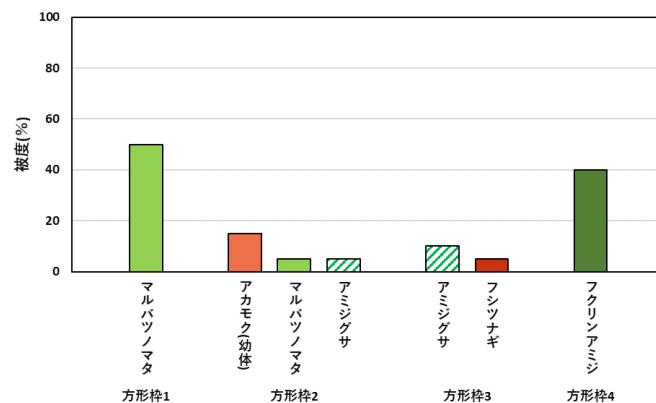
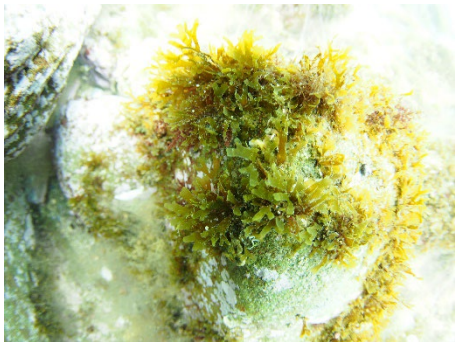


図 3-2-2-2 2021 年の女川湾の定量（方形枠）調査で観察された各方形枠の被度





フクリンアミジ



マルバツノマタ



アミジグサ

#### (8) その他特記事項

調査起点より60m以上沖側では、水深が4mから7m程度で、フクリンアミジ、石灰紅藻のヒライボ等がみられる程度であった。



ヒライボ

写真撮影：青木優和



## 参考資料 1

生態系監視調査（定点調査）アマモ場・藻場・干潟  
調査マニュアル



# 東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査

## 生態系監視調査（定点調査）

### アマモ場・藻場・干潟

## 調査マニュアル

- Ver. 4. 2016年3月改訂
- Ver. 3. 2014年3月改訂
- Ver. 2. 2013年3月改訂
- Ver. 1. 2012年7月作成

# 1. アマモ場調査

## 1) 調査必要人員と日数

3～4名で原則として1日で実施する。人員の配属は、2名潜水要員、1～2名水上サポートとする。

\*調査者に氏名とその所属を「報告書」に掲載してよいか確認しておく。

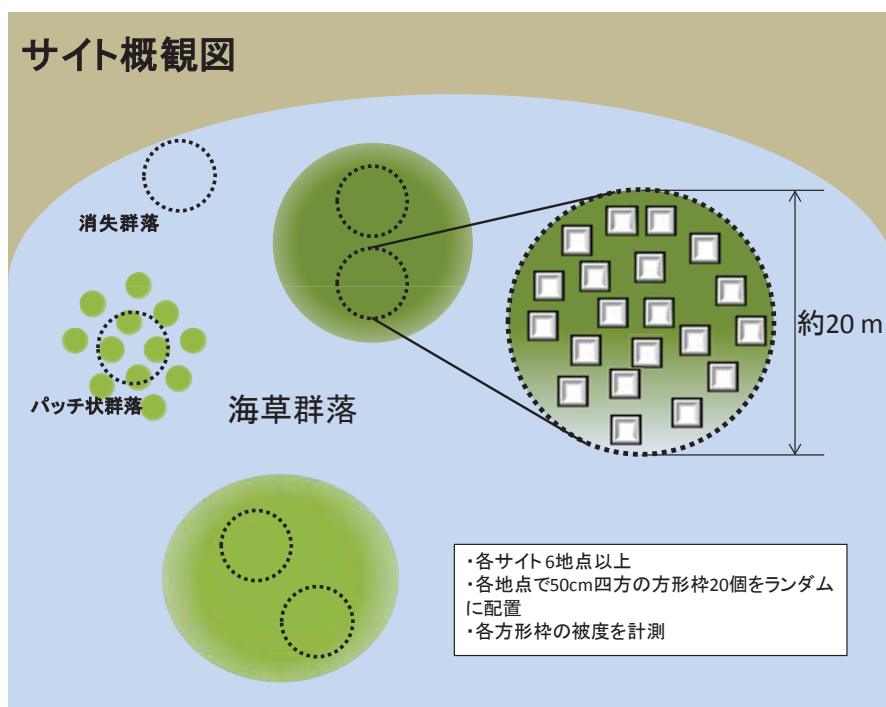
## 2) 調査時期

調査時期は、地域や調査者の状況を総合的に考慮して決定する。

## 3) 調査地点の設定

調査地点の設定は以下の点を考慮し、調査者が決定する。

- ・ 東北地方太平洋沖地震発生前のデータと比較するため、自然環境保全基礎調査の調査場所又は既存データがある近傍のアマモ場を優先的に選定する。
- ・ 現存するアマモ場以外に「過去の調査データがあり、現況が良好な場所」、「過去のデータがあり、地震後にアマモ場が消失又は著しく縮小した場所」、「過去のデータはないが、新規にアマモ場が確認された場所」など優先順位を付け、調査場所を設定する。
- ・ 調査地点数は概ね6地点以上とするが、それらの配置は複数のアマモ場群落(パッチ)に分散してもよい。



#### 4) 調査方法

本事業の基本的な調査方法は以下のとおりとする。ただし、東北地方太平洋沖地震発生前の定量データと比較するため、既存データの取得に用いた調査方法を採用してもよい。その場合、調査方法の参照先を明示しておく。

##### (1) 写真撮影

調査開始前に調査サイト全体の写真を撮影する。海から陸に向かった写真と、陸から海に向けた写真を2枚撮影する。

##### (2) 生物定量調査

- ① GPS を利用して、各調査地点の緯度・経度を測定し、設定した調査地点にブイを投入する。緯度経度の測定は GPS（測地系は WGS84）を用いることとし、表示は 60 進法（ $dd^{\circ}mm'ss''$ ）ではなく、10 進法（ddd.dddd）に設定する。
- ② ブイの位置において、水深、見た目の底質を記録する。ここでの「見た目の底質」とは、砂・泥・小礫など、景観としての底質のこと。
- ③ ブイの周辺（直径 20 m 程度の範囲、ただし水深が急に変わる場所の場合は、同じ水深帯にとどまること）に 50 cm × 50 cm の方形枠をランダムに 20 個設置し、出現種の被度、優占する海草の種、および全体被度を記録する。植物の被度は方形枠を上から見た際の投影面積で表す。被度の判定用には標準被度写真を用いて判定誤差を小さくする。被度は 5 % 単位で記録する。ただし 5 % 未満と判断された場合は、便宜的に“+”と記録する。方形枠内に出現した表在性の大型底生生物や藻類については、各方形枠の情報として記録する。
- ④ 方形枠外のみ出現する海草種や、枠外の表在性大型底生生物及び藻類等が確認された場合には、調査地点全体の備考として記録する。
- ⑤ 水中の景観写真（海底の様子や瓦礫の堆積状況等）、代表的なコドラートの写真、主要大型動植物の写真を撮影する。透明度が悪い場合でも、写真を撮影しておくことでその状況が記録されるため、原則として写真は撮影する。

## 2.藻場調査

### 1) 調査必要人員と日数

3~4人で、原則として1日で実施する。

\*調査者に氏名とその所属を「報告書」に掲載してよいか確認しておく。

### 2) 調査時期

調査時期は、地域や調査者の状況を総合的に考慮して決定する。

### 3) 調査地の設定

第7回自然環境保全基礎調査の調査地点付近の藻場を調査地とする。

### 4) 方形枠と調査ライン等の設定

#### (1) 方形枠の設定

各調査地を代表する海藻が優占的に生育する群落を潜水により確認する。群落でもっとも被度が高い場所に、2 m × 2 m の方形枠を設定する。なお、優占する海藻種が複数ある場合（アラメ類とホンダワラ類等）には、各群落に方形枠を設定する。方形枠の位置情報をGPSによって計測する。緯度経度の測定はGPS（測地系はWGS84）を用いることとし、60進法（dd°mm'ss"）ではなく、10進法（ddd.dddd）に設定する。

#### (2) 調査ラインと調査地点の設定

方形枠調査の対象となる海藻群落を横断するように100 mの調査ラインを設定する。調査ラインの岸側の起点となる潮上帯もしくは浅所の岩盤上に、ボルトなどの耐久性のある目印を付し、調査ラインの方角を測定する。起点の位置情報をGPSによって計測する。起点から約10 m毎に10箇所程度の調査地点を設定する。なお、津波の影響は岸側の潮間帯で大きい可能性もあるため、調査地点の設定にはそれらの影響を考慮する。

※ 各調査地を代表する海藻群落の離岸距離が100 m以上の場合、海藻群落が調査ラインの延長上で横断するように起点及び調査ラインを設定する。定量調査は該当する群落で実施し、定性調査は起点から100 mまでの範囲で実施する。

### 5) 調査方法

#### (1) 写真撮影

調査ライン起点から終点方向、調査ライン終点から起点方向の景観写真を各1枚撮影する。各調査地点で観察される代表的な海藻種の写真を種類数に合わせて適宜撮影する。海藻種を撮影する際には50 cm 辺の枠をスケールとして設置する。なお、撮影時には距離を記したプレートを入れる。

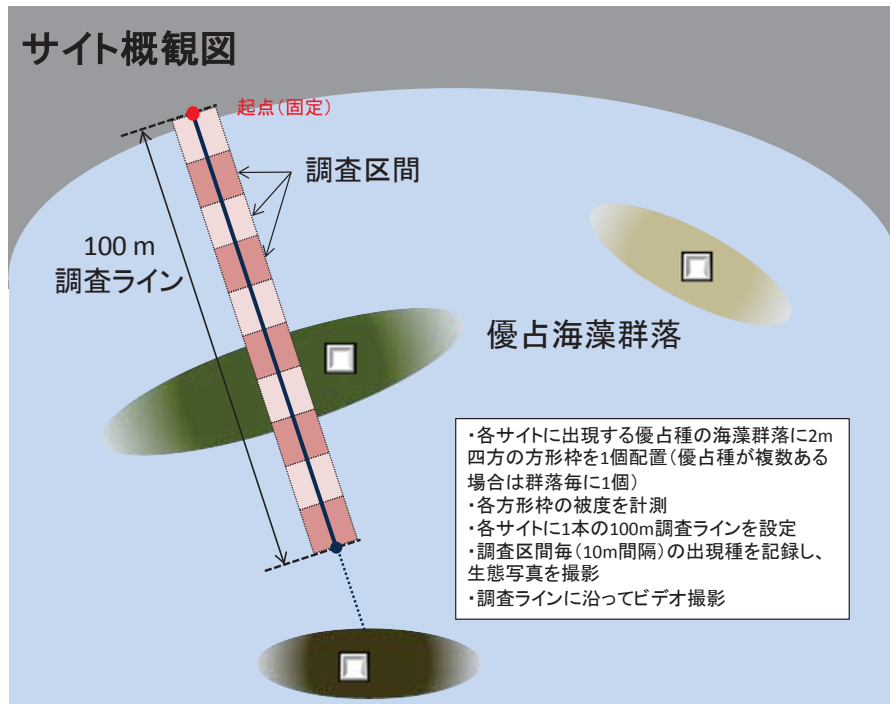


## (2) 定量調査

2 m × 2 m の方形枠内に生育する優占種の被度、水深、時刻、底質の性状を記録する。被度は5%単位で記録し、5%未満と判断された場合には“+”と記録する。

## (3) 定性調査

調査ラインに沿って潜行し、調査区間毎（例えば、距離10~20 m間）に出現する主な海藻種名を記録する。10 m毎に水深、時刻、底質の性状を記録する。また、参考記録として、調査ラインの起点から終点までビデオ撮影を行う。



### 3.干潟調査

#### 1) 調査必要人員と日数

4人程度（写真撮影・記録係、コア採取係、篩係等）で、原則として1日で実施する。

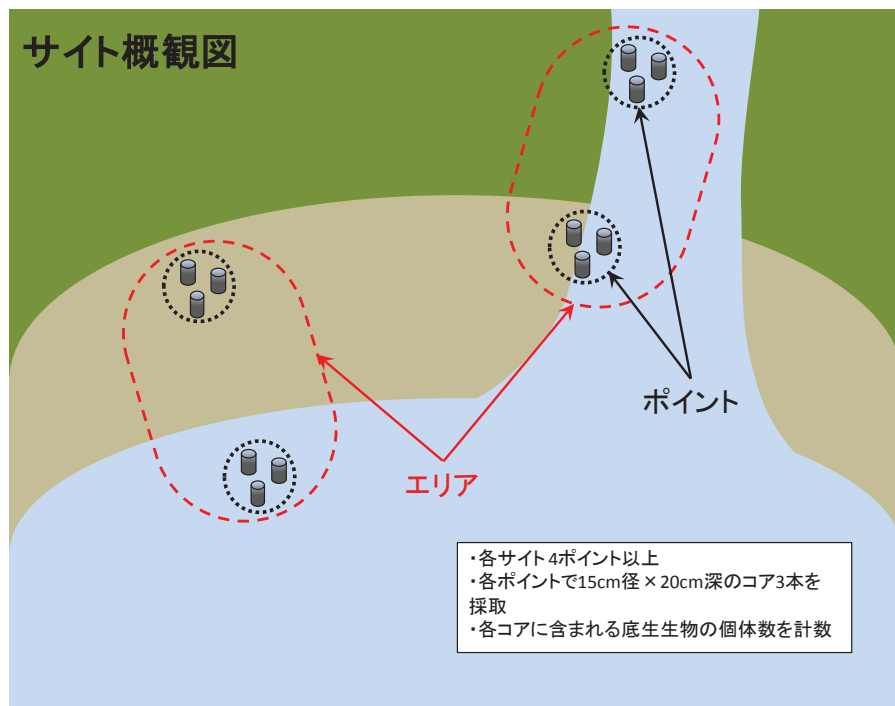
\*調査者に氏名とその所属を「報告書」に掲載してよいか確認しておく。

#### 2) 調査時期

今年度は、事業の進捗状況から初夏から秋にかけて実施する。

#### 3) 調査エリアと調査ポイントの設定

- ・ 1つの調査サイト（調査対象とする干潟）内に、基本的には調査エリア（調査トランゼクト）として2エリアを設定し、各エリア内の潮間帯上部と下部に相当する場所に調査ポイントを設定する。すなわち、各調査サイトには計4箇所（2エリア×2ポイント）の調査ポイントを設ける。
- ・ 調査ポイントは、可能な限り自然環境保全基礎調査の調査ポイントと同じ場所に設定する。
- ・ ただし、調査エリア数と調査ポイント数は、調査サイトの状況（津波の影響など）と調査の円滑性を考慮して、調査者が現地を確認した上で決定する（必ずしも2エリア×2ポイントにこだわる必要はないが4箇所調査する）。



#### 4) 調査方法

##### (1) 写真撮影

各エリアの風景（遠景）2枚、底質や地形等の状況（近景）2枚、出現する代表的な生物5種類程度を撮影する。

##### (2) 定量調査

底生生物の定量調査を行う。手順は以下のとおり。

- ① 各調査ポイントの緯度経度、底質の性状（礫、砂、砂泥、泥等）、植生を記録する。干潟が干出しないポイントでは、調査時の水深と測定時間を記録する。緯度経度の測定はGPS（測地系はWGS84）を用いることとし、表示は60進法（dd°mm'ss"）ではなく、10進法（ddd.dddd）に設定する。
- ② 各調査ポイントにおいて、15 cm 径のコアサンプラーを用いて深さ 20 cm（努力目標）までの底土を無作為に3箇所採取する。得られた底土は1 mm 目（又は2 mm 目）で篩い、篩上に残ったサンプルは全てポリ袋に入れ、10 %中性ホルマリンで固定して持ち帰る。底生生物のソーティング、同定、計数は研究室で行う。標本はコアごとにまとめて80 %エタノール中で保管する。

※ 2年目以降は調査の継続性や労力を考慮して2 mm 目の篩を用いる可能性もあるが、1年目の調査では地震・津波後の影響を詳細に記録するため1 mm 目で篩う。

※ 標本登録及び底土分析は基本的に実施しない。ただしサンプルの保管などについては調査者と事務局で調整する。

※ 可能であれば、コアサンプラーで採取した近傍において底土表層の酸化還元電位を3回測定し、合わせて底土試料（表層5 cm まで）の適量（にぎりこぶし大）を採取する。底土試料は持ち帰って、風乾させておく。

※ 水深が深くコアサンプラーによる底土の採取が困難な場合は、エックマンバージ採泥器（15 cm × 15 cm）を用いて底土の採取を試みる。ただし、調査方法は現場の状況に応じて調査者が適宜検討する。

##### (3) 定性調査

生息密度が低い、移動性が高い、あるいは底質深くに生息する生物種は、調査面積・深度が限られる定量調査では把握できない。これらの生物の存在を確認するため定性調査を実施する。なお、近傍に塩性湿地等の植生帯がある場合は、別途に探索する。手順は以下のとおり。

- ① 調査ポイント毎に2名で15分間探索する。表層だけでなく、スコップ等で掘るなどして、生息する生物を可能な限り多く記録できるよう努める。
- ② 発見した生物（植生を含む）の種名を記録する（個体数は数えない）。現場での同定が困難な種については持ち帰る。

※留意点は以下のとおり。

- ・ 記録係が笛を吹くなどして合図し、調査時間を正確にすること。
- ・ 定性調査で確認された種については、定量調査で記録していても、定性調査の結果として記録すること。

- 生息している生物種を特定できるような生活痕跡（アナジャコ類の巣穴等）が認められた場合には、適宜、巣穴、棲管、糞、殻等として記録する。この場合、調査終了後に、可能な限り本体の発見に努めるのが望ましい。
- 貝殻のみが発見された場合は、他の場所から波浪あるいは人為的に運ばれてきた可能性も大きいことから、基本的には記録しない。
- 軟泥が厚く堆積して、足が深く埋まって抜けなくなるような泥干潟は、危険であり、しかも調査効率が悪いから、調査対象としない。

表 調査サイト名および略号

生態系タイプ (英語表記：記号)	調査地点※	記号
干潟 (Tidal flat : TF)	小川原湖湖沼群(鷹架沼)	TKH
	小川原湖湖沼群(高瀬川)	TKS
	陸中リアス海岸 宮古湾 津軽石川河口	MYK
	陸中リアス海岸 山田湾 織笠川河口	YMD
	鵜住居川	UNZ
	広田湾(小友浦)	OTM
	北上川河口	KTK
	長面浦	NGT
	万石浦	MNG
	松島湾	MTS
	蒲生	GAM
	井土浦	IDU
	広浦	HRU
	鳥の海	TRN
	夏井川	NTI
	鮫川	SMG
	一宮川	ICN
	夷隅川	ISM
アマモ場 (Seagrass bed : SB)	山田湾	YMD
	広田湾	HRT
	万石浦	MNG
	松島湾	MTS
藻場 (Algal bed : AB)	三陸海岸(山田湾)	SNR
	女川湾(注)	ONG
	北茨城市地先沿岸(五浦)	KTI
	那珂湊地先沿岸(大洗)	NKM

※第7回自然環境保全基礎調査に準ずる

注：第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査(藻場調査)では、本調査地の「藻場の名称」を「仙台湾」と記載している。しかし、仙台湾は、宮城県石巻市の牡鹿半島黒崎と福島県相馬市鵜ノ尾崎の間の湾を指す名称である。実際の調査地は、宮城県牡鹿郡女川町の大貝埼と同町の赤根埼を結ぶ線および陸岸によって囲まれた海域の「女川湾」の中にあるため、本業務ではサイト名を「女川湾」とした。

平成 24 年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査  
アマモ場調査調査結果票

(1) サイト名		略号	
(2) 調査地の所在			
(3) 緯度・経度 (WGS84)			
(4) 調査年月日	2012 年 月 日		
(5) 調査者氏名	調査代表者：		
	調査者：		
	調査協力者：		
(6) 調査方法			
(7) 環境の概要			
(8) アマモ場の概 要・特徴（震災 前後の比較を 含む）			
(9) その他特記事 項			

調査地の地図

	位置図（※調査地点の緯度 経度より事務局で作成し ます）
--	------------------------------------

調査地の景観、生物写真等  
調査サイト全景

--	--

水中の景観

--	--

代表的なコドラート

--	--

主要大型動植物


写真撮影：○○○○





平成 24 年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査  
藻場調査結果個票

(1) サイト名		略号	
(2) 調査地の所在			
(3) 緯度・経度 (WGS84)			
(4) 調査年月日			
(5) 調査者氏名	調査代表者：		
	調査者：		
	調査協力者：		
(6) 環境の概要			
(7) 藻場の概要・ 特徴（震災前後 の比較を含む）			
(8) その他特記事 項			

調査地の地図

	<p><b>位置図</b></p> <p>(※ラインの起点と方形枠の緯度経度より、調査海域を示す地図を事務局で作成します)</p>
--	---

調査地の景観、生物写真

※代表的な海藻種の写真は、出現した調査地点のライン起点からの距離をそれぞれご記入ください。なお、調査地点に海藻がなく裸地であった場合でも、その景観写真があれば起点からの距離とともに掲載ください。


撮影：○○○○

真北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【築場】

2012(平成 24)年度

定性調査

※1サイトにつき1枚のデータシート(定性調査用)をご使用ください。

ABOOO		ライン起点									
調査代表者(所属)		北緯(WGS84)									
調査者(所属)		東経(WGS84)									
調査日		方角(°)									
起点からの距離(m)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
実測水深(m)											
潮位補正水深(CDL, m)											
時刻											
出現種											
地点番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
調査地点 起点からの距離(m)	<10	10~20	20~30	30~40	40~50	50~60	60~70	70~80	80~90	90~100	
底質※											
整理番号											
種名											
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
優占種											
備考											

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

※1サイトにつき1枚のデータシート(定量調査用)をご使用ください。

ABOOO				
調査代表者(所属)				
調査者(所属)				
調査日				
方形枠番号(複数ある場合)		方形枠1	方形枠2	方形枠3
北緯(WGS84)				
東経(WGS84)				
実測水深(m)				
潮位補正水深(CDL, m)				
時刻				
底質※				
整理番号	方形枠番号	種名	被度	同定備考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				

備考:被度が5%未満の場合(+)と記録する。

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

平成 24 年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査  
干潟調査結果個票

(1) サイト名		略号	
(2) 調査地の所在			
(3) 緯度・経度 (WGS84)	。		
(4) 調査年月日	年 月 日		
(5) 調査者氏名	調査代表者：		
	調査者：		
	調査協力者：		
(6) 環境の概要			
(7) 底生生物の概 要・特徴（震災 前後の比較を 含む）			
(8) その他特記事 項			

調査地の地図

	位置図
	位置図
	位置図

〇〇エリアの景観、生物写真等


平成24年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【干潟】

2012(平成 24)年度

※1つの調査ポイントに対し、1シートでご記入ください。

TFOOO		※この欄に、調査サイト、エリア、潮間帯上部・下部がわかるように調査ポイント名を記入願います												
サイト代表者(所属)		天候												
調査者(所属)		北緯(WGS84)												
調査日		東経(WGS84)												
時刻		水深(cm)												
(任意)酸化還元電位(mV)		水深測定時間												
※測定を行った場合、記入願います。		底質												
※①		※②												
※③		植生												
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	個体数			定性観察		同定の備考		
							コア	1	2	3	干潟	植田帯	備考	定量調査
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														
31														
32														
33														
34														
35														
36														
37														
38														
39														
40														
41														
42														
43														
44														
45														
46														
47														
48														
49														
50														

備考: +は存在、++は多い、+++はとて多いことを示す。



## 参考資料 2

生態系監視調査データシート



令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMYK	宮古湾津軽石川河口 A1(潮間帯上部)				天候	曇り
サイト代表者(所属)	松政正俊(岩手医科大学)				北緯(WGS84)	39.5935
調査者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和(岩手医科大学)、中村仁、井上隆、川合学(環境省・生物多様性センター)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				東経(WGS84)	141.9468
					水深(cm)	
調査日	2021年7月22日				水深測定時間	
時刻	7:45-8:40				底質	砂質(下層には礫)
(任意)酸化還元電位(mV)	※①	※②	※③	④	植生等	汀線にアナアオサ、コンブなどの打ち上げ、近くにアマモ

整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	個体数			定性観察			同定の備考	
							コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>					○			
2	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>					○			
3	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>					○			
4	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ユキノカサガイ	<i>Niveotectura pallida</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	カスミアオガイ	<i>Nipponacmea habeii</i>					○			
7	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>					○			
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>					○			
9	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>					○			
10	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイソコ	<i>Mytilisepta virgata</i>					○			
11	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>					○			
12	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○			
13	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>					○			
14	紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea			3	5	○			
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	エゾゴカイ	<i>Nereis vexillosa</i>	1	4	4		○			
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ツルヒゲゴカイ	<i>Platynereis bicanaliculata</i>	1							
17	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Etheone cf. longa</i>			2		○			
18	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>			2	1	○			
19	環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>					○			
20	環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群の一種	<i>Rhynchospio glutaea complex sp.</i>	1	2	3		○			
21	環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio aff. arndti</i>					○			
22	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属の一種	<i>Capitella sp.</i>				2	○			
23	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属の一種	<i>Heteromastus sp.</i>	2		1					
24	環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>					○			
25	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>	4	50	22		○			
26	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	イワフジツボ科	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>					○			
27	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>					○			
28	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>					○			
29	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	Neomysis 属の一種	<i>Neomysis sp.</i>	1							
30	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	ニッポンモバヨコエビ	<i>Ampithoe lacertosa</i>	5	1	1					
31	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ナミノリソコエビ科	ナミノリソコエビ科	Dogielinotidae	1	1	6					
32	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科の一種	Corophiidae gen. sp.		2	2		○			
33	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	フサゲモクズ	<i>Ptilohyale barbicornis</i>	2							
34	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	Melita 属の一種	<i>Melita sp.</i>			1		○			
35	節足動物門	軟甲綱	端脚目	フタハナヨコエビ科	Atylus 属の一種	<i>Atylus sp.</i>				1				
36	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia joi</i>					○			
37	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒゲナガハマトビムシ	<i>Trinorchestia trinitatis</i>					○			
38	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属の一種	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>			1		○			
39	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Chitonosphaera 属の一種	<i>Chitonosphaera sp.</i>	5							
40	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	オホーツクヘラムシ	<i>Idotea ochotensis</i>	9	1						
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>					○			
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>					○			
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○			

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMYK		宮古湾津軽石川河口 B1(潮間帯中部)												
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				天候		曇り						
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和(岩手医科大学)、中村仁、井上隆、川合学(環境省・生物多様性センター)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		39.5916						
						東経(WGS84)		141.9438						
調査日		2021年7月22日				水深(cm)								
時刻		8:45-9:35				水深測定時間								
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	底質		砂泥質(転石が多い)						
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	イソギンチャク目	Actinaria			1					
2	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>				○				
3	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>				○			？イサゴホウキムシ	
4	箒虫動物門	箒虫綱	ホウキムシ目	ホウキムシ科	<i>Phoronis</i> 属の一種	<i>Phoronis</i> sp.	37	21	8	○				
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	カスミアオガイ	<i>Nipponacmea habeii</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アオモリムシロ	<i>Nassarius hypolius</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
12	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>			1	○				
13	紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	2	8	2					
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	8	5	4	○				
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ジャムシ	<i>Alitta brandti</i>				○				
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナインゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> and/or <i>wilsoni</i>				○				
17	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Etheone</i> cf. <i>longa</i>			1					
18	環形動物門	-	-	スピオ科	コオニスピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>				○				
19	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>			1					
20	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio japonica</i>	1							
21	環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>filicornis</i>				○				
22	環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群の一種	<i>Rhynchospio glutaea</i> complex sp.	1	2						
23	環形動物門	-	-	-	貧毛類	<i>Oligochaeta</i>			1					先端が2叉の剛毛を持つ
24	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属の一種	<i>Capitella</i> sp.	2	2	3					
25	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.	10	7	7	○				
26	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Barantolla</i> 属の一種	<i>Barantolla</i> sp.	2	1	4					
27	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>	3	1	4	○				
28	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
29	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>				○				
30	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.	3	2						
31	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Monocorophium</i> 属の一種	<i>Monocorophium</i> sp.			1					
32	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.	16	10	19	○				
33	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	<i>Hyale</i> 属(広義)の一種	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.	3	1						
34	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Chitonosphaera</i> 属の一種	<i>Chitonosphaera</i> sp.	25	2	21	○				
35	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	イソヘラムシ	<i>Cleantiella isopus</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
39	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○				

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMYK		宮古湾津軽石川河口 D1(潮間帯中部)				天候		曇り						
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				北緯(WGS84)		39.5887						
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和(岩手医科大学)、中村仁、井上隆、川合学(環境省・生物多様性センター)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				東経(WGS84)		141.9473						
						水深(cm)								
調査日		2021年7月22日				水深測定時間								
時刻		9:40-10:20				底質		砂泥						
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	植生等		アオサ、オゴノリ、イシモズク等の打上、潮間帯上部にウミドリ、コウボウムギ、ヨシ						
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assimineia</i> " <i>japonica</i>				○				
3	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	2	2	4	○				
4	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>			1	○				
5	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	2		3	○				
6	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属の一種または複数種	<i>Hediste</i> spp.			2	○				
7	環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>				○				
8	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Etheone</i> cf. <i>longa</i>		1	1					
9	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>			1					
10	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>kempi</i>			1					
11	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.	65	49	88					
12	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>				○				
13	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.			2					
14	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.	1	1	3					
15	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		1						
16	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia joi</i>				○				
17	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Chitonosphaera</i> 属の一種	<i>Chitonosphaera</i> sp.			1					
18	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ハマダンゴムシ科	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granuliferus</i>				○		上部の砂地		
19	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○				
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
23	節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera			1					

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMYK	宮古湾津軽石川河口 D2(潮間帯下部)				天候	曇り								
サイト代表者(所属)	松政正俊(岩手医科大学)				北緯(WGS84)	39.5887								
調査者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和(岩手医科大学)、中村仁、井上隆、川合学(環境省・生物多様性センター)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				東経(WGS84)	141.9473								
					水深(cm)									
調査日	2021年7月22日				水深測定時間									
時刻	9:40-10:20, 10:20-11:00				底質	泥質								
(任意)酸化還元電位(mV)	※①	※②	※③	④	植生等	ボウアオノリ								
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	タマキビ型類クレード	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>				○				
3	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
4	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>				○				
5	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>				○				
6	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属の一種または複数種	<i>Hediste</i> spp.	15	15	5	○				
7	環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>				○				
8	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Etheone</i> cf. <i>longa</i>	3		5	○				
9	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>kempi</i>	16	2	6	○				
10	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>				○				
11	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio japonica</i>	2	1						
12	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.	69	48	127	○				
13	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>	2							
14	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>				○				
15	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.	2	1	15					
16	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.		1	2					
17	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	5	1	1					
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia joi</i>				○				
19	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Chitonosphaera</i> 属の一種	<i>Chitonosphaera</i> sp.	1							
20	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>				○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
26	節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae			2					

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFOTM		広田湾(小友浦) A1(潮間帯中部)												
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				天候		曇り						
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和、菅孔太郎(岩手医科大学)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.9947						
						東経(WGS84)		141.6811						
						水深(cm)								
調査日		2021年8月9日				水深測定時間								
時刻		10:10-10:50				底質		砂泥質、カキ礁						
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	植生等								
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	棘皮動物門	ヒトデ綱	アカヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	<i>Patiria pectinifera</i>				○				
2	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisulpta</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ミソレコガモガイ	<i>Lottia goshimai</i>				○				これまでコガモガイと同定?
7	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta confusa</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アオモリムシロ	<i>Nassarius hypolius</i>				○				
10	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ムカデガイ科	オオヘビガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○				
12	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
13	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>				○				
14	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	1			○				
15	環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>				○				
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	11	30	17	○				
17	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka and/or diadroma</i>	1	16	5	○				
18	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナインゴカイもしくはイシインゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>				○				
19	環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	サンバゴカイ科	Phyllodoctidae				○				
20	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	カタマガリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>			1	○				
21	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>	20	8	3	○				
22	環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>				○				
23	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	1	2		○				
24	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	Chaetozone 属の一種	<i>Chaetozone sp.</i>				○				
25	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属の一種	<i>Capitella sp.</i>			3	○				
26	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属の一種	<i>Heteromastus sp.</i>	65	89	32	○				
27	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Mediomastus 属の一種	<i>Mediomastus sp.</i>	3	9	10	○				
28	環形動物門	-	-	-	ホシムシ類	Sipuncula				○				
29	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
30	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidiarella japonica</i>	16	26	9	○				
31	節足動物門	軟甲綱	端脚目	クダオソコエビ科	Gammaropsis 属の一種	<i>Gammaropsis sp.</i>				○				
32	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
33	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	Melita 属の一種	<i>Melita sp.</i>				○				
34	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	Monocorophium 属の一種	<i>Monocorophium sp.</i>				○				
35	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>				○				
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テツボウエビ科	フトオビイソテツボウエビ	<i>Alpheus aff. lobidens lobidens</i>		2	1	○				抱卵個体
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	パルスアナジャコ	<i>Upogebia issaeffi</i>	1	1	1	○				
39	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiramantes haematocheir</i>				○				
40	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>				○				
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>				○				死骸
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○				
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>				○				
44	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	1	1	1	○				
45	棘皮動物門	ヒトデ綱	アカヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	<i>Patiria pectinifera</i>				○				
46	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>				○				
47	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○				

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFOTM		広田湾(小友浦) B2(潮間帯中部)								曇り				
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				天候				曇り				
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和、菅孔太郎(岩手医科大学)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)				38.9960				
						東経(WGS84)				141.6815				
調査日		2021年8月9日				水深(cm)								
時刻		9:00-9:30				水深測定時間								
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	底質				砂泥質、近くにカキ礁				
		出現種				個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>				○				
2	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	ホウザウイソギンチャク	<i>Synandwakia hozawai</i>				○				
3	紐形動物門	針紐虫綱	-	マダラヒモムシ科	オグマヒモムシ	<i>Nipponnemertes ogumai</i>				○				7/23
4	紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	<i>Nemertea</i>		1	2	○				7/23
5	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisulpta</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ミソレコガモガイ	<i>Lottia goshimai</i>				○				これまでコガモガイと同定?
8	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
10	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>				○				
11	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アオモリムシ	<i>Nassarius hypolius</i>				○				
12	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	イシダミ	イシダミ	<i>Monodonta confusa</i>				○				
13	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
14	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>				○				
15	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>				○				
16	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オニアサリ	<i>Leukoma jedoensis</i>				○				
17	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>				○				
18	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	1	1	4	○				
19	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>		2	2	○				
20	環形動物門	-	-	ヒメエラゴカイ科	ニホンヒメエラゴカイ	<i>Paradoneis nipponica</i>			1	○				
21	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	カタマガリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>				○				
22	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○				
23	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempfi</i>	12	5	20	○				
24	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>	1	2	1	○				
25	環形動物門	-	-	スピオ科	コオニスピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>				○				
26	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属の一種	<i>Capitella</i> sp.				○				
27	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属の一種	<i>Notomastus</i> sp.				○				
28	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Mediomastus 属の一種	<i>Mediomastus</i> sp.		2		○				
29	環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	Praxillella 属の一種	<i>Praxillella</i> sp.				○				
30	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ナガエラフサゴカイ	<i>Pista elongata</i>				○				
31	環形動物門	-	-	-	ホシムシ類	Sipuncula				○				
32	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	Ampithoe 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.			1	○				
33	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	49	55	46	○				
34	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	Melita 属の一種	<i>Melita</i> sp.			1	○				
35	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	Monocorophium 属	<i>Monocorophium</i> spp.	20	64	32	○				
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	バルスアナジャコ	<i>Upogebia issaeffi</i>		2		○				
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	Upogebia 属の一種	<i>Upogebia</i> sp.				○			幼体	
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
39	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>				○				
40	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>				○				
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
43	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミミスハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○				



令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFOTM		広田湾(小友浦) C1(潮間帯上部)												
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				天候		曇り						
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和、菅孔太郎(岩手医科大学)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.9964						
						東経(WGS84)		141.6821						
						水深(cm)								
調査日		2021年8月9日				水深測定時間								
時刻		8:00-8:50				底質		砂泥質、砂利の上に泥、下に小石						
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	植生等								
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	ウスヒラムシ科	ウスヒラムシ	<i>Notoplana humilis</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisulpta</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>		1		○				
5	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta confusa</i>				○				
6	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>				○				
8	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	1			○				
9	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka and/or diadroma</i>	1	1	1					
10	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	3			○				
11	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>	1	1						
12	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempfi</i>	57	14	11	○				
13	環形動物門	-	-	-	貧毛類	<i>Oligochaeta</i>			1					先端が2叉の剛毛を持つ
14	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属の一種	<i>Capitella</i> sp.	2	3	1					
15	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.			1	○				
16	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
17	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属の一種	<i>Neomysis</i> sp.		1						
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	73	119	145	○				
19	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
20	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.				○				
21	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ゴツブムシ科	イソゴツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma rayi</i>				○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	バルスアナジャコ	<i>Upogebia issaeffi</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユピナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiramantes haematocheir</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>				○				小型個体
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>				○				
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
30	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○				

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFOTM		広田湾(小友浦) D1(潮間帯上部)													
サイト代表者(所属)		松政正俊(岩手医科大学)				天候		曇り							
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、阿部博和、菅孔太郎(岩手医科大学)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.9954							
						東経(WGS84)		141.6813							
						水深(cm)									
調査日		2021年8月9日				水深測定時間									
時刻		9:35-10:00				底質		砂の上に泥、泥底、5cm以下は砂							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①	※②	※③	④	植生等									
出現種						個体数			定性観察			同定の備考			
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査	
							1	2	3						
1	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○					
2	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○					
3	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>				○					
4	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i> and/or <i>diadroma</i>	27	23	25	○					
5	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> and/or <i>wilsoni</i>			3	○					
6	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone</i> cf. <i>longa</i>		1							
7	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>			2	○					
8	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>kempi</i>	25	38	25	○					
9	環形動物門	-	-	スピオ科	コオニスピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>		1	1						
10	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.				○					
11	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>				○					
12	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属の一種	<i>Neomysis</i> sp.	11	7	69						
13	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.		1							
14	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	199	139	156						
15	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.		1		○					
16	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	<i>Hyale</i> 属(広義)の一種	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.		1							
17	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Monocorophium</i> 属	<i>Monocorophium</i> spp.	10	31	120	○					
18	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○					
19	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	<i>Upogebia</i> 属の一種	<i>Upogebia</i> sp.		1							
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>				○					
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>				○				死骸	
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○					
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○					
24	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>				○					

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMNG		万石浦 B岸エリア1(潮間帯上部)												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)				天候	曇り							
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査術)、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))				北緯(WGS84)	38.4152							
						東経(WGS84)	141.4053							
						水深(cm)								
調査日		2021年7月10日				水深測定時間								
時刻		10:50-11:20				底質	砂質(貝殻片が混じる)							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①434	※②282	※③333		植生等	植生はない。近くに淡水の浸み出しがある。							
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミミナ科	ホソウミミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>		2	8	○				
2	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミミナ科	ウミミナ	<i>Batillaria multiformis</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>estuarina</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	オオウスイロヘソカドガイ	<i>Paludinellassiminea tanegashimae</i>				○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>		2						
8	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	1	3		○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina</i> aff. <i>Sinensis</i>		3		○				
10	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>			1	○				
11	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> or <i>wilsoni</i>				○				
12	環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	1							
13	環形動物門	-	-	ウロコムシ科	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe</i> cf. <i>imbricata</i>				○				不確定
14	環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ	<i>Marphysa</i> cf. <i>iwamushi</i>				○				
15	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		2	1*	○			*部分のみ	
16	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> sp.		2	1					
17	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニッポンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>				○				
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	フサゲモクズ	<i>Ptilohyale barbicornis</i>				○				
19	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		2						
20	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>			2					
21	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシヤコエビ科	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedea astacina</i>				○				塚
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	1			○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMNG		万石浦 B岸エリア2(潮間帯下部)												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)				天候		曇り						
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査有)、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.4154						
						東経(WGS84)		141.4053						
						水深(cm)								
調査日		2021年7月10日				水深測定時間								
時刻		11:20-12:20				底質		砂泥質						
(任意)酸化還元電位(mV)		※①237	※②128	※③174		植生等		植生はない。沖合にアマモ場						
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	転石・岩場	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Hymeniacidon sinapium</i>				○				不確定
2	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>				○				
3	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>				○				
4	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta confusa</i>					○			
9	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella correensis</i>					○			
10	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	3	7	1		○			
11	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミニナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	3	1	8	○				
12	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>					○			
13	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea aff. Satumana</i>					○			
14	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	オオウスイロヘソカドガイ	<i>Paludinellassiminea tanegashimae</i>					○			
15	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイロフバイ科	ムシロガイ	<i>Nassarius livescens</i>					○			
16	軟体動物門	腹足綱	トウガタガイ目	トウガタガイ科	カキウラクチキレモドキ	<i>Brachystomia bipyramidata</i>					○			
17	軟体動物門	腹足綱	オカミガイ目	オカミガイ科	ウスコミガイ	<i>Laemodonta exaratoidea</i>					○			
18	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>					○			
19	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキインコ	<i>Mytilisepta virgata</i>					○			
20	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○			
21	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>	1	1						
22	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina aff. Sinensis</i>	1	1	1					
23	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>					○			
24	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>			1	○				
25	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta or wilsoni</i>				○				
26	環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	1							
27	環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ	<i>Marphysa cf. iwamushi</i>				○				
28	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>	1	6	3	○				
29	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>				○				
30	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>			2					
31	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属	<i>Notomastus sp.</i>			1					
32	環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>				○				
33	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>					○			
34	節足動物門	端脚綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>	1				○			
35	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○			
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>				○				
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○			
39	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMNG		万石浦 Cエリア1(潮間帯上部) 猪落												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)					天候			曇り				
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査(有))、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))					北緯(WGS84)			38.4168				
							東経(WGS84)			141.4096				
							水深(cm)							
調査日		2021年7月10日					水深測定時間							
時刻		9:15-9:50					底質			砂質(固い土)				
(任意)酸化還元電位(mV)		※①419	※②401	※③424			植生等			植生はない。近くに淡水の流れがある。				
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	転石、岩場	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>					○			
2	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	インダタミ	<i>Monodonta confusa</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>					○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	クビキレガイ科	ヤマトクビキレガイ	<i>Turuncatella pheifferi</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>					○			
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツツカワザンショウ	<i>"Assiminea" estuarina</i>					○			
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	イツマデガイ科	クビキレガイモドキ	<i>Cecina manchurica</i>					○			
9	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>					○			
12	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>					○			
13	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○			
14	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>					○			
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> or <i>wilsoni</i>				○				
16	環形動物門	-	-	フトミズ科	イソミミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>				○				
17	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	フサゲモクズ	<i>Ptilohyale barbicornis</i>				○				
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>					○			
19	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>	1				○			
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>					○			塚
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMNG		万石浦 Cエリア2(潮間帯中部) 猪落												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)					天候			晴れ				
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査有)、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)					北緯(WGS84)			38.4169				
							東経(WGS84)			141.4092				
							水深(cm)							
調査日		2021年7月10日					水深測定時間							
時刻		9:55-10:30					底質			砂利混じりの砂質(泥分が少し混じる)				
(任意)酸化還元電位(mV)		※①357		※②182		※③335		植生等			植生はない。沖合にアマモ場。近くに淡水の流入がある。			
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	転石	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>				○				
2	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella correensis</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミナナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	1	19	2	○				
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ムシロガイ	<i>Nassarius livescens</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>		3	7					
12	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	4		7	○				
13	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratium</i>				○				
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	34	10	13	○				
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	2			○				
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste</i> spp.	3							
17	環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ	<i>Marphysa</i> cf. <i>iwamushi</i>				○				
18	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		2	2					
19	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia</i> spp.				○				
20	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.			1					
21	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> sp.	1		2					
22	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニッポンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>				○				
23	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	8	1						
25	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	1							
26	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
27	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	1							
28	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ゴツムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	1							
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>		6						
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>				○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>				○				
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	イソテッポウエビ類	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>				○				不確定
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○				
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSTS		松島湾 Aエリア1(潮間帯中部) 波津々浦A1			天候	曇り								
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.3306								
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査(有)、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))			東経(WGS84)	141.1463								
調査日		2021年7月11日			水深(cm)									
時刻		9:55-10:30			水深測定時間									
(任意)酸化還元電位(mV)		※①390	※②371	※③318	底質	砂質								
		出現種			個体数	定性観察			同定の備考					
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>				○				
2	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ベッコウガサ	<i>Cellana grata</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta confusa</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella coreensis</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>				○				
10	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	2	1	1	○				
11	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
12	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	<i>Assiminea</i> sp. G				○				
13	軟体動物門	腹足綱	カリバガサ目	カリバガサ科	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>				○				
14	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>				○				
15	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>				○				
16	軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマツ目	コウダカカラマツ科	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>				○				
17	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○				
18	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイコ	<i>Mytilisepta virgata</i>				○				
19	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ヒバリガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>				○				
20	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ホトギス	<i>Musculista senhousia</i>	1							
21	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
22	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>			1					
23	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>	7							
24	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	7		1	○				
25	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>				○				
26	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	4	8	11	○				
27	環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	4	1	6					
28	環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ウロコムシ	Polynoidae	1			○			不確定	不確定
29	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>			2					
30	環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>			1					
31	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia</i> spp.		1	1	○				
32	環形動物門	-	-	オフェリアゴカイ科	ツツオオフェリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>	1							
33	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus</i> sp.	2	1	5	○				
34	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属	<i>Notodasus</i> sp.			1					
35	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニッポンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>	1							
36	環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	エゾカサネカンザシ	<i>Hydroides ezoensis</i>				○				
37	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>				○				
38	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
39	節足動物門	軟甲綱	端脚目	エンマヨコエビ科	エンマヨコエビ	<i>Dexaminidae</i>				○				
40	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	1							
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>				○				
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>				○				
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>				○				
44	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
45	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○				
46	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
47	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>				○				
48	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		12						
49	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>			1	○				
50	尾索動物門	ホヤ綱	マンジュウボヤ目	マンジュウボヤ科	マンジュウボヤ	<i>Aplidium pliciferum</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSTS		松島湾 Aエリア2(潮間帯中部) 波津々浦A2													
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)				天候		曇りのち小雨							
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査(有))、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.3314							
						東経(WGS84)		141.1455							
						水深(cm)									
調査日		2021年7月11日				水深測定時間									
時刻		10:40-12:00				底質		砂質							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①296	※②283	※③161			植生等		植生はない。下層には砂利がある。						
出現種						個体数			定性観察			同定の備考			
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査	
							1	2	3						
1	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Hymeniacion sinapium</i>					○				
2	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>					○				
3	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	ホウザワイソギンチャク	<i>Syndwackia hozawai</i>					○				
4	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura sp.</i>					○				
5	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>					○				
6	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>	1						部分のみ		
7	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>					○				
8	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>					○				
9	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	クボガイ科	コシダカガンガラ	<i>Tegula rustica</i>					○				
10	軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella correensis</i>					○				
11	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>					○				
12	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	"Assimineae" sp. G			6		○				
13	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>					○				
14	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>					○				
15	軟体動物門	腹足綱	裸鰓目	クロシタナシウムシ科	クロシタナシウムシ	<i>Dendrodoris arborescens</i>					○				
16	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	カノコキセワタ科	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>					○				
17	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○				
18	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ドブシガイ科	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>		1	2		○				
19	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>					○				
20	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	3	4	11		○				
21	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone cf. longa</i>			1						
22	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>			2	1					
23	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta or wilsoni</i>			1						
24	環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	2	3	18						
25	環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ	<i>Marphysa cf. iwamushi</i>					○				
26	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>			1		○				
27	環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>		1					不確定		
28	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempfi</i>		2	1						
29	環形動物門	-	-	スピオ科	コオニスピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>			1						
30	環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio aff. arndti</i>	1	2	11						
31	環形動物門	-	-	ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>					○			棲管	
32	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia spp.</i>	1		1		○				
33	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>		2	1						
34	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属	<i>Notodasus sp.</i>		1			○				
35	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニツボンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>	1				○				
36	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	3		5		○				
37	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガソコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>					○				
38	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ワレカラ科	トゲワレカラ	<i>Caprella scaura</i>					○				
39	節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricornata</i>		1	3		○				
40	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrrodactylus</i>					○				
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビ属	<i>Palaemon sp.</i>					○				
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>					○				
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	エビジャコ属	<i>Crangon sp.</i>					○				
44	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>					○				
45	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○			幼体、不確定	
46	棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	スナクモヒトデ科	スナクモヒトデ科	Amphiuridae					○				
47	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>					○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。



令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSTS		松島湾 Aエリア4(潮間帯上部) 波津々浦A4			天候		曇り							
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)		38.3312							
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査術)、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			東経(WGS84)		141.1471							
調査日		2021年7月11日			水深(cm)									
時刻		09:05-09:50			水深測定時間									
(任意)酸化還元電位(mV)		※①429	※②401	※③384	底質		砂質							
					植生等		植生はない。							
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>				○				
2	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>				○				
3	扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	ヒラムシ類	Polycladida				○				
4	軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	ニシキウス目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella correensis</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>				○				
10	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>		1	1	○				
11	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミニナ科	イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>				○				
12	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
13	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>				○				
14	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. G		1	17	○				
15	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリレヨフバイ科	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>				○				
16	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>				○				
17	軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマツ目	コウダカカラマツ科	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>				○				
18	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>				○				
19	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ホトギス	<i>Musculista senhousia</i>	4	2	4	○				
20	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
21	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	2	3	2	○				
22	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>			1	○				
23	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		9	4	○				
24	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>				○				
25	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina aff. Sinensis</i>		1		○				
26	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>				○				
27	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	19	36	33	○				
28	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta or wilsoni</i>				○				
29	環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>				○				
30	環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群の1種	<i>Marphysa victori</i>				○			<sup>1</sup> Marphysa sp. A (Abe et al. 2019)	
31	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		4		○				
32	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kemp</i>			1	○				
33	環形動物門	-	-	ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>				○			棲管	
34	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia</i> spp.	5	11	14	○				
35	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella</i> sp.			2	○				
36	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus</i> sp.	1	9	1	○				
37	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属	<i>Notodasus</i> sp.		1		○				
38	環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニッポンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>				○				
39	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
40	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>				○				
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>				○				
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus aff. lobidens lobidens</i>				○				
44	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>				○				
45	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
46	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○				
47	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	イシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) japonica</i>				○				
48	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
49	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>				○				
50	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSTS		松島湾 Cエリア1(潮間帯上部) 櫃ヶ浦C1												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			天候		晴れ							
調査者(所属)		伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株) 6月23日は鈴木、金谷弦(国立環境研究所)で実施			北緯(WGS84)		38.3505							
					東経(WGS84)		141.0520							
					水深(cm)									
調査日		2021年7月12日(6月23日に定性調査を実施済み、13:20-15:10曇りのち小雨)			水深測定時間									
時刻		09:00-09:15(定量調査のみ)			底質		砂質							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①480	※②406	※③409	植生等		陸側に小面積のヨシ原がある。							
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミナ科	ウミナ	<i>Batillaria multiformis</i>	1			○				
3	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	キバウミナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>				○	○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>					○			
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>				○	○			
8	軟体動物門	腹足綱	オカミガイ目	オカミガイ科	ウスコミガイ	<i>Laemodonta exaratoides</i>				○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>				○				
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>				○				
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>				○				
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイソソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta or wilsoni</i>				○				
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>	2	1		○				
16	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>			1					
17	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>				○				
18	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella sp.</i>	2		1					
19	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>	2	2	4	○				
20	環形動物門	-	-	フトミズ科	イソミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>	4		5	○				
21	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>		1			○			
23	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○	○			
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiramantes haematocheir</i>				○	○			
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	1	4	1	○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○				
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSTS		松島湾 Cエリア2(潮間帯中部) 櫃ヶ浦C2												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			天候		晴れ							
調査者(所属)		伊藤 萌(国立環境研究所)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株)) 6月23日は鈴木、金谷弦(国立環境研究所)で実施			北緯(WGS84)		38.3505							
					東経(WGS84)		141.0531							
					水深(cm)									
調査日		2021年7月12日			水深測定時間									
時刻		09:15-10:05			底質		砂泥質							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①322	※②326	※③322	植生等		植生はない。左岸に転石帯。							
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	左岸側転石帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミミナ科	ウミミナ	<i>Batillaria multiformis</i>	1	1	1	○				
3	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミミナ科	ホソウミミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	1	1	2	○				
4	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミミナ科	イボウミミナ	<i>Batillaria zonalis</i>				○				
5	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	キバウミミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>				○				
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>				○				
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントニイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>				○				
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>estuarina</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. H				○				
10	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	<i>Reticonassa festiva</i>			2	○				
11	軟体動物門	腹足綱	オカミガイ目	オカミガイ科	ウスコミガイ	<i>Laemodonta exaratoides</i>				○				
12	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ホトギス	<i>Musculista senhousia</i>	1							
13	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
14	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	7	11	5	○				
15	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	2		1	○				
16	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina</i> aff. <i>Sinensis</i>	4	1	2	○				
17	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone</i> cf. <i>longa</i>				1				
18	環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	66	85	98	○				
19	環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis</i> species group				○				
20	環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソコカイもしくはイシソコカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> or <i>wilsoni</i>			1	○				
21	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○				
22	環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Scolelepis</i> 属	<i>Scolelepis</i> sp.		1*	1				*部分のみ	
23	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia</i> spp.	1	2	21	○				
24	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> sp.	2	4	5					
25	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属(大型)	<i>Notomastus</i> sp.				1			大型個体	
26	環形動物門	-	-	イトミズ科	イトミズ科	Tubificidae	1	2	3					
27	環形動物門	-	-	フトミズ科	イソミズ	<i>Pontodrilus littoralis</i>				○				
28	節足動物門	蜘蛛綱	カニ目	カニ科	ウミカニ	<i>Halobisium orientale japonicum</i>				○				
29	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
30	節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	フサゲモクス	<i>Ptilohyale barbicornis</i>				○				
31	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>			1					
32	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			2					
33	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○				
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>				○				
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedia astacina</i>				○				
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>				○				
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○				
39	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
40	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
41	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○				
42	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>				○				
43	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>				○				
44	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○				
45	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU	広浦 Aエリア1(潮間帯中部)			天候	曇り									
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.1657									
調査者(所属)	柚原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			東経(WGS84)	140.9539									
				水深(cm)										
調査日	2021年6月12日			水深測定時間										
時刻	10:50-11:20			底質	砂質									
(任意)酸化還元電位(mV)	※①421	※②329	※③328	植生等	後背地にはヨシ原がある。									
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	ヨシ原	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>	3	1	3					
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントニイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>					○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assiminea" hiradoensis</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>					○			
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>				○				
8	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○	○			
9	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	4		2		○			
10	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	7	5	6					
11	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	1		1					
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	6							
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i> and/or <i>atoka</i>	3	1						
14	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	3							
15	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus</i> sp.	40	22	4					
16	環形動物門	-	-	フトミズ科	イソミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>					○			
17	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>					○			
19	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			3					
20	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	1							
21	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	1							
22	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○			
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>			1					
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>			1					
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○			
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>					○			
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>					○			
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>					○			

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU	広浦 Aエリア2(潮間帯下部)			天候	曇り									
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.1657									
調査者(所属)	柚原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			東経(WGS84)	140.9538									
				水深(cm)										
調査日	2021年6月12日			水深測定時間										
時刻	11:20-11:50			底質	砂質									
(任意)酸化還元電位(mV)	※①369	※②362	※③349	植生等	周囲にカキ礁が散在する。									
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>			1	○				
2	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	リネウス科	Lineidae	2					白色		
3	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	マツシマコメツブガイ	<i>Decorifer matusimanus</i>	1							
4	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○				
5	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
6	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>			3	○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	1	1	1					
8	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>			1					
9	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	4	4	3	○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>				○				
12	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>				○				
13	環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone cf. longa</i>	1		3					
14	環形動物門	-	-	ニカイテロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>				○				
15	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	1							
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>		1						
17	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○				
18	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	12	3	2					
19	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>				○				
20	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus sp.</i>	91	49	66	○				
21	環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>				○				
22	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
23	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	1							
25	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ゴツムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>				○				
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○				
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU		広浦 Bエリア1(潮間帯上部)												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			天候		曇り							
調査者(所属)		袖原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))			北緯(WGS84)		38.1658							
					東経(WGS84)		140.9486							
					水深(cm)									
調査日		2021年6月12日			水深測定時間									
時刻		09:00-09:30			底質		砂質							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①400	※②357	※③299	植生等		陸側にはヨシ原が存在する。							
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	ヨシ原	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>		1	2					
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>					○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assiminea" hiradoensis</i>					○			
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>					○			
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカウウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>				○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>			3					
11	軟体動物門	二枚貝綱	ウロコガイ目	チリハギ科	ガタヅキ	<i>Arthritica</i> cf. <i>reikoe</i>	1							
12	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>			1					
13	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>		1	1					
14	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	1	1						
15	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone</i> cf. <i>longa</i>	1	1						
16	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>			1	○				
17	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i> and/or <i>atoka</i>	4		1					
18	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	14	32	20					
19	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>			1					
20	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.			1					
21	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.		1						
22	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> sp.	58	60	48	○				
23	環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>		1	1					
24	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
25	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>					○			
26	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	5	43	5					
27	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	1		4					
28	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○			
29	節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricineta</i>	1							
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○	○			
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○			
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>					○			
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>					○			
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	3			○				
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○				
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>			3	○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU		広浦 Bエリア2(潮間帯中部)			天候		曇り							
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)		38.1657							
調査者(所属)		柚原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))			東経(WGS84)		140.9489							
調査日		2021年6月12日			水深(cm)									
時刻		09:30-10:00			水深測定時間									
(任意)酸化還元電位(mV)		※①183	※②214	※③253	底質		砂泥質							
					植生等		一帯に小さなカキ礁が存在。							
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>					○			
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>					○			
4	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○			
5	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	4	8	4		○			
6	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>		1	1		○			
7	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>		4	3		○			
8	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>					○			
9	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	3		1		○			
10	環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>					○			
11	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	1	1						
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>			5					
13	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	51	15	107		○			
14	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>	3		3					
15	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>	1		3					
16	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>					○			
17	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella sp.</i>			1					
18	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>	83	20	92					
19	環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>			2					
20	環形動物門	-	-	イトミズ科	イトミズ科	Tubificidae		1						
21	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>					○			
22	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>					○			
23	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	4	6	31		○			
24	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>					○			
25	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>					○			
26	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	1	6	3		○			
27	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>					○			
28	節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	スナモグリヤドリムシ	<i>Ione cornuta</i>					○			
29	節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricineta</i>					○			
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>					○			
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	Crangon 属	<i>Crangon sp.</i>					○			
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>					○			
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>					○			
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>					○			
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>					○			
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○			
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○			
38	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>					○			
39	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>					○			
40	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>					○			
41	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>					○			

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU	広浦 Bエリア3(潮間帯下部)			天候	曇り									
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.1653									
調査者(所属)	袖原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))			東経(WGS84)	140.9490									
				水深(cm)										
調査日	2021年6月12日			水深測定時間										
時刻	10:00-10:30			底質	砂質									
(任意)酸化還元電位(mV)	※①372	※②327	※③291	植生等	水際に小さなカキ礁が散在する。									
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	リネウス科	Lineidae			2				白色	
2	箒虫動物門	箒虫綱	-	ホウキムシ科	イサゴホウキムシ	<i>Phoronis psammophila</i>			1				不確定	
3	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
4	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	3		15					
5	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	1		6					
6	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	1							
7	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone cf. longa</i>		1	1					
8	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>		1	1					
9	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>		1						
10	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	21	116	95					
11	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>		1						
12	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>	97	184	141					
13	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
14	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>				○				
15	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>		12	5					
16	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	10	2	7					
17	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	2		4					
18	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>			1	○				
19	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>				○				
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。



令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFHRU		広浦 Cエリア1(潮間帯中部)												
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			天候		曇り							
調査者(所属)		袖原 剛(東北大学)、木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査会)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			北緯(WGS84)		38.1636							
					東経(WGS84)		140.9531							
					水深(cm)									
調査日		2021年6月12日			水深測定時間									
時刻		12:00-12:50			底質		泥混じり砂質							
(任意)酸化還元電位(mV)		※①372	※②368	※③351	植生等		陸側の潮上帯にはヨシ原が存在する。							
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	ヨシ原	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>				○				
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>				○				
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>				○	○	○		
6	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>						○		
7	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○		○		
8	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	3	1	1			○		
9	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	1			○		○		
10	環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone cf. longa</i>	3							
11	環形動物門	-	-	チロリ科	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>				○				不確定
12	環形動物門	-	-	ニカイチロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>				○				
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	5	1	1					
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>	2		2					
15	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○				
16	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	11	7	3					
17	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>		1	4					
18	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>				○				
19	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>			1					
20	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus sp.</i>	38	32	8					
21	環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>						○		
22	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>						○		
23	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>					○			
24	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		3	8	○				
25	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	2	1	2					
27	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>						○		
28	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○			
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevirostratus</i>		1		○		○		中洲では音で確認
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>				○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>		1				○		
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○			
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ペンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>					○			
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>						○		

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFTRN		鳥の海 A1(潮間帯中部)															
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)				天候		曇り									
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査会)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)				北緯(WGS84)		38.0326									
						東経(WGS84)		140.9170									
						水深(cm)											
調査日		2021年6月13日				水深測定時間											
時刻		10:55-11:30				底質		砂質									
(任意)酸化還元電位(mV)		※①379	※②292	※③316		植生等		東側にヨシ原がある									
出現種										個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	ヨシ原	護岸	定量調査	定性調査			
							1	2	3								
1	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	17	5	11	○	○						
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>					○	○					
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○						
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assiminea" hiradoensis</i>					○						
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>					○						
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>			15	○							
7	軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>						○					
8	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○	○					
9	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>		2		○							
10	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>			1	○							
11	軟体動物門	二枚貝綱	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>				○							
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>		1	1								
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>		1									
14	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		1		○							
15	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	7	9	9								
16	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempfi</i>	1	4	3								
17	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>				○							
18	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella sp.</i>		1									
19	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>	9		1								
20	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>						○					
21	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>					○						
22	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			1								
23	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>			1								
24	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○	○					
25	節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricineta</i>			1								
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>				○	○						
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>				○							
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>						○					
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>						○					
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>						○					
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>						○					
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		2		○	○						
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>					○	○					

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFTRN	鳥の海 B1(潮間帯上部)		
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)		
調査者(所属)	北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)		
	天候		
	晴れ,少し風あり		
調査日	2021年6月14日		
	北緯(WGS84)		
	38.0308		
時刻	12:15-13:40		
	東経(WGS84)		
	140.9101		
(任意)酸化還元電位(mV)	※①441 ※②403 ※③365		
	水深(cm)		
	水深測定時間		
時刻	12:15-13:40		
	底質		
	砂質		
(任意)酸化還元電位(mV)	※①441 ※②403 ※③365		
	植生等		
	陸側の護岸基部の砂地にオカヒジキとオニハマダイコン		

整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	出現種			個体数			定性観察			同定の備考	
							コア			干潟	砂地	備考	定量調査	定性調査			
							1	2	3								
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>							○				
2	紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>							○				
3	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミノナ科	ホソウミノナ	<i>Batillaria attramentaria</i>							○				
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. H			1	30			○				
5	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>							○				
6	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	2	4					○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	5	8	5				○				
8	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>				1			○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>							○				
10	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>							○				
11	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste</i> spp.		1									
12	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>							○				
13	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	1	2	1				○				
14	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempfi</i>	1										
15	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>			4	2							
16	環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>			1								
17	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella</i> sp.			1								
18	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>							○				
19	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>							○				
20	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	47	1	2								
21	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>							○	○			
22	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒゲナガハマトビムシ	<i>Trinorchestia trinitatis</i>								○			
23	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			4				○				
24	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	3		3				○				
25	節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diastylis tricineta</i>				1							
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>							○				
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>				1			○				
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>				1			○				
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>							○				
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>							○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>							○				脱皮殻
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrostoma toriumii</i>				1							
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>							○				
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocyropsis stimpsoni</i>								○			
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	10	1					○				
36	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>							○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFTRN		鳥の海 C2(潮間帯中部)			天候	曇り								
サイト代表者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.0371								
調査者(所属)		木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))			東経(WGS84)	140.9029								
					水深(cm)									
調査日		2021年6月13日			水深測定時間									
時刻		12:40-13:20			底質	砂質								
(任意)酸化還元電位(mV)		※①403	※②406	※③373	植生等	一帯にカキ礁が多い。								
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	護岸とその周辺	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>			1		○			
2	軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>					○			
3	軟体動物門	腹足綱	オニツノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>					○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assimineae" japonica</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assimineae" sp. H</i>		3	3					
7	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>					○			
8	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>					○	○		
9	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	1		6		○			
10	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>					○			
11	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	6	3	9		○			
12	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	1	1	2		○	○		
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>					○			
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>		1	6				コア2は部分のみ	
15	環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>			1					
16	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	2	16	27					
17	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>		1	3					
18	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia spp.</i>					○	○		
19	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella sp.</i>			1					
20	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus sp.</i>		1	12		○			
21	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>					○	○		
22	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>					○			
23	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	1							
24	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			1		○			
25	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>		1						
26	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>			3		○	○		
27	節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	スナモグリヤドリムシ	<i>Ione cornuta</i>					○			
28	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>						○		
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>						○		
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>	1				○			
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>			1		○			
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>					○	○		
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○	○		
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>					○			
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>						○		
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>					○	○		

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFTRN	鳥の海 D2(潮間帯中部)			天候	曇り									
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)			北緯(WGS84)	38.0290									
調査者(所属)	木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野 慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			東経(WGS84)	140.9151									
				水深(cm)										
調査日	2021年6月13日			水深測定時間										
時刻	9:55-10:35			底質	砂質									
(任意)酸化還元電位(mV)	※①390	※②421	※③380	植生等	東側にまとまったヨシ原がある。									
出現種							個体数			定性観察			同定の備考	
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	ヨシ原	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	オニソノガイ目	ウミニナ科	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	3	3	4	○	○			
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>				○				
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>					○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>					○			
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assiminea" hiradoensis</i>				○	○			
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>	51		46	○				
8	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>				○				
9	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	カノコキセワタ科	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>				○				
10	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
11	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	2		2					
12	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	3	4	6	○				
13	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriformia spp.</i>					○			
14	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella sp.</i>			1					
15	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus sp.</i>	1		1				部分のみ	
16	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○				
17	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>			1					
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>				○				
19	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
20	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>				○				
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	ハサミシャコエビ	<i>Laomedea astacina</i>				○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>				○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>		1			○			
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○				
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○	○			
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>				○	○			
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	4	5	5	○	○			
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>					○			
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○	○			

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFTRN	鳥の海 E2(潮間帯中部)													
サイト代表者(所属)	鈴木孝男(みちのくベントス研究所)					天候	曇り							
調査者(所属)	木下今日子(東北大学)、内野 敬(仙台市二華高校)、田所 悟(自然環境調査(有))、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)					北緯(WGS84)	38.0326							
						東経(WGS84)	140.8987							
						水深(cm)								
調査日	2021年6月13日					水深測定時間								
時刻	11:50-12:25					底質	砂泥質							
(任意)酸化還元電位(mV)	※①183	※②264	※③268			植生等	小さなカキ礁が散在。							
出現種						個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	護岸下の転石帯	備考	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ワカウラツボ科	サザナミツボ	<i>Nozeba ziczac</i>		1						
2	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assimineia japonica</i> "					○			
3	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>				○				
4	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	3	1	2		○			
5	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	1							
6	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	3	1		○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>					○			
8	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>			2					
9	環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste</i> spp.	1	1	1					
10	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	82	133	82	○				
11	環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>	1							
12	環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.				○				
13	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	<i>Capitella</i> sp.	1	2	1					
14	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	<i>Heteromastus</i> sp.	9	8	4	○				
15	環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>		1		○				
16	環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>				○				
17	環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ科	Tubificidae		3						
18	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>				○	○			
19	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>				○				
20	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		2	2					
21	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>				○				
22	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	3	1	1					
23	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.				○	○			
24	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>					○			
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	シラタエビ	<i>Exopalaemon orientis</i>				○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシヤコエビ科	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedia astacina</i>					○			
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○	○			
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○	○			
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○			
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>				○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○	○			
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>			1	○				

備考: +は存在、++は多い、+++はとても多いことを示す。

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSG		鮫川河口 A1													
サイト代表者(所属)		金谷弦(国環研)					天候			晴れ					
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、多留聖典(東邦大)、海上智央(榊自然教育研究センター)、青木美鈴(WLJ)、田所 悟(自然環境調査会)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノリソ)					北緯(WGS84)			36.9121					
							東経(WGS84)			140.8184					
							水深(cm)			5.0					
調査日		2021年8月10日					水深測定時間			11:51~11:57					
時刻		11:45-12:30					底質			泥~砂泥					
(任意)酸化還元電位(mV)		① 81	② 157	③ 97				植生等			ボウアオノリ、オゴノリのパッチ				
出現種							個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	護岸	定量調査	定性調査	
							1	2	3						
1	軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>				○					
2	軟体動物門	腹足綱	エソタマキ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>					○				
3	軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>						○			
4	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya japonica</i>				○					
5	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i>		2		○					
6	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>				○					
7	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属の一種	<i>Notomastus sp.</i>		1		○					
8	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	7	22	68	○					
9	節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>		2	9	○					
10	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマビムシ科	ヒメハマビムシ種群の一種	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>				○					
11	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	5	13	7	○					
12	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツムシ科	Gnorimosphaeroma 属の一種	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>			4	○					
13	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○			○		
14	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>					○		○		
15	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>					○				
16	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○					
17	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○					
18	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○					
19	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○					
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>				○					
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocyopode stimpsoni</i>				○					

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査〔干潟〕

2021(令和3)年度

TFSMG		鮫川河口 A2												
サイト代表者(所属)	金谷 茲(国環研)			天候		晴れ								
調査者(所属)	鈴木孝男(みちのけベントス研究所)、多智聖典(東邦大)、海上智夫(南自然教育研究センター)、青木真鈴(WJ)、田所 信(自然環境調査所)、北野慎吾、吉田美沙希(三洋テクノマリン株)			北緯(WGS84)		36.914		東経(WGS84)		140.8175		水深(cm)		0~5 cm
調査日	2021年8月10日・11日			水深測定時間		11:51~11:57								
時刻	12:30~13:00(8月10日:定量と排水槽の定性)、10:00~11:20(8月11日:砂地と護岸・転石帯の定性)			底質		12:10~12:16(8月10日)								
(任意)酸化還元電位(mV)	① 263	② 254	③ 272	植生等		オゴノリのパッチ								
出現種				個体数			定性観察			同定の備考				
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			砂地	排水槽	護岸・転石帯	定量調査	定性調査
							1	2	3					
1	動物界	花虫綱	イソギンチャク目	ウメシイソギンチャク科	コモチイソギンチャク	<i>Ocnidarus japonicus</i>				○				
2	動物界	花虫綱	イソギンチャク目	ウメシイソギンチャク科	ヨロイソギンチャク	<i>Anthopleura uchida</i>					○			
3	動物界	多板綱	クサスライガイ目	クサスライガイ科	クサスライガイ	<i>Acanthochitona achates</i>						○		
4	動物界	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Lottia goshimai</i>						○		
5	動物界	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Lottia tenuisculpta</i>						○		
6	動物界	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Nisophaedusa nigra</i>					○			
7	動物界	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana grata</i>						○		
8	動物界	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>						○		
9	動物界	腹足綱	エゾマキヒ目	マキヒ科	マキヒ	<i>Echinolittorina radiata</i>					○			
10	動物界	腹足綱	エゾマキヒ目	マキヒ科	マキヒ	<i>Littorina brevicula</i>						○		
11	動物界	腹足綱	ニシキウス目	カボガイ科	カボガイ	<i>Tagula pflifferi pflifferi</i>						○		
12	動物界	腹足綱	ニシキウス目	ニシキウス科	ニシキウス	<i>Manodonta confusa</i>						○		
13	動物界	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	アツキガイ	<i>Raisha branni</i>						○		
14	動物界	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	アツキガイ	<i>Raisha clausera</i>						○		
15	動物界	腹足綱	新腹足目	マクラガイ科	マクラガイ	<i>Olivella</i> 属の一種				○				
16	動物界	腹足綱	コウダカラマツ目	コウダカラマツ科	コウダカラマツ	<i>Siphonaria japonica</i>						○		
17	動物界	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	イガイ	<i>Mytilus septemlineatus</i>						○		
18	動物界	二枚貝綱	カキ目	カキ科	カキ	<i>Crassostrea gigas</i>						○		
19	動物界	二枚貝綱	カキ目	カキ科	カキ	<i>Crassostrea nippona</i>						○		
20	動物界	二枚貝綱	カキ目	イソカキ科	イソカキ	<i>Saccostrea kegaki</i>						○		
21	動物界	二枚貝綱	ツキガイ目	ツキガイ科	ツキガイ	<i>Lucinoma annulata</i>						○		
22	動物界	二枚貝綱	ドブシジミ目	ドブシジミ科	ドブシジミ	<i>Maorella hilaris</i>						○		
23	動物界	二枚貝綱	ドブシジミ目	ドブシジミ科	ドブシジミ	<i>Weddellia bekkaidensis</i>						○		
24	動物界	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサギガイ科	アサギガイ	<i>Theora lubrica</i>						○		
25	動物界	二枚貝綱	アサギガイ目	アサギガイ科	アサギガイ	<i>Semellidae</i> gen. sp.						○		
26	動物界	二枚貝綱	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	マルスタレガイ	<i>Raeta pulchella</i>						○		
27	動物界	二枚貝綱	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	マルスタレガイ	<i>Mutilla japonica</i>						○		
28	動物界	二枚貝綱	マルスタレガイ目	マルスタレガイ科	マルスタレガイ	<i>Macridiscus sequaltera</i>						○		
29	動物界	二枚貝綱	ドブシジミ目	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Danax semigranulosus</i>						○		体側に棘突起あり
30	環形動物界			チロリ科	チロリ	<i>Glyceria</i> 属の一種						○		
31	環形動物界			ヒメヤマトコカイ科	ヒメヤマトコカイ	<i>Hadista atoka</i>				1	1	○		
32	環形動物界			コカイ科	コカイ	<i>Hadista daikana</i> and/or <i>atoka</i>						○		
33	環形動物界			シロコカイ科	シロコカイ	<i>Neahtys polybranchia</i>						○		
34	環形動物界			サンゴカイ科	サンゴカイ	<i>Eteone cf. longa</i>						○		Eteone属かMysta属
35	環形動物界			サンゴカイ科	サンゴカイ	<i>Phyllosodidae</i> gen. sp.						○		
36	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Marpysa victors</i>						○		
37	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Acanthosyllis aff. oxycephala</i>						○		
38	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Prinosopio (Aquilopio) krassidenis</i>						○		
39	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Rhynchospio glutana</i> complex sp.						○		
40	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Pseudopolydora cf. lempu</i>				1	4	○		
41	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>						○		
42	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>						○		
43	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Abarenicola pacifica</i>						○		
44	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Euclymmeninae</i> 属の一種						○		紅筋状
45	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Leitoscoloplos cf. pugettensis</i>						○		
46	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Naineris</i> 属の一種						○		ツブラホムシではない?
47	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Thoracophelia</i> sp.						○		T. dillonensis?
48	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Capitella</i> 属の一種						○		
49	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Mediomastus</i> 属の一種						○		
50	環形動物界			マユコカイ科	マユコカイ	<i>Notomastus</i> 属の一種						○		
51	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Smelobus</i> sp.				1		○		
52	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Nabalia</i> sp.						○		
53	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Oithalmus challenger</i>						○		
54	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Mutilla sp.</i>				1		○		
55	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Grandierella japonica</i>				43	41	67	○	
56	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Eohaustorius</i> 属の一種						○		
57	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Sinorchestia nipponensis</i>						○		
58	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Oxyathys muricatus</i>				14	5	7	○	
59	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Gnomimosphaeroma</i> 属の一種				3		○		
60	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Excirolana chiltoni</i>						○		
61	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Linia exotica</i>						○		
62	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Linia sinuata</i>						○		
63	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Pagurus filholi</i>						○		
64	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Hippa truncatiformis</i>						○		
65	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Palaemon pacificus</i>						○		
66	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Pachygrapsus crassipes</i>						○		
67	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Ossanna detana</i>						○		
68	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>						○		
69	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Gaetice depressus</i>						○		
70	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>						○		
71	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Hemigrapsus takanoi</i>						○		
72	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Scopimera gibbosa</i>						○		
73	節足動物界	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	タナイス	<i>Ocyropode stimpsoni</i>						○		
74	節足動物界	クモ目	クモ目	クモ目	クモ目	<i>Amphura (Fellaria) vadicola</i>						○		



令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFMSG		鮫川河口 B1													
サイト代表者(所属)		金谷弦(国環研)				天候	晴れ								
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、多留聖典(東邦大)、海上智央(株自然教育研究センター)、青木美鈴(WIJ)、田所 悟(自然環境調査術)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリナ株)				北緯(WGS84)	36.9037								
						東経(WGS84)	140.8058								
						水深(cm)	35~ 50 cm								
調査日		2021年8月10日・11日				水深測定時間	10:33 -10:39(8月10日)								
時刻		8:40 -11:30(8月10日)、12:30 -13:00(8月11日:追加の定性調査)				底質	砂~砂泥								
(任意)酸化還元電位(mV)		① 188	② 217	③ 221		植生等	岸にヨシ原、その前面にシオクグ。干潟上に緑藻マット								
		出現種					個体数			定性観察			同定の備考		
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	コア			干潟	植生帯	護岸・転石	定量調査	定性調査	
							1	2	3						
1	紐形動物門	-	-	-	紐形動物門の一種	Nemertea				○				赤	
2	軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>					○				
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>					○				
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>					○				
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>				○	○				
6	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	ヒラダカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>				○	○				
7	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	ツツカワザンショウ	<i>Assiminea estuarina</i>				○	○				
8	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>				○	○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	トフシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>			1	○					
10	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	1			○					
11	環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>	1			○	○				
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	1	1		○					
13	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i>	1			○					
14	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>	4			○					
15	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>			1	○					
16	環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>			1	○					
17	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属の一種	<i>Heteromastus sp.</i>			4	○					
18	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群の一種	<i>Platorchestia joi or pacifica</i>				○	○				
19	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>			2	○					
20	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>			1	○					
21	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	Gnorimosphaeroma 属の一種	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>				○					
22	節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>				○	○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>			1	○				幼体・巣穴	
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	ウリタエビジャコ	<i>Orangon uritai</i>				○					
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	クルマエビ科	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>				○					
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>				○					
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビトドキ	<i>Palaemon serrifer</i>				○					
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>				○	○				
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>				○	○				
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>				○				抱卵	
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>				○	○			小型個体を含む	
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>				○	○				
33	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>				○					
34	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>				○	○				
35	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>				○					
36	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				○					
37	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>				○					
38	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>				○					
39	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>			1	○					
40	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>				○					
41	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>				○					

令和3年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査【干潟】

2021(令和3)年度

TFSMG		鮫川河口 B2				天候			晴れ						
サイト代表者(所属)		金谷弦(国環研)				北緯(WGS84)			36.9103						
調査者(所属)		鈴木孝男(みちのくベントス研究所)、多留聖典(東邦大)、海上智央(緑自然教育研究センター)、青木美鈴(WJU)、田所 悟(自然環境調査(有)、北野慎容、吉田美沙希(三洋テクノマリン(株))				東経(WGS84)			140.8029						
調査日		2021年8月10日・11日				水深(cm)			35~40						
時刻		9:25-10:15(8月10日), 11:30-12:30(8月11日:追加の定性調査)				水深測定時間			9:25-9:33(8月10日)						
(任意)酸化還元電位(mV)		① 293	② 314	③ 282	底質			砂泥							
						植生等			岸にヨシ、シオクグ						
整理番号	門	綱	目	科	標準和名	学名	個体数			定性観察			同定の備考		
							コア			干潟	植生帯	備考	定量調査	定性調査	
1	2	3													
1	紐形動物門	-	-	-	紐形動物門の一種	Nemertea					○				Cerebratulus carnosus ?
2	軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>					○				赤石の上
3	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assimineae</i> aff. <i>parasitologica</i>					○	○			
4	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assimineae" hiradoensis</i>					○	○			
5	軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assimineae" japonica</i>					○	○			
6	軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>					○				
7	軟体動物門	二枚貝綱	マルスタレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>					○				
8	軟体動物門	二枚貝綱	マルスタレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>					○				
9	軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>			1		○				
10	環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>					○				
11	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>					○				
12	環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i>				1					
13	環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>	5								
14	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.	3	3							
15	環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属の一種	<i>Notomastus</i> sp.					○				
16	節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>					○				石の上
17	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	6				○				
18	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	5	13	15		○				
19	節足動物門	軟甲綱	十脚目	クルマエビ科	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>					○				
20	節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>					○				
21	節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコミアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>					○				
22	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>					○				
23	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarna dehaani</i>					○				
24	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>					○				
25	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>					○				
26	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					○	○			
27	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>					○				
28	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>					○				
29	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>					○				
30	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>					○				
31	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>					○				
32	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>					○				
33	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>					○				
34	脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>					○				

東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【藻場】  
2021(令和3)年度

ABS NR		三陸海岸(山田湾)				ライン起点			
調査代表者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)				北緯(WGS84)		39.4765	
調査者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)、青木優和(東北大学)、鈴木はるか(東北大学)、田所悟(自然環境調査会)、北野慎容(三洋テクノマリン(株))				東経(WGS84)		142.0086	
調査日		2021年10月29日				方角(°)		275	
起点からの距離(m)		5	10	15	20	25	30	40	
実測水深(m)		-1	-1.7	-2.3	-2.5	-3.2	-4.2	-4.9	
潮位補正水深(CDL, m)		-2.1	-2.8	-3.4	-3.6	-4.3	-5.3	-6	
時刻		9:50	9:48	9:43	9:40	9:35	9:32	9:30	
出現種									
調査地点	地点番号	1	2	3	4	5	6	7	
	起点からの距離(m)	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~40	
底質※		岩盤	岩盤,巨礫,大礫	巨礫,大礫,中礫	大礫	大礫,小礫	大礫,小礫	小礫	
整理番号	種名	koreki							
1	ヒジキ	○							
2	アミジグサ	○							
3	殻状褐藻	○	○	○					
4	イソキリ		○	○	○	○			
5	無節サンゴモ			○	○				
6	フクリンアミジ	○					○		
7	ヒライボ			○	○	○	○		
8	マクサ	○							
9	アカバ	○							
10	ツノムカデ	○							
11	ヒラムカデ	○							
12	トサカマツ	○							
13	ツノマタ	○							
14	ツノマタ属の一種	○							
15	ベニマダラ	○							
16	珪藻						○	○	
優占種	ヒジキ	殻状褐藻	無節サンゴモ	無節サンゴモ	ヒライボ	ヒライボ	珪藻		
優占種の被度(%)									
備考	ライン上では小型海藻が0-5mで繁茂していたが、それ以遠では主に紅藻サンゴモ類のみが確認された。岬を回った外洋側では、前回(2016年)調査ではマコンブの群落が見られたが、今回は見られなかった。紅藻アカバが優占し、一部でアカモクの幼体が見られた。								

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【藻場】  
2021(令和3)年度

ABSNR	三陸海岸(山田湾)			
調査代表者(所属)	田中次郎(東京海洋大学)			
調査者(所属)	田中次郎(東京海洋大学)、青木優和(東北大学)、鈴木はるか(東北大学)、田所悟(自然環境調査会)、北野慎容(三洋テクノマリン株)			
調査日	2021年10月29日			
方形枠番号(複数ある場合)	方形枠1	方形枠2	方形枠3	方形枠4
北緯(WGS84)	0m付近	9m	22m	27m
東経(WGS84)				
実測水深(m)	-1	-2	-2.7	-3.4
潮位補正水深(CDL, m)	-2	-3	-3.7	-4.4
時刻	9:15	9:19	9:06	0.38125
底質※	岩盤	岩盤	巨礫	巨礫
整理番号	方形枠番号	種名	被度	同定備考
1	1	ヒジキ	0.4	
2	1	ヒトツマツ	0.3	
3	2	無節サンゴモ	0.85	
4	2	イソキリ	(+)	
5	3	無節サンゴモ	1	
6	3	ヒライボ	0.2	
7	4	無節サンゴモ	1	
8	4	ヒライボ	0.8	
9				
10				
11				
12				
13				

備考:被度が5%未満の場合(+)と記録する。

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【藻場】  
2021(令和3)年度

ABONG		女川湾				ライン起点						
調査代表者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)				北緯(WGS84)	38.4375					
調査者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)、青木優和(東北大学)、鈴木はるか(東北大学)、田所悟(自然環境調査会)、北野慎容(三洋テクノマリン(株))				東経(WGS84)	141.4573					
調査日		2021年9月14日				方角(°)	120					
起点からの距離(m)		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
実測水深(m)		-1	-1.5	-2.2	-2.6	-3	-3.6	-4.7	-5.3	-4.8	-6	
潮位補正水深(CDL, m)		-2	-2.5	-3.2	-3.6	-4	-4.6	-6	-6	-6	-7	
時刻		10:40	10:42	10:44	10:46	10:48	10:51	10:55	10:59	11:02	11:05	
出現種												
調査地点	地点番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	起点からの距離(m)	<10	10~20	20~30	30~40	40~50	50~60	60~70	70~80	80~90	90~100	
底質※		岩盤,大礫,小礫	大礫,小礫	巨礫,大礫	巨礫,小礫	岩盤,大礫,小礫	岩塊,大礫,小礫	岩塊,巨礫	岩塊,巨礫	岩塊,巨礫	岩盤	
整理番号	種名	koreki										
1	アカモク(芽生え)		○	○	○	○						
2	フクリンアミジ			○	○	○	○	○	○	○	○	
3	フダラク	○	○	○								
4	ツルツル	○	○	○	○							
5	ヒラムカデ	○	○	○	○							
6	フシツナギ	○	○	○	○	○						
7	マルバツノマタ	○	○	○	○	○						
8	ハリガネ	○	○	○	○	○	○					
9	ユカリ	○	○									
10	ヒライボ				○	○	○	○	○	○	○	
11	エゾミル			○								
12	アカバ	○	○									
13	アミジグサ	○	○	○								
14	アナアオサ	○	○									
15	カイノリ	○	○									
16	オキツノリ		○									
17	ソゾ属の一種	○	○	○	○	○						
18	ユナ		○									
19	イソガワラ科の一種	○	○	○								
20	マクサ				○	○						
21	ベニマダラ属の一種					○	○	○	○	○	○	
22	無節サンゴモ					○	○	○	○	○	○	
23	イトグサ属の一種			○								
優占種		アカバ	マルバツノマタ	アミジグサ	フクリンアミジ	フクリンアミジ	フクリンアミジ	フクリンアミジ	無節サンゴモ	無節サンゴモ	無節サンゴモ	
優占種の被度(%)												
備考	8月は調査が実施できなかったため9月に調査。2017年と同じ時期の調査であり、ほぼ同様の植生であったが、オオバモクの幼体が見られなかった。ワカメの付着部も流失したようだ。ライン距離60m以遠は海藻が少ない。											

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査【藻場】  
2021(令和3)年度

ABONG		女川湾		
調査代表者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)		
調査者(所属)		田中次郎(東京海洋大学)、青木優和(東北大学)、鈴木はるか(東北大学)、田所悟(自然環境調査有)、北野慎容(三洋テクノマリン株)		
調査日		2021年9月14日		
方形枠番号(複数ある場合)		方形枠1	方形枠2	方形枠3
北緯(WGS84)		26m	36m	41m
東経(WGS84)				
実測水深(m)		-1	-2.2	-2
潮位補正水深(GDL, m)		-2	-3.2	-3
時刻		11:21	11:11	11:08
底質※		巨礫	巨礫	巨礫
整理番号	方形枠番号	種名	被度	同定備考
1	1	マルバツノマタ	50	
2	2	アカモク(芽生え)	15	
3	2	マルバツノマタ	5	
4	2	アミジグサ	5	
5	3	フシツナギ	5	
6	3	アミジグサ	10	
7	4	フクリンアミジ	40	
8				
9				
10				
11				
12				
13				

備考:被度が5%未満の場合(+)と記録する。

※岩盤:露出した地殻の一部、岩塊:等身大以上の大きな石、巨礫:人頭大~等身大、大礫:拳大~人頭大、小礫:米粒大~拳大、砂:肉眼で認識可能な粒子~米粒大、泥:肉眼では粒子が認識不可能な状態

## 参考資料 3

干潟調査（参考情報）





## 第7回基礎調査（干潟調査）及び生態系監視調査の出現種の整理について

第7回基礎調査（干潟調査）及び生態系監視調査で得られた結果について、比較やとりまとめをやすくするために、干潟の出現種について専門家の意見を踏まえて以下のような整理を行った。

具体的にはサイト間で同定精度が異なるものは高次分類群に整理（統一）、第7回基礎調査（干潟調査）で確認された種の学名等について変更がないか確認・整理、また、学名等は最新知見にもとづいて整理するなどした。

以下に、第7回基礎調査（干潟調査）及び平成24年度から令和3年度の生態系監視調査の干潟調査に出現した種をどのように整理したかを示した整理結果表と、その整理結果を反映して作成した出現種リストを掲載した。

なお、整理前の調査結果は公開されている各年度の生態系監視調査の干潟調査のデータシート（令和3年度の調査結果は参考資料2）を参照ください。



干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria panicea</i>
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミノイソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>	Halichondria 属の1種	<i>Halichondria</i> sp.
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ダイダイイソカイメン	<i>Hymeniacion sinapium</i>	ダイダイイソカイメン	<i>Hymeniacion sinapium</i>
海綿動物門	尋常海綿綱	-	-	尋常海綿綱	Demospongiae	尋常海綿綱の1種	Demospongiae sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	ウメボシイソギンチャク	<i>Actinia cf. equina</i>	ウメボシイソギンチャク	<i>Actinia cf. equina</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	ヒメイソギンチャク	<i>Anthopleura asiatica</i>	ヒメイソギンチャク	<i>Anthopleura asiatica</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	ミドリイソギンチャク	<i>Anthopleura fuscoviridis</i>	ミドリイソギンチャク	<i>Anthopleura fuscoviridis</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	ヨロイソギンチャク	<i>Anthopleura uchidai</i>	ヨロイソギンチャク	<i>Anthopleura uchidai</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura</i> sp.	イシワケイソギンチャク	<i>Gyraetis japonica</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura</i> sp.	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura</i> sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura</i> sp.	イシワケイソギンチャク	<i>Urechis</i> sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	コモチイソギンチャク	<i>Cnidopus japonicus</i>	コモチイソギンチャク	<i>Cnidopus japonicus</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	セイトカイソギンチャク科	Aiptasiogeton 属の一種	<i>Aiptasiogeton</i> sp.	Aiptasiogeton 属の1種	<i>Aiptasiogeton</i> sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	Andvakiidae 科	Halcampactis 近縁属の一種	"Halcampactis" sp.	Halcampactis 近縁属の1種	Gen. near Halcampactis sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>	タテジマイソギンチャク	<i>Haliplanella lineata</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>	Haliplanella 属の1種	<i>Haliplanella</i> sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	ホウザワイソギンチャク	<i>Synandwakia hozawai</i>	ホウザワイソギンチャク	<i>Synandwakia hozawai</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	ホウザワイソギンチャク	<i>Synandwakia hozawai</i>	Synandwakia 属の1種	<i>Synandwakia</i> sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	イソギンチャク目	Actiniaria	イソギンチャク目の1種	Actiniaria sp.
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	イソギンチャク目	Actiniaria	イソギンチャク目	Actiniaria
刺胞動物門	鉢虫綱	旗口クラゲ目	ミズクラゲ科	Aurelia 属の一種	<i>Aurelia</i> sp.	Aurelia 属の1種	<i>Aurelia</i> sp.
扁形動物門	有棒状体綱	三岐腸目	-	三岐腸目	Tricladida	三岐腸目の一種	Tricladida fam. gen. sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	ヤワヒラムシ科	Notoplana 属の一種	<i>Notoplana</i> sp.	Notoplana 属の1種	<i>Notoplana</i> sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	ウスヒラムシ科	ウスヒラムシ	<i>Notoplana humilis</i>	ウスヒラムシ	<i>Notoplana humilis</i>
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	ニセスチロヒラムシ科	ニセスチロヒラムシ科	Pseudostylochidae	ニセスチロヒラムシ科の一種	Pseudostylochidae sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	クリプトセリス科	Cryptocelis 属の一種	<i>Cryptocelis</i> sp.	Cryptocelis 属の1種	<i>Cryptocelis</i> sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	多岐腸目	Polycladida	多岐腸目の1種	Polycladida sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	多岐腸目	Polycladida	多岐腸目の一種	Polycladida fam. gen. sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	多岐腸目	Polycladida	多岐腸目の一種(ヒラムシ類)	Polycladida fam. gen. sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	多岐腸目	Polycladida	多岐腸目の一種(ヒラムシ類)	Polycladida ord. fam. gen. sp.
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	ヒラムシ類	Polycladida	ヒラムシ類	Polycladida
扁形動物門	有棒状体綱	-	-	有棒状体綱	Rhabditophora	渦虫綱の1種	Turbellaria sp.
紐形動物門	古紐虫綱	-	-	古紐虫綱	Palaemonermea	古紐虫目の1種(A)	Palaemonermea sp. A
紐形動物門	古紐虫綱	-	-	古紐虫綱	Palaemonermea	古紐虫目	Palaemonermea
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	オロチヒモムシ	<i>Cerebratulus orochi</i>	オロチヒモムシ	<i>Cerebratulus marginatus</i>
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	Cerebratulus 属の一種	<i>Cerebratulus</i> sp.	Cerebratulus 属と思われる1種(1)	<i>Cerebratulus?</i> sp. 1
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	タカラヒモムシ	<i>Lineus alborostratus</i>	タカラヒモムシ	<i>Lineus alborostratus</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	リネウス科	Lincidae	リネウス科の1種(2)	Lincidae sp. 2
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	リネウス科	Lincidae	リネウス科	Lincidae
紐形動物門	担帽綱	-	-	担帽綱	Piliophora	異紐虫目の1種	Heteronemertea sp.
紐形動物門	担帽綱	-	-	担帽綱	Piliophora	異紐虫目	Heteronemertea
紐形動物門	針紐虫綱	-	アンフィポールス科	ヤジロベヒモムシ	<i>Amphiporus</i> aff. <i>cervicalis</i>	ヤジロベヒモムシ	<i>Amphiporus cervicalis</i>
紐形動物門	針紐虫綱	-	マダラヒモムシ科	オグマヒモムシ	<i>Nipponnemertes ogumai</i>	オグマヒモムシ	<i>Nipponnemertes ogumai</i>
紐形動物門	針紐虫綱	-	ホソミドリヒモムシ科	ホソミドリヒモムシ	<i>Emplectonema gracile</i>	ホソミドリヒモムシ	<i>Emplectonema gracile</i>
紐形動物門	針紐虫綱	-	メノコヒモムシ科	メノコヒモムシ属の一種	<i>Quasitetrastemma</i> sp.	メノコヒモムシ属の一種	<i>Quasitetrastemma</i> sp.
紐形動物門	針紐虫綱	-	メノコヒモムシ科	メノコヒモムシ科	Tetrastemmatidae	メノコヒモムシ科と思われる1種(A)	Tetrastemmatidae? sp. A
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門	Nemertea sp.
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門	Nemertea
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門	Nemertea
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐型動物門	Nemertea
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門の一種	Nemertea cla. ord. fam. gen. sp.
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門の一種1	Nemertea cla. ord. fam. gen. sp. 1
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門の一種2	Nemertea cla. ord. fam. gen. sp. 2
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	紐形動物門の一種3	Nemertea cla. ord. fam. gen. sp. 3
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	ヒモムシ類	Nemertinea
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の1種	Anopla sp.
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の1種A	Anopla sp. A
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の1種B	Anopla sp. B
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の一種(白)	Anopla ord. fam. gen. sp.
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の一種(ヒモムシ類)	Anopla ord. fam. gen. sp.
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	無針綱の一種(ヒモムシ類)A	Anopla ord. fam. gen. sp. A
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	有針綱の一種(ヒモムシ類)B	Enopla ord. fam. gen. sp. B
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	Nemertea	有針綱の一種(ヒモムシ類)	Enopla ord. fam. gen. sp.
毛顎動物門	現生矢虫綱	膜筋目	イソヤムシ科	イソヤムシ科	Spadellidae	イソヤムシ科の1種	Spadellidae sp.
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	クサズリガイ科	<i>Acanthopleura</i> 属の一種	<i>Acanthopleura</i> sp.	<i>Acanthopleura</i> 属の1種	<i>Acanthopleura</i> sp.
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	クサズリガイ科	ヒザラガイ	<i>Liolophura japonica</i>	ヒザラガイ	<i>Acanthopleura japonica</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton (Haploplax) comptus</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>	ウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton comptus</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ホソウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton boninensis</i>	ホソウスヒザラガイ	<i>Ischnochiton (Ischnochiton) boninensis</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ハコダテヒザラガイ	<i>Ischnochiton hakodadensis</i>	ハコダテヒザラガイ?	<i>Ischnochiton (Ischnochiton) hakodadensis</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	<i>Ischnochiton</i> 属の一種	<i>Ischnochiton</i> sp.	<i>Ischnochiton</i> 属の一種	<i>Ischnochiton</i> sp.
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>	<i>Lepidozona</i> 属の1種	<i>Lepidozona</i> sp.
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	コケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>	コケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineatus</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	<i>Acanthochitona</i> 属の一種	<i>Acanthochitona</i> sp.	<i>Acanthochitona</i> 属の一種	<i>Acanthochitona</i> sp.
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ベッコウガサ	<i>Cellana grata</i>	ベッコウガサ	<i>Cellana grata</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)			
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	カモガイ	<i>Lottia dorsuosa</i>	カモガイ	<i>Lottia dorsuosa</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ミゾレコガモガイ	<i>Lottia goshimai</i>	ミゾレコガモガイ	<i>Lottia goshimai</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コガモガイ	<i>Lottia kogamogai</i>	コガモガイ	<i>Lottia kogamogai</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisculpta</i>	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisculpta</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisculpta</i>	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisculpta</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ユキノカサガイ	<i>Niveotectura pallida</i>	ユキノカサガイ	<i>Niveotectura pallida</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ユキノカサガイ	<i>Niveotectura pallida</i>	ユキノカサガイ	<i>Patelloida pallida</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クサイロアオガイ	<i>Nipponacmea fuscoviridis</i>	クサイロアオガイ	<i>Nipponacmea fuscoviridis</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	カスミアオガイ	<i>Nipponacmea habei</i>	カスミアオガイ	<i>Nipponacmea habei</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>	ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>	ツボミガイ	<i>Patelloida conulus</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ヒメコザラ	<i>Patelloida heroldi</i>	ヒメコザラ	<i>Patelloida heroldi</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コガモガイ科	Lottiidae	コガモガイ科の1種	Lottiidae sp.	
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コガモガイ科	Lottiidae	コガモガイ科	Lottiidae	
軟体動物門	腹足綱	スカシガイ目	スカシガイ科	シロスソカケガイ	<i>Tugali decussata</i>	シロスソカケガイ	<i>Tugali decussata</i>	
軟体動物門	腹足綱	スカシガイ目	スカシガイ科	サルアワビ	<i>Tugalina gigas</i>	サルアワビ	<i>Tugalina (Scelidotoma) gigas</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	ミドリチグサ	<i>Cantharidus japonicus hiliaris</i>	ミドリチグサ	<i>Cantharidus japonicus hiliaris</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	エゾチグサ	<i>Cantharidus jessoensis</i>	エゾチグサ	<i>Cantharidus jessoensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	インダタミ	<i>Monodonta confusa</i>	インダタミ	<i>Monodonta labio</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	インダタミ	<i>Monodonta confusa</i>	インダタミ	<i>Monodonta confusa</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	クロツケガイ	<i>Monodonta neritoides</i>	クロツケガイ	<i>Monodonta neritoides</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	イボキサゴ	<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	エビスガイ科	エビスガイ属の一種	<i>Calliostoma sp.</i>	エビスガイ属の一種	<i>Calliostoma sp.</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	クボガイ科	バテイラ	<i>Tegula pfeifferi pfeifferi</i>	バテイラ	<i>Tegula pfeifferi</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	クボガイ科	コンダカガンガラ	<i>Tegula rustica</i>	コンダカガンガラ	<i>Omphalium rusticus</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella coreensis</i>	スガイ	<i>Lunella coreensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella coreensis</i>	スガイ	<i>Turbo (Lunella) coronatus coreensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>	
軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>	イシマキ	<i>Clithon (Clithon) retropictus</i>	
軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>	イシマキガイ	<i>Clithon retropictus</i>	
軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	アマオブネ	<i>Nerita albicilla</i>	アマオブネ	<i>Nerita albicilla</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナナ	<i>Batillaria atramentaria</i>	ホソウミナナ	<i>Batillaria cumingi</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ホソウミナナ	<i>Batillaria atramentaria</i>	ホソウミナナ	<i>Batillaria atramentaria</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>	ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナナ科	イボウミナナ	<i>Batillaria zonalis</i>	イボウミナナ	<i>Batillaria zonalis</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミナナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>	フトヘナタリ	<i>Cerithidea (Cerithidea) rhizophorum</i>	

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)			
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
軟体動物門	腹足綱	オニソノガイ目	キバウミナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニソノガイ目	キバウミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	カワアイ	<i>Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニソノガイ目	キバウミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	カワアイ	<i>Cerithideopsis djadjariensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	オニソノガイ目	キバウミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ムカデガイ科	オオヘビガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>	オオヘビガイ	<i>Serpulorbis imbricatus</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>	アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>	アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	ヘソカドタマキビ	<i>Lacuna smithii</i>	ヘソカドタマキビ	<i>Lacuna smithii</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>	タマキビ	<i>Littorina (Littorina) brevicula</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	アツタマキビ	<i>Littorina mandshurica</i>	アツタマキビ	<i>Littorina (Littorina) mandshurica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	エゾタマキビ	<i>Littorina squalida</i>	エゾタマキビ	<i>Littorina (Littorina) squalida</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	クロタマキビ	<i>Littorina sitkana</i>	クロタマキビ	<i>Littorina (Neritrema) sitkana</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	コビトウラウス	<i>Peasiella habei</i>	コビトウラウス?	<i>Peasiella habei</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	チャツボ科	Barleeia 属の一種	<i>Barleeia</i> sp.	Barleeia 属の1種	<i>Barleeia</i> sp.	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	クビキレガイ科	ヤマトクビキレ	<i>Turuncatella pheifferi</i>	ヤマトクビキレガイ	<i>Truncatella pheifferi</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>	クイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>satumana</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> sp.	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>Satumana</i>	キントンイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> aff. <i>satumana</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	" <i>Angustassiminea</i> " <i>yoshidayukioi</i>	ヨシダカワザンショウ	<i>Assiminea yoshidayukioi</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	" <i>Angustassiminea</i> " <i>yoshidayukioi</i>	ヨシダカワザンショウ	" <i>Angustassiminea</i> " <i>yoshidayukioi</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	" <i>Angustassiminea</i> " <i>yoshidayukioi</i>	ヨシダカワザンショウ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>	ムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea parasitologica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>estuarina</i>	ツブカワザンショウ	<i>Assiminea estuarina</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>estuarina</i>	ツブカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>estuarina</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>hiradoensis</i>	ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>hiradoensis</i>	ヒラドカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>hiradoensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " <i>hiradoensis</i>	?ヒラドカワザンショウ	? <i>Assiminea</i> <i>hiradoensis</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " <i>japonica</i>	オチカワザンショウ	<i>Assiminea</i> sp.	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " <i>japonica</i>	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " <i>japonica</i>	カワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " <i>japonica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " <i>japonica</i>	" <i>Assiminea</i> " 属の一種	" <i>Assiminea</i> " sp.	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	テシオカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " aff. <i>japonica</i>	テシオカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " aff. <i>japonica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	テシオカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " aff. <i>japonica</i>	テシオカワザンショウガイ	" <i>Assiminea</i> " aff. <i>japonica</i>	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マンゴクウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. B	<i>Assiminea</i> 属の1種 (A)	<i>Assiminea</i> sp. A	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. G	マツシマカワザンショウ	<i>Assiminea</i> sp. G	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. G	マツシマカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. C	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. H	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. D	
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. H	マツカワウラカワザンショウ	" <i>Assiminea</i> " sp. H	

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカウラカワザンショウ	"Assiminea" sp. H	マツカウラカワザンショウ	Assiminea sp. H
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカウラカワザンショウ	"Assiminea" sp. H	マツカウラカワザンショウ	"Assiminea" sp. H
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	"Assiminea" 属の一種	"Assiminea" sp.	Assiminea 属の1種 (B)	Assiminea sp. B
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	オオウスイロヘソカド	Paludinellassiminea tanegashimae	オオウスイロヘソカドガイ	Paludinellassiminea tanegashimae
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ワカウラツボ科	サザナミツボ	"Nozeba" ziczac	サザナミツボ	Elachisina ziczac
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ワカウラツボ科	サザナミツボ	"Nozeba" ziczac	サザナミツボ	Nozeba ziczac
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ワカウラツボ科	カワグチツボ	Fluviocingula elegantula	カワグチツボ	Iradia (Fluviocingula) elegantula
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	イツマデガイ科	クビケレガイモドキ	Cecina manchurica	クビケレガイモドキ	Cecina manchurica
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ミズゴマツボ科	Stenothyra 属の一種	Stenothyra sp.	Stenothyra 属の1種	Stenothyra sp.
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	タマツメタ	Euspira pila	タマツメタ	Lunatia pila
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	Laguncula pulchella	サキグロタマツメタ	Euspira fortunei
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	Laguncula pulchella	サキグロタマツメタ	Laguncula pulchella
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	ツメタガイ	Neverita didyma	ツメタガイ	Glossaulax didyma
軟体動物門	腹足綱	カリバガサ目	カリバガサ科	シマメノウフネガイ	Crepidula onyx	シマメノウフネガイ	Crepidula onyx
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	クロスジムシロ	Nassarius fraterculus	クロスジムシロ	Nassarius (Hima) fraterculus
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ウネムシロ	Nassarius hiradoensis	ウネムシロ	Nassarius (Hima) hiradoensis
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アオモリムシロ	Nassarius hypolius	アオモリムシロ	Nassarius (Hima) hypolius
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ヒメムシロ	Nassarius multigranulosus	ヒメムシロ?	Nassarius (Hima) multigranulosus
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ムシロガイ	Nassarius livescens	ムシロガイ	Nassarius livescens
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ムシロガイ	Nassarius livescens	ムシロガイ	Nassarius (Niota) livescens
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	ムシロガイ	Nassarius livescens	ムシロガイ	Niotta livescens
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	Reticunassa festiva	アラムシロ	Reticunassa festiva
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	Reticunassa festiva	アラムシロ	Nassarius (Hima) festivus
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	Reticunassa festiva	アラムシロ	Hima festiva
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨフバイ科	アラムシロ	Reticunassa festiva	アラムシロ	Hima festivus
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	チヂミボラ	Nucella freycinetii	チヂミボラ	Nucella lima
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	オウウヨウラク	Ocenebrellus inornatus	オウウヨウラク	Ocenebra inornata
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	レイシ	Reishia bronni	レイシ	Reishia bronni
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	レイシ	Reishia bronni	レイシ	Thais (Reishia) bronni
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	イボニシ	Reishia clavigera	イボニシ	Thais clavigera
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	イボニシ	Reishia clavigera	イボニシ	Reishia clavigera
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	イボニシ	Reishia clavigera	イボニシ	Thais (Reishia) clavigera
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	ツノオリレ	Boreotrophon candelabrum	ツノオリレガイ	Boreotrophon candelabrum
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	Boreotrophon属の一種	Boreotrophon sp.	Boreotrophon属の一種	Boreotrophon sp.
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	マクラガイ科	Olivella 属	Olivella sp.	ホタルガイ属の一種	Olivella sp.
軟体動物門	腹足綱	裸鰓目	クロシタナシウミウシ科	クロシタナシウミウシ	Dendrodoris arborescens	クロシタナシウミウシ	Dendrodoris arborescens
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	オオコメツブガイ科	ヨワコメツブ	Acteocina exilis	ヨワコメツブ	Acteocina exilis
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	ブドウガイ科	カミスジカイコガイダマシ	Cylichnatis yamakawai	カミスジカイコガイダマシ	Cylichnatis angustus
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	ブドウガイ科	ブドウガイ	Haloa japonica	ブドウガイ	Haloa japonica
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	ブドウガイ科	ブドウガイ	Haloa japonica	ブドウガイ科の1種	Haminocidae gen. sp.
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	キセワタ科	キセワタ	Philine orientalis	キセワタ	Philine argentata

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	カノコキセワタ科	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys</i> sp.
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	カノコキセワタ科	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>	コメツブガイ	<i>Retusa (Decorifer) insignis</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	マツシマコメツブ	<i>Decorifer matusimanus</i>	マツシマコメツブガイ	<i>Decorifer matusimanus</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	マツシマコメツブ	<i>Decorifer matusimanus</i>	マツシマコメツブ	<i>Retusa (Decorifer) matusimana</i>
軟体動物門	腹足綱	アメフラシ目	アメフラシ科	アメフラシ	<i>Aplysia kurodai</i>	アメフラシ	<i>Aplysia (Varria) kurodai</i>
軟体動物門	腹足綱	トウガタガイ目	トウガタガイ科	カキウラクチキレモドキ	<i>Brachystomia bipyrnidata</i>	カキウラクチキレモドキ	<i>Brachystomia bipyrnidata</i>
軟体動物門	腹足綱	トウガタガイ目	トウガタガイ科	シゲヤスイトカケギリ	<i>Pyrgulina shigeyasui</i>	シゲヤスイトカケギリ	<i>Dunkeria shigeyasui</i>
軟体動物門	腹足綱	トウガタガイ目	トウガタガイ科	ヌカルミクチキレ	" <i>Sayella</i> " sp.	ヌカルミクチキレ	" <i>Sayella</i> " sp.
軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマツ目	コウダカカラマツ科	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>	カラマツガイ	<i>Siphonaria (Sacculosiphonaria) japonica</i>
軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマツ目	コウダカカラマツ科	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>
軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマツ目	コウダカカラマツ科	キクノハナ	<i>Siphonaria sirius</i>	キクノハナ	<i>Siphonaria sirius</i>
軟体動物門	腹足綱	義舌目	チドリミドリガイ科	ハマタニミドリガイ	<i>Elysia hamatani</i>	ハマタニミドリガイ	<i>Elysia hamatani</i>
軟体動物門	腹足綱	モノアラガイ目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	<i>Orientogalba ollula</i>	ヒメモノアラガイ	<i>Lymnaea (Galba) ollula</i>
軟体動物門	腹足綱	オカミミガイ目	オカミミガイ科	ウスコミミガイ	<i>Laemodonta exaratooides</i>	ウスコミミガイ	<i>Laemodonta exaratooides</i>
軟体動物門	腹足綱	オカミミガイ目	オカミミガイ科	ナギサノシタタリ	<i>Microtralia acteocinoides</i>	ナギサノシタタリ	<i>Microtralia acteocinoides</i>
軟体動物門	二枚貝綱	キヌタレガイ目	キヌタレガイ科	アサヒキヌタレ	<i>Solemya japonica</i>	アサヒキヌタレガイ	<i>Acharax japonica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	イガイ	<i>Mytilus unguiculatus</i>	イガイ	<i>Mytilus coruscus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ホトトギス	<i>Musculista senhousia</i>	ホトトギス	<i>Arcuatula senhousia</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログテ	<i>Xenostrobus atratus</i>	クログテ	<i>Xenostrobus atratus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリ	<i>Xenostrobus securis</i>	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ヒメイガイ	<i>Mytilisepta keenae</i>	ヒメイガイ	<i>Septifer keenae</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキインコ	<i>Mytilisepta virgata</i>	ムラサキインコ	<i>Septifer virgatus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	エゾヒバリ	<i>Modiolus kurilensis</i>	エゾヒバリガイ	<i>Modiolus kurilensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ヒバリガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>	ヒバリガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	サルボオ	<i>Anadara kagoshimensis</i>	サルボウ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	フネガイ目	フネガイ科	フネガイ	<i>Lamarka avellana</i>	フネガイ	<i>Arca avellana</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イタヤガイ目	イタヤガイ科	アズマニシキ	<i>Azumapecten farreri nipponensis</i>	アズマニシキ	<i>Chlamys farreri nipponensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ	<i>Magallana gigas</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	イワガキ	<i>Crassostrea nippona</i>	イワガキ	<i>Crassostrea nippona</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>	ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	ソトオリガイ	<i>Laternula (Exolaternula) marilina</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ツキガイ目	ツキガイ科	ツキガイモドキ	<i>Lucinoma annulata</i>	ツキガイモドキ	<i>Lucinoma annulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ツキガイ目	ツキガイ科	ウメノハナガイ	<i>Pillucina pisidium</i>	ウメノハナガイ	<i>Pillucina pisidium</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ツキガイ目	ツキガイ科	ツキガイ科	Lucinidae	ツキガイ科の1種	Lucinidae gen. sp.
軟体動物門	二枚貝綱	マテガイ目	マテガイ科	エゾマテガイ	<i>Solen krusensterni</i>	エゾマテガイ	<i>Solen krusensterni</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マテガイ目	マテガイ科	エゾマテガイ	<i>Solen krusensterni</i>	?エゾマテガイ	<i>Solen ? krusensterni</i>



干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
軟体動物門	二枚貝綱	マテガイ目	マテガイ科	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	マテガイ	<i>Solen strictus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マテガイ目	キヌマトイガイ科	ナミガイ	<i>Panopea japonica</i>	ナミガイ	<i>Panopea japonica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ウロコガイ目	チリハギ科	スジホシシモドキヤドリガイ	<i>Nipponomysella subtruncata</i>	スジホシシモドキヤドリガイ	<i>Nipponomysella subtruncata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ウロコガイ目	チリハギ科	ガタヅキ	<i>Arthritica cf. reikoeae</i>	ガタヅキ	<i>Arthritica reikoeae</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ウロコガイ目	チリハギ科	ガタヅキ	<i>Arthritica cf. reikoeae</i>	ガタヅキ	<i>Arthritica cf. reikoeae</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ザルガイ目	ザルガイ科	トリガイ	<i>Fulvia mutica</i>	トリガイ	<i>Fulvia mutica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ザルガイ目	ザルガイ科	エゾイシカゲガイ	<i>Keenocardium californiense</i>	エゾイシカゲガイ	<i>Clinocardium californiense</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	マルクサビザラ	<i>Cadella narutoensis</i>	マルクサビザラ	<i>Cadella narutoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>	ユウシオガイ	<i>Moerella rutila</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>	ユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	サビシラトリ	<i>Macoma contabulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	サビシラトリガイ	<i>Macoma (Macoma) contabulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	タカホコシラトリ	<i>Limecola takahokoensis</i>	タカホコシラトリ	<i>Macoma (Macoma) takahokoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	タカホコシラトリ	<i>Limecola takahokoensis</i>	タカホコシラトリ	<i>Macoma takahokoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>	ヒメシラトリ	<i>Macoma (Macoma) incongrua</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ゴイサギ	<i>Macoma tokyoensis</i>	ゴイサギ	<i>Macoma (Macoma) tokyoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	モモノハナ	<i>Moerella hilaris</i>	モモノハナ	<i>Moerella jedoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>	サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ハツザクラ	<i>Nitidotellina pallidula</i>	ハツザクラ	<i>Nitidotellina pallidula</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	オオモモノハナ	<i>Praetextellina praetexta</i>	オオモモノハナ	<i>Macoma (Macoma) praetexta</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Donax semigranosus</i>	フジノハナガイ	<i>Donax semigranosus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Donax semigranosus</i>	フジノハナガイ	<i>Chion semigranosa</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	ハザクラ	<i>Gari crassula</i>	ハザクラ	<i>Gari (Psammatena) minor</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	フジナミガイ	<i>Hiatula boeddinghausi</i>	フジナミガイ	<i>Soletellina boeddinghausi</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナミ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサジガイ科	シズクガイ	<i>Theora lubrica</i>	シズクガイ	<i>Theora fragilis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサジガイ科	シズクガイ	<i>Theora lubrica</i>	シズクガイ	<i>Theora lata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサジガイ科?	アサジガイ科?の一種	Semelidae? gen. sp.	アサジガイ科?の一種	Semelidae? gen. sp.
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	ハカガイ科	ウハガイ	<i>Spisula sachalinensis</i>	ウハガイ	<i>Pseudocardium sachalinense</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チトセノハナガイ科	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チドリマスオ科	クチバガイ	<i>Coeccella chinensis</i>	クチバガイ	<i>Coeccella chinensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナントマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>	ウネナントマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナントマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>	ウネナントマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina aff. Sinensis</i>	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	カガミガイ	<i>Dosinia japonica</i>	カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	カガミガイ	<i>Dosinia japonica</i>	カガミガイ	<i>Dosinia (Phacosoma) japonicum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	コタマガイ	<i>Macridiscus aequilatera</i>	コタマガイ	<i>Gomphina melanegis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	コタマガイ	<i>Macridiscus aequilatera</i>	コタマガイ	<i>Macridiscus melanaegis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキアサリ	<i>Macridiscus multifarius</i>	オキアサリ	<i>Gomphina semicancellata</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)			
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ヌノメアサリ	<i>Leukoma euglypta</i>	ヌノメアサリ	<i>Protothaca euglypta</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オニアサリ	<i>Leukoma jadoensis</i>	オニアサリ	<i>Protothaca jadoensis</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オニアサリ	<i>Leukoma jadoensis</i>	オニアサリ	<i>Leukoma jadoensis</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	マツカゼ	<i>Irus mitis</i>	マツカゼ	<i>Irus mitis</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	Corbicula 属の1種	<i>Corbicula</i> sp.	
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ウスシジミ	<i>Corbicula papyracea</i>	ウスシジミ	<i>Corbicula papyracea</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	ニオガイ科	ニオガイ	<i>Barnea fragilis</i>	ニオガイ	<i>Barnea (Anchomasa) manitensis</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya japonica</i>	オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i>	
軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya japonica</i>	オオノガイ	<i>Mya japonica</i>	
軟体動物門	頭足綱	ヒメイカ目	ヒメイカ科	ヒメイカ	<i>Idiosepius paradoxus</i>	ヒメイカ	<i>Idiosepius paradoxus</i>	
環形動物門	-	-	モロテゴカイ科	モロテゴカイ科	Magelonidae	モロテゴカイ科?一種	<i>Magelona</i> sp.	
環形動物門	-	-	ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>	Chaetopterus 属の1種	<i>Chaetopterus</i> sp.	
環形動物門	-	-	ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>	
環形動物門	-	-	スジホシムシ科	スジホシムシ	<i>Sipunculus nudus</i>	スジホシムシ	<i>Sipunculus nudus</i>	
環形動物門	-	-	スジホシムシモドキ科	スジホシムシモドキ	<i>Siphonosoma cumanense</i>	スジホシムシモドキ	<i>Siphonosoma cumanense</i>	
環形動物門	-	-	-	ホシムシ類	Sipuncula	ホシムシ類	Sipuncula	
環形動物門	-	-	ウミケムシ科	ウミケムシ科	Amphinomidae	ウミケムシ科の一種	Amphinomidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe cf. imbricata</i>	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe imbricata</i>	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe cf. imbricata</i>	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe cf. imbricata</i>	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	Harmothoe 属	<i>Harmothoe</i> sp.	Harmothoe 属の一種	<i>Harmothoe</i> sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	Harmothoe 属	<i>Harmothoe</i> sp.	Harmothoe 属の1種	<i>Harmothoe</i> sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus cf. elongatus</i>	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	Lepidonotus 属の一種	<i>Lepidonotus</i> sp.	Lepidonotus 属の一種	<i>Lepidonotus</i> sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	サンハチウロコムシ	<i>Hermilepidonotus helotypus</i>	サンハチウロコムシ	<i>Hermilepidonotus helotypus</i>	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	フサツキウロコムシ亜科	Lepidonotinae	フサツキウロコムシ亜科の1種	Lepidonotinae sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidae	ウロコムシ科の1種	Polynoidae sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidae	ウロコムシ科の一種	Polynoidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidae	ウロコムシ科	Polynoidae	
環形動物門	-	-	シリス科	Syllis 属の一種	<i>Syllis</i> sp.	Typosyllis 属の1種	<i>Typosyllis</i> sp.	
環形動物門	-	-	シリス科	Syllinae 亜科	Syllinae	Syllinae 亜科	Syllinae	
環形動物門	-	-	シリス科	シリス科の一種	Syllidae gen. sp.	シリス科の一種	Syllidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ハヤテシロガネゴカイ	<i>Nephtys caeca</i>	ハヤテシロガネゴカイ	<i>Nephtys caeca</i>	
環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	コクチョウシロガネゴカイ	<i>Nephtys californiensis</i>	コクチョウシロガネゴカイ	<i>Nephtys californiensis</i>	
環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	
環形動物門	-	-	シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	Nephtys 属の1種	<i>Nephtys</i> sp.	

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
環形動物門	-	-	カギゴカイ科	ハナオカカギゴカイ	<i>Sigambra hanaokai</i>	ハナオカカギゴカイ	<i>Sigambra hanaokai</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>	オイワケゴカイ	<i>Lycaptosis augeneri</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>	オイワケゴカイ	<i>Namanereis cf. littoralis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis species group</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>	イトメ	<i>Tylorrhynchus heterochaetus</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraensis</i>	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraensis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraensis</i>	コケゴカイ	<i>Ceratonereis erythraensis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraensis</i>	コケゴカイ	<i>Ceratonereis (Simplisetia) erythraensis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ツルヒゲゴカイ	<i>Platynereis bicanaliculata</i>	ツルヒゲゴカイ	<i>Platynereis bicanaliculata</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	Platynereis 属の一種	<i>Platynereis sp.</i>	Platynereis 属の一種	<i>Platynereis sp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta or wilsoni</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	イシイソゴカイ?	<i>Perinereis nuntia vallata</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	イシイソゴカイ?	<i>Perinereis nuntia vallata?</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	イシイソゴカイ	<i>Perinereis vallata</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	イシイソゴカイ	<i>Perinereis wilsoni</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	スナイソゴカイ	<i>Perinereis nuntia brevicirris</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta and/or wilsoni</i>	スナイソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste spp. (Hediste atoka or H. diadroma)</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste spp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma and/or atoka</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイの1種	<i>Hediste sp. (Hediste atoka or H. diadroma)</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka and/or diadroma</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイもしくはヒメヤマトカワゴカイの一種	<i>Hediste cf. atoka or diadroma</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	ヒメヤマトカワゴカイ	<i>Hediste atoka</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	Hediste 属の一種	<i>Hediste sp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste spp.</i>	カワゴカイ属の一種または複数種	<i>Hediste spp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ジャムシ	<i>Alitta brandii</i>	ジャムシ	<i>Alitta dyamusi</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ジャムシ	<i>Alitta brandii</i>	ジャムシ	<i>Neanthes vivens</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヒメゴカイ	<i>Neanthes acuminata complex</i>	ヒメゴカイ?	<i>Neanthes caudata?</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>	アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	Neanthes 属の一種	<i>Neanthes sp.</i>	Neanthes 属の一種	<i>Neanthes sp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes oxypoda</i>	オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes oxypoda</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes oxypoda</i>	オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes latipoda</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	Nectoneanthes 属の一種	<i>Nectoneanthes sp.</i>	オウギゴカイ?	<i>Nectoneanthes sp.</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヒゲフトゴカイ	<i>Nereis heterocirrata</i>	ヒゲフトゴカイ	<i>Nereis heterocirrata</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	マサゴゴカイ	<i>Nereis multignatha</i>	マサゴゴカイ	<i>Nereis multignatha</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)			
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ヤスリゴカイ	<i>Nereis neoneanthes</i>	ヤスリゴカイ	<i>Nereis neoneanthes</i>	
環形動物門	-	-	ゴカイ科	フツウゴカイ	<i>Nereis pelagica</i>	フツウゴカイ	<i>Nereis pelagica</i>	
環形動物門	-	-	ゴカイ科	エゾゴカイ	<i>Nereis vexillosa</i>	エゾゴカイ	<i>Nereis vexillosa</i>	
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ゴカイ科	Nereididae	ゴカイ科の1種	Nereididae sp.	
環形動物門	-	-	オトヒメゴカイ科	オトヒメゴカイ科	Hesionidae	オトヒメゴカイ科の1種	Hesionidae sp.	
環形動物門	-	-	オトヒメゴカイ科	オトヒメゴカイ科	Hesionidae	オトヒメゴカイ科の1種	Hesionidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	チロリ科	アルバチロリ	<i>Glycera alba</i>	<i>Glycera alba</i>	<i>Glycera alba</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	マイヅルチロリ	<i>Glycera americana</i>	マイヅルチロリ	<i>Glycera americana</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>	ヒガタチロリ	<i>Glycera cf. macintoshi</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	チロリ	<i>Glycera nicobarica</i>	チロリ	<i>Glycera nicobarica</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	タイヘイチロリ	<i>Glycera pacifica</i>	<i>Glycera pacifica</i>	<i>Glycera pacifica</i>	
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.	<i>Glycera</i> 属の1種 (1)	<i>Glycera</i> sp. 1	
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.	<i>Glycera</i> 属の1種 (2)	<i>Glycera</i> sp. 2	
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.	<i>Glycera</i> 属の1種	<i>Glycera</i> sp.	
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.	<i>Glycera</i> 属の1種	<i>Glycera</i> sp.	
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.	チロリ属の1種	<i>Glycera</i> sp.	
環形動物門	-	-	ニカイチロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>	ヤマトキョウスチロリと思われる1種	<i>Goniada japonica</i>	
環形動物門	-	-	ニカイチロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>	
環形動物門	-	-	ニカイチロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>	ニカイチロリ科の1種	Goniadidae sp.	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	ホソミサンバ	<i>Eteone cf. longa</i>	ホソミサンバ	<i>Eteone cf. longa</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	ホソミサンバ	<i>Eteone cf. longa</i>	ホソミサンバ	<i>Eteone longa</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	ホソミサンバ	<i>Eteone cf. longa</i>	ホソミサンバ	<i>Eteone cf. longa</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	サミドリサンバ	<i>Eulalia cf. viridis</i>	サミドリサンバ	<i>Eulalia cf. viridis</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	<i>Eulalia</i> 属の1種	<i>Eulalia</i> sp.	<i>Eulalia</i> 属の1種	<i>Eulalia</i> sp.	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	アケノサンバ	<i>Nereiphylla castanea</i>	アケノサンバ	<i>Genetyllis castanea</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	ライノサンバ	<i>Phyllodoce maculata</i>	ライノサンバ	<i>Phyllodoce maculata</i>	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	<i>Phyllodoce</i> 属の1種	<i>Phyllodoce</i> sp.	<i>Phyllodoce</i> 属の1種	<i>Phyllodoce</i> sp.	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	サンバゴカイ科	Phyllodocidae	サンバゴカイ科の1種	Phyllodocidae sp.	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	サンバゴカイ科	Phyllodocidae	サンバゴカイ科	Phyllodocidae	
環形動物門	-	-	サンバゴカイ科	サンバゴカイ科	Phyllodocidae	サンバゴカイ科の1種	Phyllodocidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>	イワムシ	<i>Marphysa sanguinea</i>	
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>	イワムシ	<i>Marphysa cf. iwamushi</i>	
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>	イワムシ種群の1種	<i>Marphysa victori</i>	
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>	<i>Marphysa</i> 属の1種 (C)	<i>Marphysa</i> sp. C	
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>	<i>Marphysa</i> 属の1種	<i>Marphysa</i> sp.	
環形動物門	-	-	ナナテイソメ科	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>	
環形動物門	-	-	ナナテイソメ科	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>	<i>Diopatra</i> 属の1種	<i>Diopatra</i> sp.	
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	<i>Lumbrineris</i> 属の1種	<i>Lumbrineris</i> sp.	<i>Lumbrineris</i> 属の1種	<i>Lumbrineris</i> sp.	
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	カタマガリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>	カタマガリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>	
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>	

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)						整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>	<i>Scoletoma</i> 属の1種	<i>Scoletoma</i> sp.	
環形動物門	-	-	コイソメ科	ルドルフイソメ	<i>Schistomerings rudolphi</i>	コイソメ科の1種	<i>Dorvilleidae</i> sp.	
環形動物門	-	-	コイソメ科	ルドルフイソメ	<i>Schistomerings rudolphi</i>	ルドルフイソメ	<i>Schistomerings rudolphi</i>	
環形動物門	-	-	ノリコイソメ科	コイソメ科の一種	<i>Dorvilleidae</i> gen. sp.	ノリコイソメ科の一種	<i>Dorvilleidae</i> gen. sp.	
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	ナガホコムシ	<i>Leitoscoloplos</i> cf. <i>pugettensis</i>	ナガホコムシ	<i>Haploscoloplos elongatus</i>	
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	ナガホコムシ	<i>Leitoscoloplos</i> cf. <i>pugettensis</i>	ナガホコムシ	<i>Leitoscoloplos</i> cf. <i>pugettensis</i>	
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	<i>Leitoscoloplos</i> 属の一種	<i>Leitoscoloplos</i> sp.	ナガホコムシ?	<i>Leitoscoloplos</i> sp.	
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	<i>Naineris</i> 属	<i>Naineris</i> sp.	<i>Naineris</i> 属の一種	<i>Naineris</i> sp.	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriiformia tentaculata</i>	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	<i>Cirriiformia</i> 属の1種	<i>Cirriiformia</i> sp.	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriiformia</i> cf. <i>comosa</i>	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	ミズヒキゴカイ科の一種	<i>Cirratulidae</i> gen. sp.	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	ミズヒキゴカイ種群	<i>Cirriiformia</i> spp.	
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	<i>Chaetozone</i> 属	<i>Chaetozone</i> sp.	<i>Chaetozone</i> 属の一種	<i>Chaetozone</i> sp.	
環形動物門	-	-	クシイトゴカイ科	クシイトゴカイ科	Ctenodrilidae	クシイトゴカイ科の1種	Ctenodrilidae sp.	
環形動物門	-	-	ヒメエラゴカイ科	ニホンヒメエラゴカイ	<i>Paradoneis nipponica</i>	ニホンヒメエラゴカイ	<i>Paradoneis nipponica</i>	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	エゾカサネカンザシ	<i>Hydroides ezoensis</i>	エゾカサネカンザシ	<i>Hydroides ezoensis</i>	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	<i>Neodexiospira</i> 属	<i>Neodexiospira</i> spp.	<i>Dexiospira</i> 属の1種	<i>Dexiospira</i> sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	<i>Neodexiospira</i> 属	<i>Neodexiospira</i> spp.	ウズマキゴカイ	<i>Dexiospira foraminosa</i>	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	<i>Neodexiospira</i> 属	<i>Neodexiospira</i> spp.	ウズマキゴカイ属の1種	<i>Janua</i> sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	ウズマキゴカイ亜科の一種	<i>Spirorbinae</i> gen. sp.	ウズマキゴカイ科の一種	<i>Spirorbidae</i> gen. sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科の1種	Serpulidae sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科の1種	<i>Spirobranchus</i> sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科の1種1	<i>Spirobranchus</i> sp. 1	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科の1種2	<i>Spirobranchus</i> sp. 2	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科の一種	Serpulidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	Serpulidae	カンザシゴカイ科	Serpulidae gen. spp.	
環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>	
環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	Sabellinae 亜科	Sabellinae	Sabellinae 亜科の1種	Sabellinae sp.	
環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ケヤリムシ科	Sabellidae	ケヤリムシ科の1種	Sabellidae sp.	
環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ケヤリムシ科	Sabellidae	ケヤリムシ科の一種	Sabellidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	スピオ科	ケンサキシピオ	<i>Aonides</i> aff. <i>oxycephala</i>	ケンサキシピオ	<i>Aonides</i> aff. <i>oxycephala</i>	
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Parapriospio</i> 属の一種	<i>Parapriospio</i> sp.	<i>Parapriospio</i> 属の1種	<i>Parapriospio</i> sp.	
環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Minuspio</i> ) <i>japonica</i>	ヤマトスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Minuspio</i> ) <i>japonica</i>	
環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Minuspio</i> ) <i>japonica</i>	ヤマトスピオ	<i>Prionospio japonica</i>	
環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Minuspio</i> ) <i>japonica</i>	<i>Prionospio</i> 属の1種	<i>Prionospio</i> sp.	
環形動物門	-	-	スピオ科	ミツパネスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Aquilaspio</i> ) <i>krusadensis</i>	ミツパネスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Aquilaspio</i> ) <i>krusadensis</i>	
環形動物門	-	-	スピオ科	ミツパネスピオ	<i>Prionospio</i> ( <i>Aquilaspio</i> ) <i>krusadensis</i>	ミツパネスピオ	<i>Prionospio krusadensis</i>	

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
環形動物門	-	-	スピオ科	イトエラスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) pulchra</i>	イトエラスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) pulchra</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	フタエラスピオ	<i>Prionospio (Aquilaspio) sexoculata</i>	フタエラスピオ	<i>Prionospio (Aquilaspio) sexoculata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	フタエラスピオ	<i>Prionospio (Aquilaspio) sexoculata</i>	フタエラスピオ	<i>Prionospio sexoculata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群	<i>Rhynchospio glutaea</i> complex sp.	ヒゲスピオ	<i>Rhynchospio glutaea</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群	<i>Rhynchospio glutaea</i> complex sp.	ヒゲスピオ種群の一種	<i>Rhynchospio glutaea</i> complex sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群	<i>Rhynchospio glutaea</i> complex sp.	<i>Rhynchospio</i> 属の1種	<i>Rhynchospio</i> sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒラタスピオ	<i>Scolecopsis planata</i>	ヒラタスピオ	<i>Scolecopsis planata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒラタスピオ	<i>Scolecopsis planata</i>	ヒラタスピオ	<i>Scolecopsis (Scolecopsis) planata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Scolecopsis</i> 属	<i>Scolecopsis</i> sp.	<i>Scolecopsis</i> 属	<i>Scolecopsis</i> sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>arndti</i>	マドカスピオ	<i>Spio filicornis</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>arndti</i>	マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>filicornis</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>arndti</i>	?マドカスピオ	<i>Spio</i> aff. <i>filicornis</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ホソエリタテスピオ	<i>Streblospio japonica</i>	ホソエリタテスピオ	<i>Streblospio benedicti japonica</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Polydora</i> 属	<i>Polydora</i> spp.	<i>Polydora</i> 属の1種	<i>Polydora</i> sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Polydora</i> 属	<i>Polydora</i> spp.	<i>Polydora</i> 属の一種1	<i>Polydora</i> sp. 1
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Polydora</i> 属	<i>Polydora</i> spp.	<i>Polydora</i> 属の一種2	<i>Polydora</i> sp. 2
環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニススピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>kempti</i>	ドロオニススピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>kempti</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニススピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>	アミメオニススピオ	<i>Pseudopolydora</i> cf. <i>reticulata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	コオニススピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>	コオニススピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Pseudopolydora</i> 属	<i>Pseudopolydora</i> spp.	<i>Pseudopolydora</i> 属の1種	<i>Pseudopolydora</i> sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Pseudopolydora</i> 属	<i>Pseudopolydora</i> spp.	オニススピオ属の一種	<i>Pseudopolydora</i> sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Pseudopolydora</i> 属	<i>Pseudopolydora</i> spp.	ドロオニススピオ近似種	<i>Pseudopolydora reticulata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Pseudopolydora</i> 属	<i>Pseudopolydora</i> spp.	<i>Pseudopolydora</i> 属の一種	<i>Pseudopolydora</i> sp. B
環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	<i>Carazziella</i> 属の一種	<i>Carazziella</i> sp.	<i>Carazziella</i> 属の一種	<i>Carazziella</i> cf. <i>spongilla</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	スピオ科	Spionidae	スピオ科の1種または複数種	Spionidae sp. or spp.
環形動物門	-	-	スピオ科	スピオ科	Spionidae	スピオ科の複数種	Spionidae spp.
環形動物門	-	-	スピオ科	スピオ科	Spionidae	スピオ科	Spionidae gen. sp. or spp.
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>	ツツオオフエリア	<i>Armandia lanceolata</i>
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>	ツツオオフエリア	<i>Armandia</i> cf. <i>amakusaensis</i>
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	<i>Armandia</i> 属の一種	<i>Armandia</i> sp.	<i>Armandia</i> 属の1種	<i>Armandia</i> sp.
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	<i>Thoracophelia</i> 属	<i>Thoracophelia</i> sp.	<i>Thoracophelia</i> 属の一種	<i>Thoracophelia</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Barantolla</i> 属	<i>Barantolla</i> sp.	<i>Barantolla</i> 属の一種	<i>Barantolla</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.	キャビテラ属	<i>Capitella</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.	<i>Capitella</i> 属の1種	<i>Capitella</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.	<i>Capitella</i> 属の一種	<i>Capitella</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Capitella</i> 属	<i>Capitella</i> sp.	キャビテラ属の一種	<i>Capitella</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の1種	<i>Heteromastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属と思われる1種	<i>Heteromastus?</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の1種1	<i>Heteromastus</i> sp. 1

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)						整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)	
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の1種2	<i>Heteromastus</i> sp. 2
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp. 1
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp. 2
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	ヘテロマス属の一種	<i>Heteromastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Heteromastus</i> 属	<i>Heteromastus</i> spp.	ヘテロマス属	<i>Heteromastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Mediomastus</i> 属	<i>Mediomastus</i> sp.	<i>Mediomastus</i> 属の1種	<i>Mediomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Mediomastus</i> 属	<i>Mediomastus</i> sp.	<i>Mediomastus</i> 属の一種	<i>Mediomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Mediomastus</i> 属	<i>Mediomastus</i> sp.	<i>Mediomastus</i> 属の一種	<i>Mediomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	<i>Notomastus</i> 属の1種	<i>Notomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	<i>Notomastus</i> 属の一種	<i>Notomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	<i>Notomastus</i> 属の1種 (A)	<i>Notomastus</i> sp. A
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	シダレイトゴカイ	<i>Notomastus latericeus</i>
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	ノマス属の一種	<i>Notodasus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	ノマス属(大型)	<i>Notomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	ノマス属	<i>Notomastus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	<i>Notomastus</i> 属	<i>Notomastus</i> spp.	ノマス属	<i>Notodasus</i> sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	イトゴカイ科	Capitellidae	イトゴカイ科の1種	Capitellidae sp.
環形動物門	-	-	キタユムシ科	ドチクチュムシ	<i>Arhynchite arhynchite</i>	ドチクチュムシ	<i>Arhynchite arhynchite</i>
環形動物門	-	-	ユムシ科	ユムシ	<i>Urechis uncinatus</i>	ユムシ?	<i>Urechis uncinatus?</i>
環形動物門	-	-	ユムシ科	ユムシ	<i>Urechis uncinatus</i>	ユムシ	<i>Urechis uncinatus</i>
環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	イソタマシキゴカイ	<i>Abarenicola pacifica</i>	イソタマシキゴカイ	<i>Abarenicola pacifica</i>
環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>
環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	<i>Branchiomaldane</i> 属の一種	<i>Branchiomaldane</i> sp.	<i>Branchiomaldane</i> 属の一種	<i>Branchiomaldane</i> sp.
環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	<i>Praxillella</i> 属	<i>Praxillella</i> sp.	<i>Praxillella</i> 属の一種	<i>Praxillella</i> sp.
環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	Euclymeninae 亜科	Euclymeninae gen. sp.	Euclymeninae 亜科の一種	Euclymeninae gen. sp.
環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	タケフシゴカイ科	Maldanidae	タケフシゴカイ科の一種	Maldanidae gen. sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	<i>Amphitrite oculata</i>	<i>Amphitrite oculata</i>	<i>Amphitrite oculata</i>	<i>Amphitrite oculata</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	チンチロフサゴカイ	<i>Loimia verrucosa</i>	チンチロフサゴカイ	<i>Loimia verrucosa</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	<i>Nicolea</i> 属	<i>Nicolea</i> sp.	<i>Nicolea</i> 属の一種	<i>Nicolea</i> sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ナガエラフサゴカイ	<i>Pista elongata</i>	ナガエラフサゴカイ	<i>Pista elongata</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	<i>Terebella</i> 属の一種	<i>Terebella</i> sp.	<i>Terebella</i> 属の一種	<i>Terebella</i> sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニツボンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>	ヒヤクメニツボンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニツボンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>	<i>Thelepus</i> 属の1種	<i>Thelepus</i> sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	フサゴカイ科の一種	Terebellidae gen. sp.	フサゴカイ科の一種	Terebellidae gen. sp.
環形動物門	-	-	ウミイサゴムシ科	ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>	ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>
環形動物門	-	-	ウミイサゴムシ科	オクダウミイサゴムシ	<i>Pectinaria okudai</i>	オクダウミイサゴムシ	<i>Pectinaria okudai</i>
環形動物門	-	-	カザリゴカイ科	カザリゴカイ科	Ampharetidae	カザリゴカイ科の1種	Ampharetidae sp.
環形動物門	-	-	カザリゴカイ科	カザリゴカイ科	Ampharetidae	カザリゴカイ科の一種	Ampharetidae gen. sp.
環形動物門	-	-	イトミズ科	イトミズ科	Tubificidae	<i>Tubificoides</i> 属の1種	<i>Tubificoides</i> sp.

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)			
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名	
環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ科	Tubificidae	イトミミズ科の1種	Tubificidae sp.	
環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ科	Tubificidae	イトミミズ科の一種	Tubificidae gen. sp.	
環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ亜科	Tubificidae	イトミミズ科	Tubificidae	
環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ亜科	Tubificidae	イトミミズ科	Tubificidae	
環形動物門	-	-	ヒメミミズ科	ヒメミミズ科	Enchytraeidae	ヒメミミズ科の1種	Enchytraeidae sp.	
環形動物門	-	-	フトミミズ科	イソミミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>	イソミミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>	
環形動物門	-	-	-	貧毛類	Oligochaeta	貧毛類	Oligochaeta	
環形動物門	-	-	ウオビル科	ヒダビル	<i>Limnotrachelobdella okae</i>	ヒダビル	<i>Trachelobdella okae</i>	
環形動物門	-	-	ウオビル科	ヒダビル	<i>Limnotrachelobdella okae</i>	ヒダビル	<i>Limnotrachelobdella okae</i>	
環形動物門	-	-	-	多毛類	Polychaeta	多毛綱の1種	Polychaeta sp.	
外肛動物門	狭喉綱	円口目	サンゴコケムシ科	サンゴコケムシ科	Heteroporidae	サンゴコケムシ科	Heteroporidae	
外肛動物門	裸喉綱	楯口目	ヤワコケムシ科	ヤワコケムシ科の一種	Alcynoidiidae sp	ヤワコケムシ科の一種	Alcynoidiidae sp	
外肛動物門	裸喉綱	唇口目	フサコケムシ科	フサコケムシ	<i>Bugula neritina</i>	フサコケムシ	<i>Bugula neritina</i>	
外肛動物門	裸喉綱	唇口目	フサコケムシ科	ナギサコケムシ	<i>Bugulina californica</i>	ナギサコケムシ	<i>Bugula stolonifera</i>	
外肛動物門	裸喉綱	唇口目	オウギコケムシ科	カミオウギコケムシ	<i>Chartella papyracea</i>	カミオウギコケムシ	<i>Chartella papyracea</i>	
外肛動物門	裸喉綱	唇口目	テングコケムシ科	ニホンコケムシ	<i>Petraliella magna</i>	ニホンコケムシ	<i>Hippopetraliella magna</i>	
線形動物門	エノブリア綱	エノブルス目	ソラコストモプス科	ソラコストモプス科	Thoracostomopsidae	Thoracostomopsidae 科の1種	Thoracostomopsidae gen. sp.	
線形動物門	-	-	-	線形動物門	Nematoda	線形動物門	Nematoda	
箒虫動物門	箒虫綱	-	ホウキムシ科	イサゴホウキムシ	<i>Phoronis psammophila</i>	イサゴホウキムシ	<i>Phoronis psammophila</i>	
箒虫動物門	箒虫綱	-	ホウキムシ科	Phoronis 属	Phoronis sp.	Phoronis 属の一種	Phoronis sp.	
節足動物門	蜘蛛綱	カニムシ目	ツチカニムシ科	ツチカニムシ科の一種	Chthoniidae gen. sp.	ツチカニムシ科の一種	Chthoniidae gen. sp.	
節足動物門	蜘蛛綱	カニムシ目	コケカニムシ科	ウミカニムシ	<i>Halobisium orientale japonicum</i>	ウミカニムシ	<i>Halobisium orientale japonicum</i>	
節足動物門	ウミグモ綱	皆脚目	イソウミグモ科	シマウミグモ	<i>Ammothea hilgendorfi</i>	シマウミグモ	<i>Ammothea hilgendorfi</i>	
節足動物門	ウミグモ綱	皆脚目	イソウミグモ科	Ammothea 属の一種	<i>Ammothea sp.</i>	Lecythorhynchus の一種	<i>Lecythorhynchus sp.</i>	
節足動物門	内顎昆虫綱	粘管目	ヒメトビムシ科	Hypogastrura 属の一種	<i>Hypogastrura sp.</i>	Hypogastrura 属の一種	<i>Hypogastrura sp.</i>	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae	ユスリカ科	Chironomidae	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae	ユスリカ科の1種	Chironomidae sp.	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae	ユスリカ科の1種(幼虫)	Chironomidae sp. (larva)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae	ユスリカ科の1種(蛹)	Chironomidae sp. (pupa)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae	ユスリカ科の一種	Chironomidae gen. sp.	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目	Diptera	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種	Diptera sp.	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種(幼虫)	Diptera sp. (larva)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種(蛹)	Diptera sp. (pupa)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種A(幼虫)	Diptera sp. A (larva)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種A(蛹)	Diptera sp. A (pupa)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種B(幼虫)	Diptera sp. B (larva)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の1種B(蛹)	Diptera sp. B (pupa)	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の一種	Diptera fam. gen. sp.	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の一種A	Diptera fam. gen. sp. A	
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の一種C	Diptera fam. gen. sp. C	



干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の一種	Diptera gen. sp.
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera	双翅目の一種(幼虫)	Diptera fam. gen. sp. (larva)
節足動物門	昆虫綱	-	-	昆虫綱幼虫	Larva or Nymph? of Insecta	昆虫綱幼虫	Larva or Nymph? of Insecta
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	ムカシフジツボ科	チシマフジツボ	<i>Semibalanus cariosus</i>	チシマフジツボ	<i>Semibalanus cariosus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	イワフジツボ科	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengeri</i>	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengeri</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	イワフジツボ科	<i>Chthamalus</i> 属の一種	<i>Chthamalus</i> sp.	<i>Chthamalus</i> 属の一種	<i>Chthamalus</i> sp.
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>	ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	サンカクフジツボ	<i>Balanus trigonus</i>	サンカクフジツボ	<i>Balanus trigonus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	<i>Balanus</i> 属の一種	<i>Balanus</i> sp.	<i>Balanus</i> 属の1種	<i>Balanus</i> sp.
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	アカフジツボ	<i>Megabalanus rosa</i>	アカフジツボ	<i>Megabalanus rosa</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>	ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	フジツボ科	Balanidae	フジツボ科の1種	Balanidae sp.
節足動物門	軟甲綱	薄甲目	コノハエビ科	コノハエビ	<i>Nebalia cf. japonensis</i>	コノハエビ	<i>Nebalia cf. japonensis</i>
節足動物門	軟甲綱	薄甲目	コノハエビ科	<i>Nebalia</i> 属	<i>Nebalia</i> sp.	コノハエビ属の一種	<i>Nebalia</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	コクボフクロアミ	<i>Archaeomysis kokuboi</i>	コクボフクロアミ	<i>Archaeomysis kokuboi</i>
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Archaeomysis</i> 属の一種	<i>Archaeomysis</i> sp.	<i>Archaeomysis</i> 属の一種	<i>Archaeomysis</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	イサザアミ	<i>Neomysis intermedia</i>
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属	<i>Neomysis</i> sp.	クロイサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属	<i>Neomysis</i> sp.	<i>Neomysis</i> 属の1種	<i>Neomysis</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属	<i>Neomysis</i> sp.	<i>Neomysis</i> 属の一種	<i>Neomysis</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis</i> 属	<i>Neomysis</i> sp.	ニホンイサザアミと思われる種	<i>Neomysis cf. japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	クチハシソコエビ科	<i>Synchelidium</i> 属の一種	<i>Synchelidium</i> sp.	<i>Synchelidium</i> 属の1種	<i>Synchelidium</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	タテソコエビ科	<i>Stenothoe dentirama</i>	<i>Stenothoe dentirama</i>	<i>Stenothoe dentirama</i>	<i>Stenothoe dentirama</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	タテソコエビ科	<i>Stenothoe</i> 属の一種	<i>Stenothoe</i> sp.	<i>Stenothoe</i> 属の一種	<i>Stenothoe</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	エンマヨコエビ科	<i>Paradexamine</i> 属の一種	<i>Paradexamine</i> sp.	<i>Paradexamine</i> 属の1種	<i>Paradexamine</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	エンマヨコエビ科	エンマヨコエビ科	Dexaminidae	エンマヨコエビ科	Dexaminidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フタハナヨコエビ科	<i>Atylus matsukawaensis</i>	<i>Atylus matsukawaensis</i>	<i>Atylus matsukawaensis</i>	<i>Atylus matsukawaensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フタハナヨコエビ科	<i>Atylus</i> 属	<i>Atylus</i> sp.	<i>Atylus</i> 属の一種	<i>Atylus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ツノヒゲソコエビ科	<i>Eohaustorius</i> 属	<i>Eohaustorius</i> sp.	ウシロマエソコエビ属の一種	<i>Eohaustorius</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒサシソコエビ科	<i>Harpiniopsis</i> 属の一種	<i>Harpiniopsis</i> sp.	<i>Harpiniopsis</i> 属?の一種	<i>Harpiniopsis?</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ナミノリソコエビ科	ナミノリソコエビ科	Dogielinotidae	<i>Haustorioides</i> 属の1種	<i>Haustorioides</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ナミノリソコエビ科	ナミノリソコエビ科	Dogielinotidae	ナミノリソコエビ科	Dogielinotidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	<i>Hyale</i> 属	<i>Hyale</i> sp.	<i>Hyale</i> 属(広義)の一種	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	<i>Hyale</i> 属	<i>Hyale</i> sp.	<i>Hyale</i> 属(広義)の一種	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	フサゲモクス	<i>Ptilohyale barbicornis</i>	フサゲモクス	<i>Hyale barbicornis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスヨコエビ科	フサゲモクス	<i>Ptilohyale barbicornis</i>	フサゲモクス	<i>Ptilohyale barbicornis</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	フタアシモクス	<i>Parallorchestes ochotensis</i>	フタアシモクス	<i>Ptilohyale</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	モクズヨコエビ科の一種	Hyalidae gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	モクズヨコエビ科	Hyalidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	<i>Hyale</i> 属の1種	<i>Hyale</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	<i>Hyale</i> 属(広義)の1種	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクズヨコエビ科	モクズヨコエビ科	Hyalidae	<i>Hyale</i> 属(広義)の一種2	<i>Hyale</i> (sensu lato) sp.2
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia platensis</i> sensu lato
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia joi</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia</i> cf. <i>pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia platensis</i> (Kroyer, 1845) sensu lato
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia platensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ	<i>Platorchestia pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	ヒメハマトビムシ種群の一種	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	<i>Platorchestia</i> 属の1種	<i>Platorchestia</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	<i>Platorchestia joi</i>	<i>Platorchestia joi</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>	<i>Platorchestia pacifica</i> と思われる1種	<i>Platorchestia</i> cf. <i>pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ホソハマトビムシ	<i>Pyatakoveestia pyatakovi</i>	ホソハマトビムシ	<i>Pacforchestia pyatakovi</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ニホンスナハマトビムシ	<i>Sinorchestia nipponensis</i>	ニッポンスナハマトビムシ	<i>Talorchestia nipponensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒゲナガハマトビムシ	<i>Trinorchestia trinitatis</i>	ヒゲナガハマトビムシ	<i>Talorchestia brito</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ブラブラソコエビ	<i>Aoroides curvipes</i>	ブラブラソコエビ	<i>Aoroides curvipes</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	<i>Aoroides</i> 属の一種	<i>Aoroides</i> sp.	<i>Aoroides</i> 属の1種	<i>Aoroides</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	<i>Aoroides</i> 属の一種	<i>Aoroides</i> sp.	ユンボソコエビ科の1種	<i>Aoroides</i> gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	ニッポンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	サンリクドロソコエビ	<i>Grandidierella sanrikuensis</i>	サンリクドロソコエビ	<i>Grandidierella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	<i>Grandidierella</i> 属の一種	<i>Grandidierella</i> sp.	<i>Grandidierella</i> 属の1種	<i>Grandidierella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	アリアケドロクダムシ	<i>Monocorophium acherusicum</i>	アリアケドロクダムシ	<i>Corophium acherusicum</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	アリアケドロクダムシ	<i>Monocorophium acherusicum</i>	アリアケドロクダムシ	<i>Monocorophium acherusicum</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	トンガリドロクダムシ	<i>Monocorophium insidiosum</i>	トンガリドロクダムシ	<i>Monocorophium insidiosum</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ウエノドロクダムシ	<i>Monocorophium uenoi</i>	ウエノドロクダムシ	<i>Corophium uenoi</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ウエノドロクダムシ	<i>Monocorophium uenoi</i>	ウエノドロクダムシ	<i>Monocorophium uenoi</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Monocorophium</i> 属	<i>Monocorophium</i> spp.	<i>Monocorophium</i> 属の一種	<i>Monocorophium</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Monocorophium</i> 属	<i>Monocorophium</i> spp.	<i>Monocorophium</i> 属	<i>Monocorophium</i> spp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	<i>Corophium</i> 属の1種または複数種	<i>Corophium</i> sp. or spp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	<i>Corophium</i> 属の1種	<i>Corophium</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	ドロクダムシ科の1種	Corophiidae sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	ドロクダムシ科の1種1	Corophiidae sp. 1
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	ドロクダムシ科の1種2	Corophiidae sp. 2
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae	ドロクダムシ科の一種	Corophiidae gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	ニッポンモバヨコエビ	<i>Ampithoe lacertosa</i>	ニッポンモバヨコエビ	<i>Ampithoe lacertosa</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	モズミヨコエビ近似種	<i>Ampithoe</i> aff. <i>valida</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe</i> cf. <i>valida</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	<i>Ampithoe</i> 属の1種(1)	<i>Ampithoe</i> sp. 1
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	<i>Ampithoe</i> 属の1種(2)	<i>Ampithoe</i> sp. 2
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	<i>Ampithoe</i> 属の1種	<i>Ampithoe</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	<i>Ampithoe</i> 属の一種	<i>Ampithoe</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	ヒゲナガヨコエビ属の一種A	<i>Ampithoe</i> sp. A
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Ampithoe</i> 属	<i>Ampithoe</i> spp.	ヒゲナガヨコエビ属の一種B	<i>Ampithoe</i> sp. B
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	セムシフレカラ	<i>Caprella brevisrostris</i>	セムシフレカラ	<i>Caprella brevisrostris</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	ホソフレカラ	<i>Caprella danilevskii</i>	ホソフレカラ	<i>Caprella danilevskii</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	キゾクフレカラ	<i>Caprella generosa</i>	キゾクフレカラ	<i>Caprella generosa</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	オオフレカラ	<i>Caprella kroeyeri</i>	オオフレカラ	<i>Caprella kroeyeri</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	トゲフレカラ	<i>Caprella scaura</i>	トゲフレカラ	<i>Caprella scaura</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	<i>Caprella</i> 属の一種	<i>Caprella</i> sp.	<i>Caprella</i> 属の1種	<i>Caprella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フレカラ科	<i>Caprella</i> 属の一種	<i>Caprella</i> sp.	フレカラ属の一種	<i>Caprella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマカヨコエビ科	<i>Kamaka</i> 属の一種	<i>Kamaka</i> sp.	<i>Kamaka</i> 属の1種	<i>Kamaka</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	<i>Erichthonius</i> 属の一種	<i>Erichthonius</i> sp.	<i>Erichthonius</i> 属の1種	<i>Erichthonius</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	ムシヤカマキリヨコエビ	<i>Jassa marmorata</i>	ムシヤカマキリヨコエビ	<i>Jassa marmorata</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	<i>Jassa</i> 属	<i>Jassa</i> spp.	<i>Jassa</i> 属の1種	<i>Jassa</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	<i>Jassa</i> 属	<i>Jassa</i> spp.	<i>Jassa</i> 属の一種	<i>Jassa</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	<i>Jassa</i> 属	<i>Jassa</i> spp.	<i>Jassa</i> 属の1種1	<i>Jassa</i> sp. 1
節足動物門	軟甲綱	端脚目	カマキリヨコエビ科	<i>Jassa</i> 属	<i>Jassa</i> spp.	<i>Jassa</i> 属の1種2	<i>Jassa</i> sp. 2
節足動物門	軟甲綱	端脚目	クダオソコエビ科	<i>Gammaropsis</i> 属	<i>Gammaropsis</i> sp.	<i>Gammaropsis</i> 属の一種	<i>Gammaropsis</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	イソヨコエビ科	スナナリヨコエビ	<i>Maeropsis serratipalma</i>	スナナリヨコエビ?	<i>Maeropsis serratipalma</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	フトメリタヨコエビ	<i>Melita rylovae</i>	フトメリタヨコエビ	<i>Melita rylovae</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属	<i>Melita</i> sp.	<i>Melita</i> 属の1種	<i>Melita</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属	<i>Melita</i> sp.	<i>Melita</i> 属の一種	<i>Melita</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	アゴナガヨコエビ科	アゴナガヨコエビ	<i>Pontogeneia rostrata</i>	アゴナガヨコエビ	<i>Pontogeneia rostrata</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	アゴナガヨコエビ科	ホンアゴナガヨコエビ	<i>Pontogeneia stocki</i>	ホンアゴナガヨコエビ	<i>Pontogeneia stocki</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	ボシエットゲオヨコエビ	<i>Eogammarus possjeticus</i>	<i>Eogammarus possjeticus</i>	<i>Eogammarus possjeticus</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	ヒヌマヨコエビ	<i>Jesogammarus (Jesogammarus) hinumensis</i>	ヒヌマヨコエビ	<i>Jesogammarus hinumensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	ヒヌマヨコエビ	<i>Jesogammarus (Jesogammarus) hinumensis</i>	ヒヌマヨコエビ	<i>Jesogammarus (Jesogammarus) hinumensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	<i>Jesogammarus</i> 属の一種	<i>Jesogammarus</i> sp.	<i>Jesogammarus</i> 属の1種	<i>Jesogammarus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	キタヨコエビ科	Anisogammaridae	キタヨコエビ科の1種	<i>Anisogammaridae</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	キタヨコエビ科	キタヨコエビ科	Anisogammaridae	キタヨコエビ科の一種	<i>Anisogammaridae</i> gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	<i>Cyathura</i> 属の1種	<i>Cyathura</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	<i>Cyathura</i> 属の一種	<i>Cyathura</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ウミナナフシ科	ヤマトウミナナフシ	<i>Paranhura japonica</i>	<i>Paranhura japonica</i>	<i>Paranhura japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	ヒメスナホリムシ	<i>Excrolana chiltoni</i>	ヒメスナホリムシ	<i>Excrolana chiltoni</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	ニセスナホリムシ	<i>Cirolana harfordi japonica</i>	ニセスナホリムシ	<i>Cirolana harfordi japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	<i>Cirolana</i> 属の一種	<i>Cirolana</i> sp.	<i>Cirolana</i> 属の一種	<i>Cirolana</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	<i>Natatolana</i> 属の一種	<i>Natatolana</i> sp.	<i>Natatolana</i> sp.	<i>Natatolana</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	マドカアナジャコヤドリムシ	<i>Gyge ovalis</i>	マドカアナジャコヤドリムシ	<i>Gyge ovalis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	スナモグリヤドリムシ	<i>Ione cornuta</i>	スナモグリヤドリムシ	<i>Ione cornuta</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	エビヤドリムシ科	Bopyridae	エビヤドリムシ科の1種	Bopyridae sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	オホーツクヘラムシ	<i>Idotea ochotensis</i>	オホーツクヘラムシ	<i>Idotea ochotensis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	<i>Idotea</i> 属の一種	<i>Idotea</i> sp.	<i>Idotea</i> 属の1種	<i>Idotea</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	ワラジヘラムシ	<i>Synidotea laevidorsalis</i>	ワラジヘラムシ	<i>Synidotea laevidorsalis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	イソヘラムシ	<i>Cleantiella isopus</i>	イソヘラムシ	<i>Cleantiella isopus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	オヒラキヘラムシ	<i>Cleantiella strasseni</i>	オヒラキヘラムシ	<i>Cleantiella strasseni</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	<i>Cleantiella</i> 属の一種	<i>Cleantiella</i> sp.	<i>Cleantiella</i> 属の1種	<i>Cleantiella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	<i>Cleantiella</i> 属の一種	<i>Cleantiella</i> sp.	フヒゲヘラムシ属の一種	<i>Cleantiella</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	ヘラムシ科の一種	Idoteidae gen. sp.	ヘラムシ科の一種	Idoteidae gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ワラジムシ科	ワラジムシ	<i>Porcellio scaber</i>	ワラジムシ	<i>Porcellio scaber</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	オカダンゴムシ科	オカダンゴムシ	<i>Armadillidium vulgare</i>	オカダンゴムシ	<i>Armadillidium vulgare</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ハマダンゴムシ科	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granuliferus</i>	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granuliferus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ハマダンゴムシ科	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granuliferus</i>	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granulatus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	ヒラタウミセミ	<i>Leptosphaeroma gottschei</i>	ヒラタウミセミ	<i>Leptosphaeroma gottschei</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	ヨツバコツブムシ	<i>Sphaeroma retrolaevis</i>	ヨツバコツブムシ	<i>Sphaeroma retrolaevis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	ヨツバコツブムシ	<i>Sphaeroma retrolaevis</i>	<i>Limoria</i> 属の1種	<i>Limoria</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	ナナツバコツブムシ	<i>Sphaeroma sieboldii</i>	ナナツバコツブムシ	<i>Sphaeroma sieboldii</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	イワホリコツブムシ近似種	<i>Sphaeroma</i> aff. <i>wadai</i>	イワホリコツブムシ近似種	<i>Sphaeroma</i> aff. <i>wadai</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Sphaeroma</i> 属の一種	<i>Sphaeroma</i> sp.	<i>Sphaeroma</i> 属の一種	<i>Sphaeroma</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Chitonosphaera</i> 属	<i>Chitonosphaera</i> sp.	ハバビロコツブムシ属の一種	<i>Chitonosphaera</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	イソコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma rayi</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	マルコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma ovatum</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	シナコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma chinense</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属の1種	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属の一種	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	マルコツブムシ近似種	<i>Gnorimosphaeroma</i> aff. <i>ovatum</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	フタゲイソコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma hoestlandti</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	イソコツブムシ属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	イソコツブムシ属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.	イソコツブムシ属の一種	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	シリケンウミセミ	<i>Dynoides dentisimus</i>	シリケンウミセミ	<i>Dynoides dentisimus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	ブチウミセミ	<i>Dynoides brevispina</i>	ブチウミセミ	<i>Dynoides brevispina</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	キスイタナイス	<i>Sinelobus</i> sp.	キスイタナイス	<i>Sinelobus stanfordi</i>
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	<i>Sinelobus</i> 属の一種	<i>Sinelobus</i> sp.	タナイス目の1種	Tanaidacea sp.
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	<i>Sinelobus</i> 属の一種	<i>Sinelobus</i> sp.	<i>Sinelobus</i> 属の一種	<i>Sinelobus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	<i>Sinelobus</i> 属の一種	<i>Sinelobus</i> sp.	タナイス科の一種	Tanaidae gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	<i>Tanais</i> 属の一種	<i>Tanais</i> sp.	<i>Tanais</i> 属の1種	<i>Tanais</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミソビクーマ	<i>Diasylis tricincta</i>	ミソビクーマ	<i>Diasylis tricincta</i>
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	クーマ科	Diastlidae	クーマ科の1種	Diastlidae sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	シロクーマ科	<i>Leucon</i> 属の一種	<i>Leucon</i> sp.	<i>Leucon</i> 属の一種	<i>Leucon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	シロクーマ科	エドシロクーマ	<i>Leucon varians</i>	エドシロクーマ	<i>Leucon varians</i>
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	ナギサクーマ科	ナギサクーマ科	Bodotriidae	ナギサクーマ科と思われる1種	Bodotriidae? sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	ナギサクーマ科	ナギサクーマ科	Bodotriidae	ナギサクーマ科の一種	Bodotriidae gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	-	クーマ目	Cumacea	クーマ目の1種	Cumacea sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	-	クーマ目	Cumacea	クーマ目の一種	Cumacea fam. gen. sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	クルマエビ科	クルマエビ	<i>Penaeus japonicus</i>	クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	クルマエビ科	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ヌカエビ科	ヌカエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	<i>Paratya improvisa</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>	テッポウエビ科の1種	<i>Alpheidae</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>	<i>Alpheus</i> 属の1種	<i>Alpheus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>	?フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	イソテッポウエビ近似種	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>	イソテッポウエビ近似種	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	イソテッポウエビ類	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>	イソテッポウエビ類	<i>Alpheus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ヒメサンゴモエビ科	アシナガモエビモドキ	<i>Heptacarpus futilirostris</i>	アシナガモエビモドキ	<i>Heptacarpus futilirostris</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	ウリタエビジャコ	<i>Crangon writai</i>	ウリタエビジャコ	<i>Crangon writai</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	<i>Crangon</i> 属	<i>Crangon</i> sp.	<i>Crangon</i> 属の1種	<i>Crangon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	<i>Crangon</i> 属	<i>Crangon</i> sp.	エビジャコ属	<i>Crangon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	<i>Crangon</i> 属	<i>Crangon</i> sp.	エビジャコ属の一種	<i>Crangon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	<i>Palaemon</i> 属	<i>Palaemon</i> sp.	スジエビ属	<i>Palaemon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	<i>Palaemon</i> 属	<i>Palaemon</i> sp.	<i>Palaemon</i> 属の1種	<i>Palaemon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	シラタエビ	<i>Exopalaemon orientis</i>	シラタエビ	<i>Exopalaemon orientis</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>	ニホンスナモグリ	<i>Nihonotrypaea japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ハルマンズナモグリ	<i>Neotrypaea harmandi</i>	ハルマンズナモグリ	<i>Nihonotrypaea harmandi</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での表記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	Neotrypaea 属の一種	Neotrypaea sp.	Nihonotrypaea 属の1種	Nihonotrypaea sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシヤコエビ科	ハサミシヤコエビ	Laomedea astacina	ハサミシヤコエビ	Laomedea astacina
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	アナジャコ	Upogebia major	アナジャコ	Upogebia major
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	Upogebia yokoyai	ヨコヤアナジャコ	Upogebia yokoyai
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	バルスアナジャコ	Upogebia issaeffi	バルスアナジャコ	Upogebia issaeffi
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	Upogebia 属	Upogebia sp.	Upogebia 属の一種	Upogebia sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	Upogebia 属	Upogebia sp.	Upogebia 属の1種	Upogebia sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ヤドカリ科	コブヨコバサミ	Clibanarius infraspinatus	コブヨコバサミ	Clibanarius infraspinatus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ	Pagurus filholi	ホンヤドカリ	Pagurus filholi
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ヤマトホンヤドカリ	Pagurus japonicus	ヤマトホンヤドカリ	Pagurus japonicus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ケアシホンヤドカリ	Pagurus lanuginosus	ケアシホンヤドカリ	Pagurus lanuginosus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	Pagurus minutus	ユビナガホンヤドカリ	Pagurus minutus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	Pagurus 属の一種	Pagurus sp.	Pagurus 属の1種	Pagurus sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナホリガニ科	ハマスナホリガニ	Hippa truncatifrons	ハマスナホリガニ	Hippa truncatifrons
節足動物門	軟甲綱	十脚目	イチョウガニ科	コイチョウガニ	Glebocarcinus amphioetus	コイチョウガニ	Glebocarcinus amphioetus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	Pyrhila pisum	マメコブシガニ	Pyrhila pisum
節足動物門	軟甲綱	十脚目	クモガニ科	マメツブガニ	Paratymolus pubescens	マメツブガニ	Paratymolus pubescens
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	ガザミ	Portunus trituberculatus	ガザミ	Portunus (Portunus) trituberculatus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	ガザミ	Portunus trituberculatus	ガザミ	Portunus trituberculatus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	イシガニ	Charybdis (Charybdis) japonica	イシガニ	Charybdis (Charybdis) japonica
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	イシガニ	Charybdis (Charybdis) japonica	イシガニ	Charybdis japonica
節足動物門	軟甲綱	十脚目	オウギガニ科	オウギガニ	Leptodius affinis	オウギガニ	Leptodius exaratus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	イワガニ科	イワガニ	Pachygrapsus crassipes	イワガニ	Pachygrapsus crassipes
節足動物門	軟甲綱	十脚目	イワガニ科	イワガニ	Pachygrapsus crassipes	イワガニ	Pachygrapsus minutus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	Chiromantes haematocheir	アカテガニ	Chiromantes haematocheir
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	Orisarma dehaani	クロベンケイガニ	Orisarma dehaani
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	Orisarma dehaani	クロベンケイガニ	Chiromantes dehaani
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	ベンケイガニ	Orisarma intermedium	ベンケイガニ	Sesarmops intermedium
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	ベンケイガニ	Orisarma intermedium	ベンケイガニ	Sesarmops intermedius
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クシテガニ	Parasesarma affine	クシテガニ	Parasesarma plicatum
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	フタバカクガニ	Parasesarma bidens	フタバカクガニ	Perisesarma bidens
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	Parasesarma pictum	カクベンケイガニ	Parasesarma pictum
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ヒライソガニ	Gaetice depressus	ヒライソガニ	Gaetice depressus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	ハマガニ	Chasmagnathus convexus	ハマガニ	Chasmagnathus convexus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	Helice tridens	アシハラガニ	Helice (Helice) tridens tridens
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	アシハラガニ	Helice tridens	アシハラガニ	Helice tridens
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	トリウミアカイソモドキ	Sestrostoma toriumii	トリウミアカイソモドキ	Acmaeopleura toriumii
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	Sestrostoma 属の一種	Sestrostoma sp.	Sestrostoma 属の一種	Sestrostoma sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	モクズガニ	Eriocheir japonica	モクズガニ	Eriocheir japonicus
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	モクズガニ	Eriocheir japonica	モクズガニ	Eriocheir japonica
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクズガニ科	スネナガイソガニ	Hemigrapsus longitarsis	スネナガイソガニ	Hemigrapsus longitarsis

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ科	Varunidae	モクスガニ科の1種	Varunidae sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ科	Varunidae	モクスガニ科	Varunidae
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ムツハアリアケガニ科	ムツハアリアケガニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>	ムツハアリアケガニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocyrode stimpsoni</i>	スナガニ	<i>Ocyrode stimpsoni</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	カクレガニ科	Tetris 属の一種	<i>Tetris</i> sp.	ミナミヨコナガビソノ属の一種	<i>Tetris</i> sp.
棘皮動物門	ヒトデ綱	アカヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	<i>Patria pectinifera</i>	イトマキヒトデ	<i>Patria pectinifera</i>
棘皮動物門	ヒトデ綱	ルソソヒトデ目	ルソソヒトデ科	ヒメヒトデ	<i>Henricia nipponica</i>	ヒメヒトデ	<i>Henricia nipponica</i>
棘皮動物門	ヒトデ綱	マヒトデ目	マヒトデ科	マヒトデ	<i>Asterias amurensis</i>	マヒトデ	<i>Asterias amurensis</i>
棘皮動物門	クモヒトデ綱	クモヒトデ目	クモヒトデ科	コモテクモヒトデ属の一種	<i>Stegophiura</i> sp.	コモテクモヒトデ属の一種	<i>Stegophiura</i> sp.
棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	スナクモヒトデ科	ウデナガメナクモヒトデ	<i>Amphiura (Fellaria) vadicola</i>	ウデナガメナクモヒトデ?	<i>Amphiura (Fellaria) vadicola</i>
棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	スナクモヒトデ科	スナクモヒトデ科	Amphiuridae	スナクモヒトデ科	Amphiuridae
棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	トゲクモヒトデ科	ナガトゲクモヒトデ	<i>Ophiothrix exigua</i>	ナガトゲクモヒトデ	<i>Ophiothrix exigua</i>
棘皮動物門	後蛇尾下綱	-	-	クモヒトデ目	Metophiurida	クモヒトデ目の1種	Ophiurida sp.
棘皮動物門	ナマコ綱	Synallactida 目	シカクナマコ科	マナマコ	<i>Apostichopus japonicus</i>	マナマコ	<i>Apostichopus japonicus</i>
棘皮動物門	ナマコ綱	Synallactida 目	シカクナマコ科	マナマコ	<i>Apostichopus japonicus</i>	マナマコ	<i>Apostichopus armata</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マンジュウボヤ目	マンジュウボヤ科	マンジュウボヤ	<i>Aplidium pliciferum</i>	マンジュウボヤ	<i>Aplidium pliciferum</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マメボヤ目	ナツメボヤ科	スジキレボヤ	<i>Ascidia sydneiensis</i>	スジキレボヤ	<i>Ascidia sydneiensis</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マメボヤ目	ナツメボヤ科	Asciidiella 属の一種	<i>Asciidiella</i> sp.	Asciidiella 属の一種	<i>Asciidiella</i> sp.
尾索動物門	ホヤ綱	マメボヤ目	ナツメボヤ科	ナツメボヤ科	Asciidiidae	Asciidiidae	Asciidiidae
尾索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	イタボヤ	<i>Botrylloides violaceus</i>	イタボヤ	<i>Botryllus schlosseri</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	シロボヤ	<i>Styela plicata</i>	シロボヤ	<i>Styela plicata</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	エボヤ	<i>Styela clava</i>	エボヤ	<i>Styela clava</i>
尾索動物門	ホヤ綱	マボヤ目	シロボヤ科	フタスジボヤ	<i>Styela canopus</i>	フタスジボヤ	<i>Styela canopus</i>
尾索動物門	ホヤ綱	-	-	ホヤ綱	Asciacea	ホヤ綱の1種	Asciacea sp.
脊椎動物門	軟骨魚綱	トビエイ目	アカエイ科	アカエイ	<i>Hemitrygon akajei</i>	アカエイ	<i>Dasyatis akajei</i>
脊椎動物門	条鰭綱	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>
脊椎動物門	条鰭綱	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>
脊椎動物門	条鰭綱	コイ目	ウグイ科	マルタ	<i>Pseudaspius brandtii maruta</i>	マルタ?	<i>Tribolodon brandtii</i>
脊椎動物門	条鰭綱	コイ目	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	スズキ科	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	スジハゼの一種	<i>Acentrogobius</i> sp.	スジハゼの一種	<i>Acentrogobius</i> sp.
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>

干潟:出現種の整理表

整理後(経年変化を検討する種数の算出のための本調査での標記)					整理前(第7回基礎調査(干潟調査)及びこれまで(R3含む)の生態系監視調査の出現種)		
門	綱	目	科	和名	学名	和名	学名
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	ビリンゴ?	<i>Gymnogobius breunigii</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヘビハゼ	<i>Gymnogobius mororanus</i>	ヘビハゼ	<i>Gymnogobius mororanus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>	チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヨシノボリの一種	<i>Rhinogobius</i> sp.	<i>Rhinogobius</i> 属の1種(ヨシノボリ種群)	<i>Rhinogobius</i> sp.
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ハゼ科	Gobiidae	ハゼ科の一種	Gobiidae gen. sp.
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ハゼ科	Gobiidae	ハゼ科の一種	Gobiidae gen. sp.



干潟:出現種リスト(整理結果反映)

門	綱	目	科	和名	学名
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ナミンソカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>
海綿動物門	尋常海綿綱	コルク海綿目	イソカイメン科	ダイダイソカイメン	<i>Hymeniacidon sinapium</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	ヨロイソギンチャク	<i>Anthopleura uchidai</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	クロガネイソギンチャク	<i>Anthopleura kurogane</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	イシワケイソギンチャク	<i>Anthopleura sp.</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク科	コモチイソギンチャク	<i>Cnidopus japonicus</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク科	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	ホウザフイソギンチャク	<i>Synandwakia hozuwai</i>
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	-	イソギンチャク目	<i>Actiniaria</i>
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	ウスヒラムシ科	ウスヒラムシ	<i>Notoplana humilis</i>
扁形動物門	有棒状体綱	多岐腸目	-	ヒラムシ類	<i>Polycladida</i>
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	ナミヒモムシ	<i>Cerebratulus communis</i>
紐形動物門	担帽綱	-	リネウス科	リネウス科	<i>Lineidae</i>
紐形動物門	針紐虫綱	-	マダラヒモムシ科	オグマヒモムシ	<i>Nipponemertes ogumai</i>
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	<i>Nemertea</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ウスヒザラガイ科	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	コケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ目	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona rubrolineata</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ベッコウガサ	<i>Cellana grata</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	ヨメガカサ科	ヨメガカサ	<i>Cellana toreuma</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ミソレコガモガイ	<i>Lottia goshimai</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コモレビコガモガイ	<i>Lottia tenuisculpta</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ユキノカサガイ	<i>Niveotectura pallida</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	コウダカアオガイ	<i>Nipponacmea concinna</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	カスミアオガイ	<i>Nipponacmea habei</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	クモリアオガイ	<i>Nipponacmea nigrans</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>
軟体動物門	腹足綱	ヨメガカサ目	コガモガイ科	シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	ニシキウズ科	イシダタミ	<i>Monodonta confusa</i>
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	クボガイ科	バテイラ	<i>Tegula pfeifferi pfeifferi</i>
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	クボガイ科	コシダカガングラ	<i>Tegula rustica</i>
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズ目	リュウテン科	スガイ	<i>Lunella correensis</i>
軟体動物門	腹足綱	アマオブネ目	アマオブネ科	イシマキ	<i>Clithon retropictum</i>
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナ科	ホソウミナ	<i>Batillaria atramentaria</i>
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナ科	ウミナ	<i>Batillaria multiformis</i>
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	ウミナ科	イボウミナ	<i>Batillaria zonalis</i>
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミナ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>
軟体動物門	腹足綱	オニノツノガイ目	キバウミナ科	カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ムカデガイ科	オオヘビガイ	<i>Thylacodes adamsii</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	アラレタマキビ	<i>Echinolittorina radiata</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマキビ科	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	クビキレガイ科	ヤマトクビキレ	<i>Turuncatella pfeifferi</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	キントニイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea aff. Satumana</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	<i>"Assiminea" estuarina</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	ヒラドカワザンショウ	<i>"Assiminea" hiradoensis</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	カワザンショウガイ	<i>"Assiminea" japonica</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツシマカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. G</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	マツカワウラカワザンショウ	<i>"Assiminea" sp. H</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	カワザンショウ科	オオウスイロヘソカド	<i>Paludnellassiminea tanegashimae</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	ワカウラツボ科	サザナミツボ	<i>"Nozeba" ziczac</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	イツマデガイ科	クビキレガイモドキ	<i>Cecina manchurica</i>
軟体動物門	腹足綱	エゾタマキビ目	タマガイ科	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i>
軟体動物門	腹足綱	カリバガサ目	カリバガサ科	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨバイ科	アオモリムシロ	<i>Nassarius hypoliis</i>
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨバイ科	ムシロガイ	<i>Nassarius livescens</i>
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	オリイレヨバイ科	アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	レイシ	<i>Reishia bronni</i>

## 干潟:出現種リスト(整理結果反映)

門	綱	目	科	和名	学名
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アッキガイ科	イボニシ	<i>Reishia clavigera</i>
軟体動物門	腹足綱	新腹足目	マクラガイ科	<i>Olivella</i> 属	<i>Olivella</i> sp.
軟体動物門	腹足綱	裸鰓目	クロシタナシウミウシ科	クロシタナシウミウシ	<i>Dendrodonis arborescens</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	カノコキセワタ科	ヤミヨキセワタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	コメツブガイ	<i>Decorifer insignis</i>
軟体動物門	腹足綱	頭楯目	クダタマガイ科	マツシマコメツブ	<i>Decorifer matusimanus</i>
軟体動物門	腹足綱	トウガタガイ目	トウガタガイ科	カキウラクチキレモドキ	<i>Brachystomia bipyramidata</i>
軟体動物門	腹足綱	コウダカカラマン目	コウダカカラマン科	カラマツガイ	<i>Siphonaria japonica</i>
軟体動物門	腹足綱	オカミミガイ目	オカミミガイ科	ウスコミミガイ	<i>Laemodonta exaratooides</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ホトギス	<i>Musculista senhousia</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリ	<i>Xenostrobus securis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilisepta virgata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	ヒバリガイ	<i>Modiolus nipponicus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	イワガキ	<i>Crassostrea nippona</i>
軟体動物門	二枚貝綱	カキ目	イタボガキ科	ケガキ	<i>Saccostrea kegaki</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ネリガイ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ツキガイ目	ツキガイ科	ツキガイモドキ	<i>Lucinoma annulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マテガイ目	マテガイ科	エゾマテガイ	<i>Solen krusensterni</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ウロコガイ目	チリハギ科	ガタヅキ	<i>Arthritica cf. reikoe</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ユウソウガイ	<i>Jitlada culter</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	モモノハナ	<i>Moerella hilaris</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	ニッコウガイ科	サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Donax semigranostus</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	シオサザナ科	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサジガイ科	シズクガイ	<i>Theora lubrica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	ドブシジミ目	アサジガイ科?	アサジガイ科?の一種	Semelidae? gen. sp.
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チトセノハナガイ科	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	<i>Neotrapezium liratum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オキシジミ	<i>Cyclina aff. Sinensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	コタマガイ	<i>Macridiscus aequilatera</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	オニアサリ	<i>Leukoma jodoensis</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>
軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	ヤマシジミ	<i>Corbicula japonica</i>
軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya japonica</i>
環形動物門	-	-	ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>
環形動物門	-	-	-	ホシムシ類	Sipuncula
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe cf. imbricata</i>
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	<i>Harmothoe</i> 属	<i>Harmothoe</i> sp.
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ヤチウロコムシ	<i>Lepidonotus elongatus</i>
環形動物門	-	-	ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidea
環形動物門	-	-	シリシ科	Syllinae 亜科	Syllinae
環形動物門	-	-	シログネゴカイ科	ミナミシログネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namaneis littoralis species group</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ツルヒゲゴカイ	<i>Platynereis bicancaliculata</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	スナイソゴカイもしくはイシソゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i> and/or <i>wilsoni</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	カワゴカイ属	<i>Hediste</i> spp.
環形動物門	-	-	ゴカイ科	ジャムシ	<i>Alitta brandti</i>
環形動物門	-	-	ゴカイ科	エソゴカイ	<i>Nereis vexillosa</i>
環形動物門	-	-	チロリ科	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>
環形動物門	-	-	チロリ科	<i>Glycera</i> 属	<i>Glycera</i> sp.
環形動物門	-	-	ニカイチロリ科	ヤマトキョウスチロリ	<i>Goniada japonica</i>

干潟:出現種リスト(整理結果反映)

門	綱	目	科	和名	学名
環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	ホソミサシバ	<i>Eteone cf. longa</i>
環形動物門	-	-	サシバゴカイ科	サシバゴカイ科	Phyllodoceidae
環形動物門	-	-	イソメ科	イワムシ種群	<i>Marphysa victori</i>
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	カタマカリギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>
環形動物門	-	-	ギボシイソメ科	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	ナガホコムシ	<i>Leitoscoloplos cf. pugettensis</i>
環形動物門	-	-	ホコサキゴカイ科	Naineris 属	Naineris sp.
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ種群	Cirriformia spp.
環形動物門	-	-	ミズヒキゴカイ科	Chaetozone 属	Chaetozone sp.
環形動物門	-	-	ヒメエラゴカイ科	ニホンヒメエラゴカイ	<i>Paradoneis nipponica</i>
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシ	<i>Ficoponatus enigmaticus</i>
環形動物門	-	-	カンザシゴカイ科	エゾカサネカンザシ	<i>Hydroides ezoensis</i>
環形動物門	-	-	ケヤリムシ科	ヒガタケヤリムシ	<i>Laonome albicingillum</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ケンサキスピオ	<i>Aonides aff. oxycephala</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ヤマトスピオ	<i>Prionospio (Minuspio) japonica</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ミツハネスピオ	<i>Prionospio (Aquilaspio) krusadensis</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	ヒゲスピオ種群	<i>Rhynchospio glutaea complex sp.</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	Scolelepis 属	Scolelepis sp.
環形動物門	-	-	スピオ科	マドカスピオ	<i>Spio aff. arndti</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	Polydora 属	Polydora spp.
環形動物門	-	-	スピオ科	ドロオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. kempii</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora cf. reticulata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	コオニスピオ	<i>Pseudopolydora paucibranchiata</i>
環形動物門	-	-	スピオ科	カギノテスピオ	<i>Boccardiella hamata</i>
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>
環形動物門	-	-	オフエリアゴカイ科	Thoracophelia 属	Thoracophelia sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Barantolla 属	Barantolla sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Capitella 属	Capitella sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Heteromastus 属	Heteromastus spp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Mediomastus 属	Mediomastus sp.
環形動物門	-	-	イトゴカイ科	Notomastus 属	Notomastus spp.
環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	イソタマシキゴカイ	<i>Abarenicola pacifica</i>
環形動物門	-	-	タマシキゴカイ科	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>
環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	Praxillella 属	Praxillella sp.
環形動物門	-	-	タケフシゴカイ科	Euclymeninae 亜科	Euclymeninae gen. sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	Amphitrite oculata	<i>Amphitrite oculata</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	Nicolea 属	Nicolea sp.
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ナガエラフサゴカイ	<i>Pista elongata</i>
環形動物門	-	-	フサゴカイ科	ヒヤクメニツボンフサゴカイ	<i>Thelepus japonicus</i>
環形動物門	-	-	イトミミズ科	イトミミズ亜科	Tubificidae
環形動物門	-	-	フトミミズ科	イソミミズ	<i>Pontodrilus litoralis</i>
環形動物門	-	-	-	貧毛類	Oligochaeta
節足動物門	箒虫綱	-	ホウキムシ科	イサゴホウキムシ	<i>Phoronis psammophila</i>
節足動物門	箒虫綱	-	ホウキムシ科	Phoronis 属	Phoronis sp.
節足動物門	蛸型綱	カニムシ目	コケカニムシ科	ウミカニムシ	<i>Halobisium orientale japonicum</i>
節足動物門	昆虫綱	双翅目	ユスリカ科	ユスリカ科	Chironomidae
節足動物門	昆虫綱	双翅目	-	双翅目	Diptera
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	イワフジツボ科	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>
節足動物門	鞘甲綱	無柄目	フジツボ科	ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>
節足動物門	軟甲綱	薄甲目	コノハエビ科	Nebalia 属	Nebalia sp.
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	イサザアミ	<i>Neomysis awatschensis</i>
節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	Neomysis 属	Neomysis sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	エンマヨコエビ科	エンマヨコエビ科	Dexaminiidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	フタハナヨコエビ科	Atylus 属	Atylus sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ツノヒゲソコエビ科	Eohaustorius 属	Eohaustorius sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ナミノリソコエビ科	ナミノリソコエビ科	Dogielinotidae

## 干潟:出現種リスト(整理結果反映)

門	綱	目	科	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスゾコエビ科	<i>Hyale</i> 属	<i>Hyale</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスゾコエビ科	フサゲモクス	<i>Ptilohyale barbicornis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	モクスゾコエビ科	モクスゾコエビ科	Hyalidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ種群	<i>Platorchestia joi</i> or <i>pacifica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ニホンスナハマトビムシ	<i>Sinorchestia nipponensis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ハマトビムシ科	ヒゲナガハマトビムシ	<i>Trinorchestia trinitatis</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ユンボソコエビ科	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Monocorophium</i> 属	<i>Monocorophium</i> spp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	ドロクダムシ科	Corophiidae
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	ニッポンモバヨコエビ	<i>Amphithoe lacertosa</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	モズミヨコエビ	<i>Amphithoe valida</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ヒゲナガヨコエビ科	<i>Amphithoe</i> 属	<i>Amphithoe</i> spp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	ワレカラ科	トゲワレカラ	<i>Caprella scaura</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	クダオソコエビ科	<i>Gammaropsis</i> 属	<i>Gammaropsis</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>
節足動物門	軟甲綱	端脚目	メリタヨコエビ科	<i>Melita</i> 属	<i>Melita</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナウミナナフシ科	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	ヒメスナホリムシ	<i>Excirellana chiltoni</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	エビヤドリムシ科	スナモグリヤドリムシ	<i>Ione cornuta</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	オホーツクヘラムシ	<i>Idotea ochotensis</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ヘラムシ科	イソヘラムシ	<i>Cleantiella isopus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	ハマダンゴムシ科	ハマダンゴムシ	<i>Tylos granuliferus</i>
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Chitonosphaera</i> 属	<i>Chitonosphaera</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma</i> 属	<i>Gnorimosphaeroma</i> spp.
節足動物門	軟甲綱	タナイス目	タナイス科	キスイタナイス	<i>Sinelobus</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	クーマ目	クーマ科	ミツオビクーマ	<i>Diatylis tricincta</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	クルマエビ科	ウシエビ	<i>Penaeus monodon</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	セジロムラサキエビ	<i>Athanas japonicus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	フトオビイソテッポウエビ	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テッポウエビ科	イソテッポウエビ類	<i>Alpheus</i> aff. <i>lobidens lobidens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	ウリタエビジャコ	<i>Crangon uritai</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	エビジャコ科	<i>Crangon</i> 属	<i>Crangon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	<i>Palaemon</i> 属	<i>Palaemon</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	テナガエビ科	シラタエビ	<i>Exopalaemon orientis</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナモグリ科	ニホンスナモグリ	<i>Neotrypaea japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシヤコエビ科	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedea astacina</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	ハルスアナジャコ	<i>Upogebia issaefi</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	アナジャコ科	<i>Upogebia</i> 属	<i>Upogebia</i> sp.
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ	<i>Pagurus filholi</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナホリガニ科	ハマスナホリガニ	<i>Hippa truncatifrons</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コブシガニ科	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	クモガニ科	マメツブガニ	<i>Paratymolus pubescens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ガザミ科	イシガニ	<i>Charybdis (Charybdis) japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	イワガニ科	イワガニ	<i>Pachygrapsus crassipes</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ハマガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>

## 干潟:出現種リスト(整理結果反映)

門	綱	目	科	和名	学名
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	トリウミアカイソモドキ	<i>Sestostoma toriumii</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスガニ科	タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	テゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>
節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>
棘皮動物門	ヒトデ綱	アカヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	<i>Patiria pectinifera</i>
棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	スナクモヒトデ科	ウデナガメガネクモヒトデ	<i>Amphiura (Fellaria) vadicola</i>
棘皮動物門	クモヒトデ綱	ハナビラクモヒトデ目	スナクモヒトデ科	スナクモヒトデ科	Amphiuridae
尾索動物門	ホヤ綱	マンジュウボヤ目	マンジュウボヤ科	マンジュウボヤ	<i>Aplidium pliciferum</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>
脊椎動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>

令和3年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書

令和4(2022)年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1

電話：0555-72-6033

業務名 令和3年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査業務

請負者 三洋テクノマリン株式会社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町一丁目3番17号



リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。